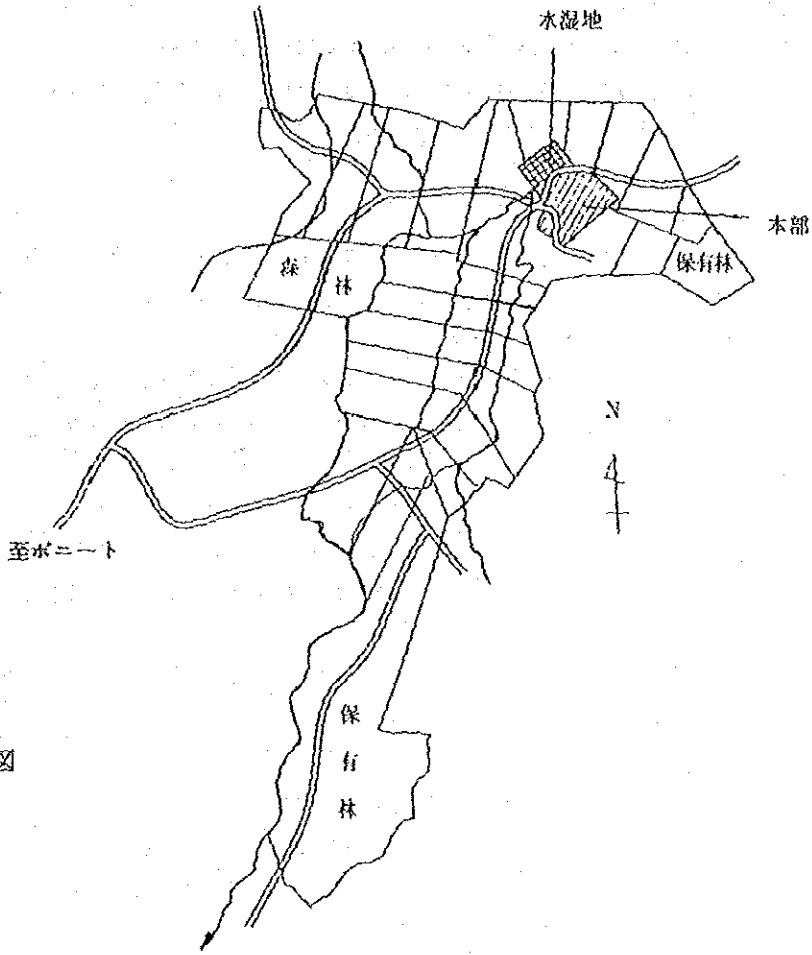
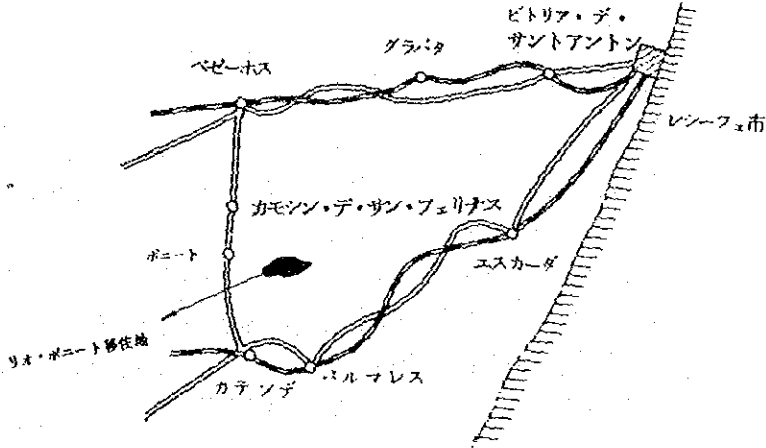


移住地略図



地区略図



## (4) ウナ移住地

所在地	バイーヤ州ウナ郡ウナ移住地 PIC UNA, MUNICÍPIO DA UNA, ESTADO DA BAHIA (註, PIC=PROJETO INTEGRADO DE COLONIZAÇÃOの略)	
面積	5,494 ha	
経緯	1941年バイーヤ州が私有地を買収し、州内農業者の定着を目的として創設した移住地であったが、1949年連邦直営となった。第2次大戦後ブラジルに日本人の移住が再開されてアマゾン地域と時を同じくして最初に日本人移住者が集団入植した移住地である。 1953年より4年に亘り50世帯が入植したが日本人移住者は入植後まもなく一部の煽動者により事件を起し15世帯の離脱者を出し、内10世帯はイツペラ移住地へ、5世帯はジャイーバ移住地へ移転した。	
自然環境	地 質 ・ 土 壤 植 生 ・ 林 相 気 候	形 波状地形、小河川およびその流域低湿地、傾斜地および高台から成る。 低地は有機質に富む土壌。傾斜地および高台地は第三紀層の砂質土または砂質土壌 熱帯降雨林で、林相は密である。 年平均気温22.5℃、平均最高気温25.0℃、平均最低気温20.0℃ 年間降雨量2300mm 雨期4～8月、乾期9～3月
社会環境	主要都市への交通手段 市 場 地区内道路整備状況 電 気 公 共 施 設	ウナ移住地～イタブナ間 砂利舗装道、毎日バス往復 イタブナ～サルバドール間 定期バス毎日ひんばん、所要8～10時間 ウナ～イレウス間 直通道路開通 イタブナ、イレウスに空港あり、移住地内にテコテコ発着場あり。 イタブナ市人口 15.3万人(130km)、ウナ町人口 2.3万人(10km) イレウス市人口 約7.1万人 イタブナ市、ウナ町 良好 センター地区は、ウナ町より送電々化済。またロッテ内は、伯国銀行からの資金導入と事業団の電化助成により1981年に全域が電化した。 (事業団補助額14,681千円) 小学校2、会館1、倉庫1、修理工場1、売店1 移住地内に診療所、薬局があり医師看護婦が常駐している。 小学校(5年生)は地区内にあるが、中学以上の上級学校はウナ町、イタブナ市に、大学はサルバドル市に寄宿・通学している。

入植戸数(と内地員)	年度	1953	1954	1955	1956
	戸数	38	1	4	8
	人員				
	現地入植者				
		23			

主な出身県名：北海道，京都，東京

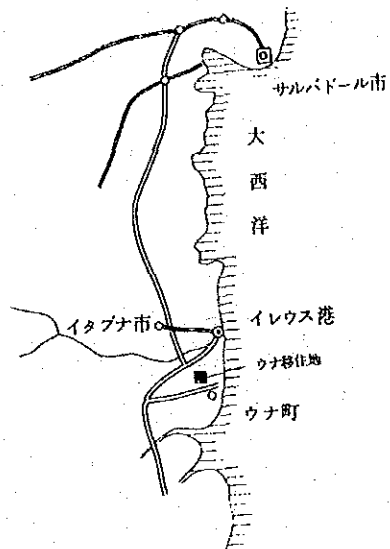
入植世帯数	入植数	入植世帯数		農家戸数	
		戸数	人数	戸数	
	区分	居住	36	173	27
		非居住	-	-	-
日本人	計	36	173	27	

1988年4月1日現在

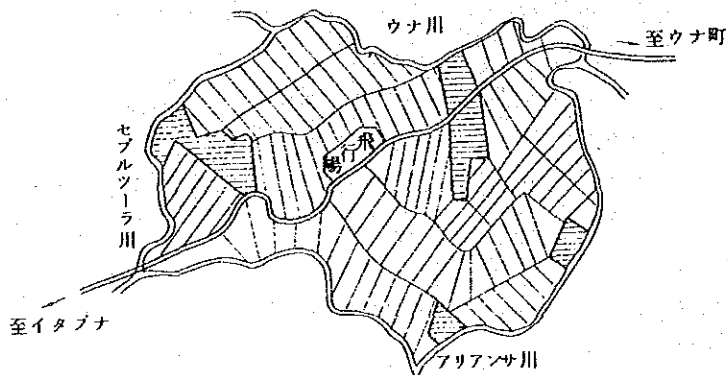
分譲状況	総面積	5.494 ha
	ロッテ面積	30 ha
	分譲条件及び価格	26~40 ha 1ロッテ Cr\$3,000~Cr\$7,000 一括払~10年払 (1975年10月10日現在)
分譲状況 地権取得	分譲状況	満植
	地権取得	分譲契約期日は1975年10月から1976年7月で全戸取得済

農業	主作目態	パラゴム，コンショウ，カカオ パラゴムを主体に，コンショウ，カカオ等を組み合わせた経営，そ菜栽培農家もある。
	農機具普及状況	トラック 0.8台，トラクター 0.6台，耕耘機 0.3台， 動噴 0.7台，他
	営農援護機関	
	営農指導 金融機関	カカオ栽培計画実行委員会 (CEPLAC) 銀行，(ブラジル・南米)
	主作物販売取扱機関	仲介人に庭先販売，ウナ農協
その他	入植当初，植民局（現在の INCRA）よりゴムの栽培が義務づけられた。そのゴムが採液の段階に入って病害におかされ経営的に低迷していたが，その後カカオ，コンショウ，ガラナ等が導入され営農は立ち直った。 また，近年マンゴスチン栽培に着手し，南伯市場で好評。	

地区略図



移住地略図



## (5) カーボ移住地

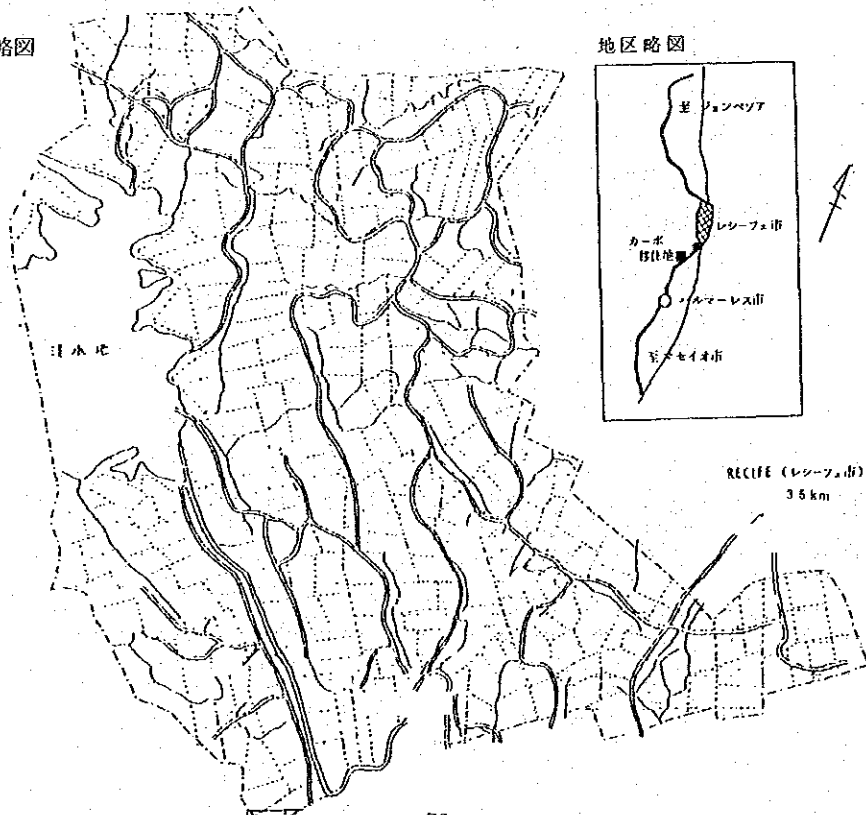
所在地	ペルナンブコ州カーボ郡カーボ移住地 COLONIA CABO, MUNICÍPIO DE CABO, ESTADO DE PERNAMBUCO	
面積	3,500ha	
経緯	ペルナンブコ州政府は、土地を持たない農民に土地を与え生産意欲を向上させるため、1963年レシーフェ南方30kmの不良甘蔗耕地を接収し、州直営の移住地として創設した。 この移住地に対し、ブナウ移住地の転出者、レシーフェ近郊分益農の日本人合計12家族が1964年から66年にかけて入植した。 しかし現在、当移住地で農業を営んでいる者は3戸である。	
自然環境	地 質 ・ 土 壤 植 生 ・ 林 相 気 候	形 標高13m 緩傾斜の起伏に富む。 砂糖キビ廃園跡のやせ地。下層に不透性粘土盤層あり。 砂糖キビ畑の跡地 年平均気温25.3℃、最高平均28.9℃、最低平均21.8℃、 雨量2,094.1mm
社会環境	主要都市への交通手段 市 場 地区内道路整備状況 電 気 飲 料 水 公 共 施 設	移住地入口近くを、レシーフェ〜サルバドール間国道(BR101号線、完全舗装)が通っている。 カーボ市(人口10万人)徒歩20-30分 レシーフェ(130万人)へは35km レシーフェ市、カーボ市 専業農家3戸は自家用車で出荷する程度 整備がおくれており、降雨が続くと車輛の通行が非常に困難となる。 電化済 井戸水および河川水を利用 地区内に小学校が1校ある。日本人子弟はカーボ市の学校へ徒歩通学している。 医療機関はカーボ市、レシーフェ市にある。
入植状況	入 植 累 計 退 耕 累 計 現 在 戸 数	12戸 ブナウ、リオ・ポニート退耕者及びレシーフェ近郊分益農 9戸 レシーフェ市内、サンパウロ州 3戸 7名 (1988年4月)

入植世帯数	入植地		入植世帯数		農家戸数
	区分		戸数	人数	戸数
	日本人	居住	3	7	3
非居住		-	-	-	
計		3	7	3	

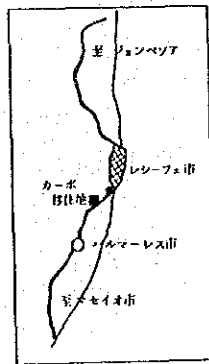
1988年4月1日現在

分譲状況	総面積	3,500 ha
	ロッテ面積	1ロッテ50 ha
農業	分譲条件及び価格	土地代3,300 Cr\$, 据置なし10年分括又は一括払い(同額)
	地権取得	全戸取得済
農業	主作目	蔬菜が中心で一部花卉, ゴヤバ栽培を行なっている。
	形態	不良甘蔗地であっただけに地力に劣るが, 都市に近く地の利を生かした近郊型農業
農業	営農援護機関	
	営農指導	コチア産組他
	金融機関	銀行(南米)

移住地略図



地区略図



RECIFE (レシーフェ市)  
3.5 km

(6) イツベラ移住地

所在地	バイア州 イツベラ郡イツベラ移住地 PIC-ITUBERA, MUNICÍPIO DE ITUBERA, ESTADO DA BAHIA (註 PIC=PROJETO INTEGRADO DE COLONIZAÇÃOの略)							
面積	5,000 ha							
経緯	1954年に州内農業者の定着を目的として創立された州政府の移住地である。1953年日本人の入植は、ウナ移住地の事件で離脱した15世帯のうち、10世帯が入植した。当時この移住地は正式に開設されていなかった。転住後間もなく、マラリヤが流行し猛威をふるったため、8世帯が離脱したが、その後他からの転住者もあり、現在15世帯になっている。							
自然環境	地形	標高160~230m, 起伏の多い山陵地, 水流に恵まれている。						
	地質・土壤	第3紀層砂岩母材, 鉄分の含有が多く壤土ないし砂質壤土。						
	植生・林相	原生林, 再生林あり, 林相は相当厚く有用林も含まれる。						
	気候	最高平均気温27.8℃, 最低平均気温20.2℃, 年間平均気温23.6℃ 雨期2~7月, 乾期8~1月, 平均年間降雨量2,100mm						
社会環境	主要都市への交通手段	移住地よりイツベラ町まで10km, バレンサ市まで52kmで, 州都サルバドール市へは, 西方ガンドウ町を経て国道101号線により通じている。 サルバドール市より国道101号の州道545号分岐点迄250kmおよびバレンサ市までの52kmは完全舗装, バレンサ市および101号道沿いのガンドウ町との間はそれぞれ未舗装であるが, 道路整備は良好である。 イツベラ町0.5万人 バレンサ市6.6万人						
	市場	イツベラ町, バレンサ市, サルバドール市が主な市場である。						
	地区内道路整備状況	砂利道路および盛土である。						
	電気	電化(1982年度。事業団補助5,867千円)						
	飲料水	30m程度掘削すると飲料水が得られるが, 現在は河川水, 湧水を利用している。						
入植戸数と内(地人員)	年度	1953	1957	1969	1970	1971	1973	現地入植者
	戸数	10	6	2	3	1	2	7
	人員							

主な出身県名：福島，福岡，三重，北海道

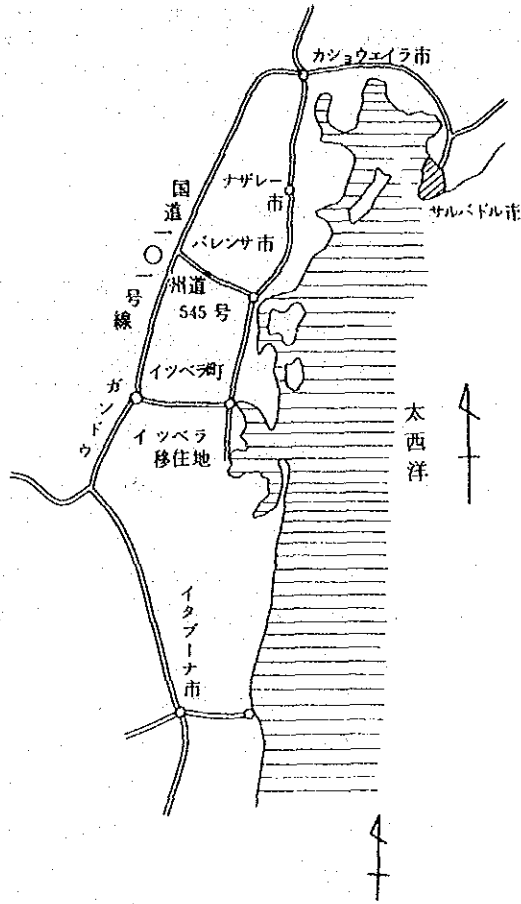
入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
	区分	居住	非居住	計	
日本人		15	75	15	
		10	25	10	
		25	100	25	

1988年4月1日現在

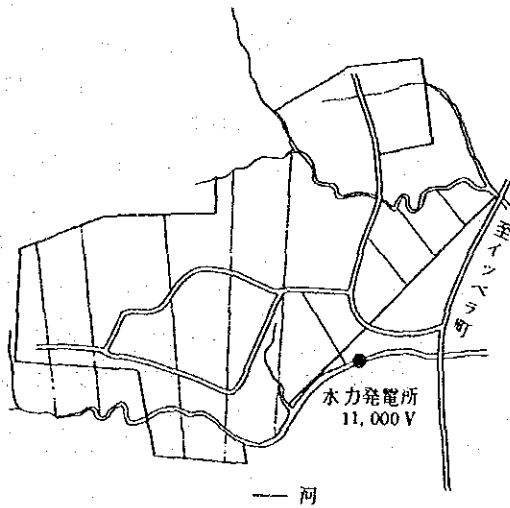
分譲状況	総面積	5,000 ha
	ロッテ面積	25 ha
分譲状況	分譲条件及び価格	25 ha当たり6,500 Cr\$, 5年分割払，一括払可能。 18 ha～25 ha 1ロッテ分譲価格，一括払～20年々賦 Cr\$ 3,000～9,000
	分譲状況	満植
農業	地権取得	全戸取得済
	主作目形	丁字，ハワイマモン，マラクジャ 丁字，ハワイマモン等の複合経営
農業	農機具普及状況	トラクター 0.9台，トラック 1.1台，動噴 0.8台， 耕耘機 0.7台，他
	営農援護機関	
	営農指導	カカオ栽培計画実行委員会 (CEPLAC)
	金融機関	銀行
その他	当移住地は丁字 (チョウジ) 栽培の開発により山本喜誉司賞 (ブラジルにおける農業功労賞) を授賞した余潮清氏とバイア州において胡椒栽培の先鞭をつけた倉谷虎夫氏の二人の篤農家があり，地域の農業をリードしている。また農家経済の安定を図るため熱帯果樹 (マモン等) の導入に意欲的である。 これらの作物は，今や近隣地域のブラジル人の間にも普及され，香辛香料作物生産地の中核となっている。	



地区略図



移住地略図

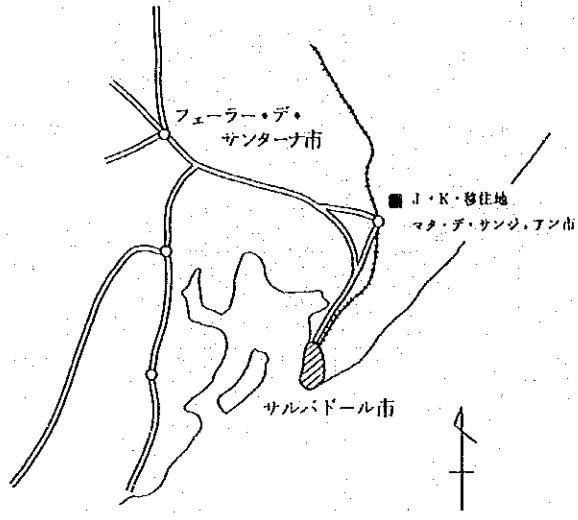


## (7) クビチエック(JK)移住地

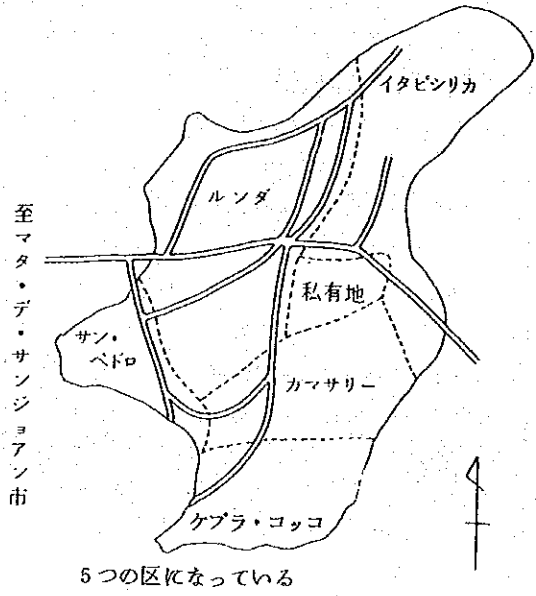
所在地	バイーヤ州マタ・デ・サンジョアン郡ジョッセリーノ・クビチエック移住地 NUCLEO COLONIAL DE JUSCELINO KUBISTCHEK(J,K), MUNICIPIO DE MATA DE SÃO JOÃO, ESTADO DA BAHIA	
面積	4,900 ha	
経緯	サルバドール市およびフェーラー・デ・サンターナ市を中心とした地域への生鮮食糧の供給、州内農業者の定着を目的として、連邦及び州が共営で創設を計画した移住地であるが、他地域の日本人移住者の優秀な成績を知るに及んで、日本人の優秀な農業技術を公開し、バイア州の農業振興をはかるべく考慮し、日本人の導入を追加計画したものである。 日本人の入植は1958年に始まり、今日までに123世帯が入植したが、道路問題、経営不振等により多く転出した。問題の道路は1969年に整備された。現在46世帯が入植している。	
自然環境	地質・土壌 植生・林相 気候	形 標高は90m～100m、緩やかな起伏のある丘陵地 第3紀砂岩母材、植壊土ないし砂壤土 林相は厚く、再生雑木林 最高平均気温28.3℃、最低平均気温22.2℃ 雨期3～8月、乾期9～2月、平均年間降雨量1,800mm
社会環境	主要都市への交通手段 市場 地区内道路整備状況 電気 飲料水 公共施設 事業団援護 自治体農協等 その他	移住地よりマタ・デ・サンジョアン市まで6km、マタ・デ・サンジョアン市～サルバドール市間は鉄道および道路が通じている。道路は舗装され、所要時間約2時間。 サルバドール市(人口150万人)が主な市場である。 砂利道路および盛土であるが、雨期は道路状況が極度に悪化する。なお、事業団より、1975年度道路工事費として2,442千円を補助した。 1979年7月に全域電化済(事業団補助2,053千円) 20m～30m掘削すると飲料水が得られるが、殆んどは河川水、湧水を利用している。 公民館 事務所1、作業所1、診療所1、鶏肉処理場1、種鶏場、飼料配給設備機械一式 地区内に診療所兼病院がある。小学校は地区内4校、中学校はマタ・デ・サンジョアン、高校大学はサルバドール市にあり、学生寮に寄宿して通学している。

入 植 状 況	入植戸数(内地 と人員)	年度	1958	1959	1960	1961	1962	1963	現地 入植者
	戸数		5	49	25	30		1	3
	人員								
主な出身県名：愛媛、長崎、福岡、青森、鹿児島、新潟、宮城									
入 植 世 帯 数	入植数		入植世帯数		農家戸数				
	区分		戸数	人数	戸数				
	日本人	居住	52	261	46				
		非居住	-	-	-				
計		52	261	46					
1988年4月1日現在									
分 譲 状 況	総面積	4,900 ha							
	ロッテ面積	イタビシリカ地区25 ha, ルンダ地区20 ha							
農 業	分譲条件及び価格	Cr\$400~500 2年据置 10年分割払							
	分譲状況	全ロッテ分譲済							
	地権取得	全戸取得済							
農 業	主作目 形 態	バラ, キク, キュウリ バラ, キク, グラジオラス等の花卉栽培を主体にキュウリ, ピーマン, インゲン等の蔬菜等を組み合わせた経営							
	農機具普及状況	トラック 0.7台, トラクター 0.7台, 動噴 0.9台, 給水管 129.8 (1986年度農家経済調査結果)							
	家畜飼養頭数	肉牛(成2.3頭・仔0.5頭), 豚(成1.1頭・仔6.3頭)							
	営農支援機関	コチア産組 他							
	営農指導 金融機関	銀行, 南銀							
	主作物販売取扱機関	仲買業を営む移住者子弟が仲買し, サルバドールCEASAに出荷する。							
そ の 他	一時蔬菜栽培, 特にトマトが中心であったため, 市場において入植者間の競争となり営農不振であったが, 近年では花卉栽培や果樹, 畜産を取り入れている。又, 椎茸栽培も研究中である。								

地区略図



移住地略図

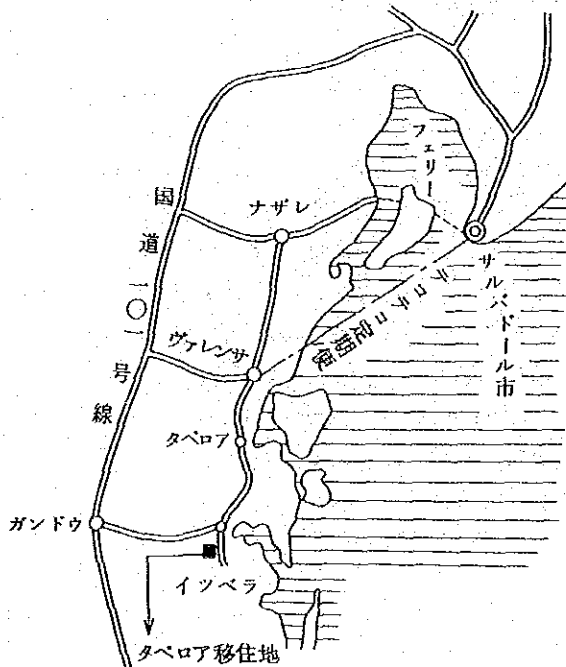


## (8) タペロア移住地

所在地	バイア州タペロア郡 MUNICÍPIO DA TAPEROA, ESTADO DA BAHIA	
面積	1.500ha	
経緯	<p>ベレーン支部管内第1トメアスー移住地に入植していた一部農家が、同移住地に胡椒の病害が大発生したため、新しい胡椒栽培地を求めて各地を調査した結果、当移住地と同一自然条件下のイツペラ移住地で胡椒、丁字が立派に栽培されているのを見て、第1トメアスー移住者を中心とする転住者のみによって形成された移住地である。</p> <p>当初胡椒を中心として営農を進めていたが、同地へトメアスーから搬入した胡椒の根腐病が大発生したため胡椒栽培に見切りをつけ、丁字、カカオ、グアラナ、ハワイマモンに転換し従来の胡椒単作営農から香料科作物と熱帯果樹を取り入れた複合営農を進めている。将来的には香料作物の一大生産地帯の形成が考えられるが、専門知識・技術が不足していること、販売ルートの未整備等から営農指導の必要性が増大している。</p> <p>現在入植者数は、第1トメアスー移住地からの入植者と他地域からの入植者を加えて、日本人33戸が入植している。</p>	
自然環境	地形	海岸山脈標高40~180mにあり、流水に恵まれている。
	地質・土壌	壤土、ラトゾールの大型粒状をもつ、土壌構造はきわめてよいが肥沃地でない。
	植生・林相	原生林、再生林あり、林相は相当厚く有用材も含まれている。
	気候	イツペラ移住地と同様
社会環境	主要都市への交通手段	州都サルバドール市より国道101号線と州道545号分岐点迄250kmは完全舗装、州道545号によるバレンサ市(人口66万人)経由タペロア間24kmは未舗装であるが道路整備は良好である。サルバドール~バレンサ間は1日3~4回のバス便あり。1日4便のエア・タクシーの便もある。
	市場	バレンサ市、サルバドール市が主な市場である。
	地区内道路整備状況	砂利道および盛土である。1974年度、州道路局が道路舗装を実施したため、極めて良好。近い将来国道に直結する計画がある。
	電気・飲料水	目下電化計画中であり、農耕地迄は導入されていない。近い将来バレンサ市より引込みの計画がある。電力および飲料水については、大部分の者がタペロア市内に居住していることから完備している。
	公共施設	公民館

入植者 (内地) 戸数 人員	年 度	現 地 入植者
	戸 数	3 3
	人 員	1 6 5
<p>主な出身県名：宮城, 青森, 山形, 福岡, 大分, 北海道</p> <p style="text-align: right;">1988年4月1日現在</p>		
分譲 状況	総 面 積	1,500 ha
	ロ ッ テ 面 積	30~130 ha
	分譲条件および価格	平均3,000~4,000 Cr\$/ha
	分譲可能面積	個人取引による(タペロア移住地は集団化による任意移住地)
	地 権 取 得	全戸取得済
農 業	主 作 目	ガラナ, 丁字, ハワイマモン
	農 業 形 態	ガラナ, 丁字等香料作物を主体にハワイマモンを組み合わせた経営
	農機具普及状況	トラクタ 0.9台, 動噴 0.6台, 脱粒機 0.3台, 他
	家畜飼養頭数	
	営農援護期間	
	営農指導	カカオ栽培計画実行委員会(CEPLAC)
	金融機関	銀行

地区略図



## (9) その他主な移住地の概況

入植地名	州名	入植者数		農家 戸数	備考
		戸数	人数		
チャンガー	セアラ	5	18	5	散在住集団、野菜、果樹
ガビラーバ	ベルナンブコ	3	6	2	州計画移住地、野菜、果樹
南パイア		125	465	119	散在住集団、コチア生産団地
テイシェイラデフレイクス	パイア	70	245	65	ハワイマモン 野菜 フェイジョン 牧畜
ジュエラーナ、カラベラス	"	28	112	28	" " " "
ポストデマッタ	"	27	108	26	" " " "
サンフランシスコ中流域		62	220	48	
グラサー	パイア	29	87	29	CODEVASF管轄(コチア産組委託管理)プロジェクト
マニソーバ	"	5	15	5	" メロン 果樹 マモン
サリトレ	"	9	30	9	" " " "
カザノーバ	"	5	18	5	散在 " " "
ジュアゼイロ、ベトリーナ	パイア ベルナンブコ	14	70	3	散在住集団 " " "
					サンフランシスコ中流域における日系農家の増加は爆発的で新情報によると既に86戸(350名)を数える。
西パイア					
バレイラス	パイア	250	1,200	240	サンパウロ、パラナ方面から、主に、コチア組合員を主体に入植しており、大型農業経営に取り組み今後も更に増加の見込み。





### Ⅲ サン・パウロ事務所



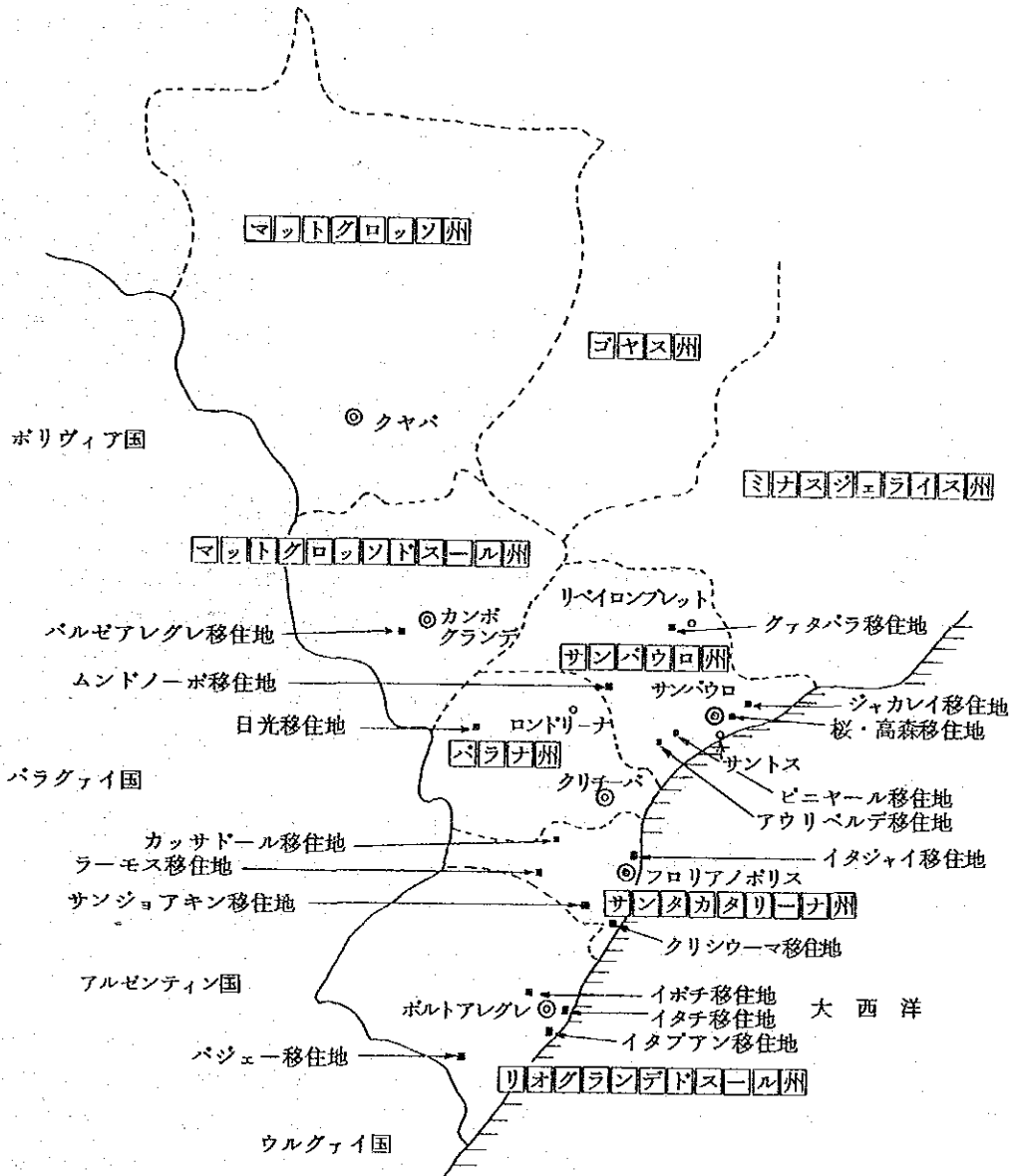
# ■ サンパウロ事務所

## 事務所機構

サンパウロ事務所(サンパウロ市) - ボルト・アレグレ支所(ボルト・アレグレ市)

## 管轄州

サンパウロ州, パラナ州, マット・グロッソ州, マット・グロッソ・ド・スール州, リオ・グランデ・ド・スール州, サンタ・カタリーナ州, ミナス・ジェライス州の一部, ゴヤス州の一部



# 1. 移住地所在地の概要

## (1) サンパウロ州の概要

<p>州移 内住 主要地</p>	<p>ジャカレイ, グァタバラ, ビニヤール, ムンド・ノーボ 桜・高森, アウリベルデ</p>
<p>概</p>	<p>面積 247,898 km<sup>2</sup>    人口 25,040,712人    人口密度 101.25人/km<sup>2</sup> (1980年国勢調査結果。1988年3月現在推定人口約3,209万人) サンパウロ州は南部地方に位置するブラジルの代表的な州の一つで北部はミナス・ジュライス、リオ・デ・ジャネイロ、西部はマット・グロッソ・ド・スール、南部はパラナの各州と境界を接し東部は大西洋に面している。 地勢は東部海岸に沿ってマール山脈が縦断し、東部帯は標高500~1,000mの高地を形成し、パラナ川流域では標高400m内外の中高の台地となっている。マール山脈は海岸に押しせまり標高1,000mを越える山脈がそびえ立っている。このマール山脈と平行してミナス・ジュライス州との境にはマンチケイラ山脈が横たわり、部分的に1,500m以上の高地を形成している。この中にあるカンボス・ジョルдонは標高1,740m、ブラジルの最も高所にある都市の一つである。サンパウロ州の河川の多くは、こうした地勢のため海岸側から奥地へ向かって流れるという一見逆の現象が見られる。西部のパラナ川にそそぐ主な河川にはチエテ(1,112 km)、ベイシェ(500 km)等があり南部海岸を流れるものにはイグアッペがある。バライーバ川は一度西流、グアラレーマ附近にて反転東行してリオ・デ・ジャネイロ州北部から大西洋にそそぐ。</p>
<p>要</p>	<p>これら河川は航行とともに発電にも利用されチエテ川だけでも大小10カ以上の発電所が設けられている。 地質は大部分が二疊紀及び三疊紀系の沈積岩石層で砂岩、変岩、石灰岩などの入りまじった二疊紀が最も広い部分を占め、玄武岩、輝緑岩より成る三疊紀系は主に北部にあらわれており、これからできた土壌テラ・ロッシュャは肥沃で知られ、農耕に適している。マール山脈及びマンチケイラ山脈は主として、片麻岩より成り太古代(約10億年前)の造陸運動でできたものと見られる。 気候は、州南部を南回帰線が横切り全体的に亜熱帯性で温暖であるが、東部の高原地帯に比べ西部のパラナ川沿岸地方での気温はかなり高い。 州都サンパウロにおける年間平均気温は18℃、最高月(2月)22.3℃、最低月(7月)14.3℃で年間を通じ気温差は8℃、四季の変化がはっきり感じられる。夏期最高気温は35℃を超えることも珍しくなく、冬期にはときどき降雨を見ることがあるが結氷することは殆んどない。</p>
<p>産 業</p>	<p>〔農業〕 サンパウロ州の農業はコーヒー栽培が勃興するまで、ほとんど見るべきものがなかったがコーヒー産業の発展とこれともなり商工業の進歩によって、たちまち農業の大中心地となった。その後各種農作物が栽培されるようになったがそれでもコーヒーの生産量はここ数年、ミナスジュライス州について第二位にある。その他の主な農産物は綿花、米、トウモロコシ、大豆、落花生等がある。</p>

産  業	<p>また、農業における日系人の功績は大きく、日系人により開発栽培されている作物も少ない。農業と並行して牧畜養鶏も盛んで、サンパウロ市近郊では乳牛の飼育が盛んである。養鶏は日系人が中心となり、鶏卵の生産高は全国最高となっている。</p> <p>〔鉱業〕 大量の燐灰石及び白雲石を産するほか燐鉍、鉛鉍、石棉、ポーキサイトなどを産出する。</p> <p>〔工業〕 サンパウロ州はブラジルで最も工業の発達した州で、ことにサンパウロ市とその付近には鉄鋼、自動車、機械、化学、繊維、食品などあらゆる種類の工場が密集し、ラテン・アメリカ最大の工業地帯を作り出している。</p>
主  要  都  市	<p>サンパウロ市 人口8,493,226人(1980年国勢調査結果。1988年3月現在推定人口約1,006万人)、サンパウロ州の州都、1554年1月25日マヌエル・デ・ノブレガ、ジョゼ・デ・アンジュッタ等イエズス会修道士によって創設せられたブラジル第一の都市で、海拔760mの高原にある。</p> <p>ブラジル経済の中心であり、自動車工業を始め各種の近代工業が付近に集中しており南米で最も発展の速度の速い都市といわれる。</p> <p>日系人数も多く日本からの進出商社、企業も多い。</p> <p>サントス市 人口416,681人(1980年国勢調査結果。1988年3月現在推定人口約46万人)、サンパウロの門戸をなし、ブラジル最大の輸出入港でコーヒー積出港として世界的に有名である。港は外海から屈曲したグァルジャ水道を約5kmのぼった奥にある。</p> <p>隣接のサンピンセンテ(Sao Vicente)は1532年建設されたブラジル最古の植民地であったが現在は海水浴客で賑わり観光地となっている。</p>

(2) マット・グロッソ・ド・スール州の概要

州内移住地	バルゼア・アレグレ
概要	<p>面積 350,548 km<sup>2</sup>、人口 1,369,567 人、人口密度 3.91 人/km<sup>2</sup>          (1980 年国勢調査結果。1988 年 9 月現在推定人口約 173 万人)。マット・グロッソ・ド・スール州は 1979 年 1 月にマット・グロッソ州より分離独立し、全土に占める割合は 4.2%。</p> <p>中西部地区に属し、北部はマット・グロッソ州、東部はゴヤス及びミナス・ジュライス州のごく一部、南部はサンパウロ、パラナ州及びパラグアイ国、西部はポリヴィア、パラグアイ国と境界を接している。</p> <p>地勢は州中央部にて標高約 500 m のマラカジュ山脈が分水嶺をなし、これにより西部はパラグアイ川、東部はパラナ川方面に緩傾斜している。</p> <p>西部にはアマンバイ山脈がパラグアイ国境に接して南下している。西北部にはパラグアイ川及びその支流流域に標高 100 m のパンタナルと呼ばれる湿地帯が広がっており毎年雨期には氾濫する。</p> <p>東西両側を流れるパラナ、パラグアイ川は航行の便があり、またパラナ川にはジュピアー、ウルブンガの 2 大発電所が設けられている。</p> <p>気候は熱帯サバンナに属し、全体に高温多湿で州都のカンボ・グランデ(標高 542 m)における年平均気温は 22.4℃ 最高月 31.1℃(10 月) 最低月 14.8℃(7 月) 年平均湿度 71% である。3~8 月が乾期、9~2 月が雨期となっており特に 12 月に降雨が多い。年平均降雨量は 1,827.1 mm である。</p> <p>パラグアイ川沿いのコロンバ(標高 116 m) で年平均 25.1℃ 最高月(12 月) 27.4℃ 最低月(7 月) 21.4℃、平均湿度 73%、パラナ川沿いのトレス・ラゴアス(標高 313 m) では年平均 23.1℃、最高月 25.8℃(12 月)、最低月 18.8℃(7 月)、年平均湿度 75% となっている。</p>
農業	<p>〔農業〕</p> <p>西北部のパンタナル及び南部地方では牧畜が盛んで、'85 年度生産高は第三位(全国比 11.7%) である。その他南部地方では畑作が盛んで大豆、小麦、南京豆、棉花、トウモロコシ、マンジョカ等が主作物である。</p> <p>〔工業〕</p> <p>カンボ・グランデを中心に幾分の発展が見られる。主な工業生産物は鋼塊、セメント、石灰等である。</p> <p>〔鉱業〕</p> <p>コロンバ附近のウルクンに豊富な鉄鉱及びマンガン鉱があり、すでに採掘が行なわれている。</p>

主要都市	<p>カンボ・グランデ市</p> <p>人口291,777人(1980年国勢調査結果。1985年9月現在推定人口約34万人), 標高532m          マット・グロッソ・ド・スール州の州都。同市の創立は1889年8月で, 農産物の集散地であり近隣地方が発展するにつれて人口が増加し, 1970年頃から急速な発展を遂げ, 79年1月から州都となった。</p>
------	--

(3) パラナ州の概要

州内移の住主地	<p>日 光</p>
概	<p>面積199,554 km<sup>2</sup>, 人口7,629,392人, 人口密度38.33人/km<sup>2</sup>(1980年国勢調査結果。1987年9月現在推定人口約873万人)。</p> <p>パラナ州はブラジルの南部地方に属し, 北部はサンパウロ州, 西部はパラグアイ及びマット・グロッソ・ド・スール州, 南部はサンタ・カタリーナ州に囲まれ東部は狭く大西洋に面している。</p> <p>地勢は南部をマール山脈, 中部をゼラール山脈が縦断しパラナ川流域を除き, 全体が500~1,000mの高原で部分的には1,000mを越える高地がある。</p> <p>クリチーバにおける標高は935m, ボンダ・グロッサ967m, アブカラーナ820m, グアラブアーバ1,098mで最高地はセーラ・ダ・カナビエイラの1,555mである。ゼラール山脈はエスベランサ, ビキリなど無数の小山脈に分かれている。河川のほとんどはラ・プラタ河系に属しパラナ河へ流れてる。イグアス川には, 巨大な滝がある。これらの河川は航行, 発電に利用されている。東部は天然の良港でパラナグア港がある。</p> <p>パラナ州の地質は, 二疊紀系及び三疊紀系の沈積岩石層と, 海岸線の沖積層からなり, 特に中西部に広がる三疊紀系の玄武岩台地は世界最大のものでこれからできた土壌テーラ・ロッシュャは肥沃で最も農業に適している。</p> <p>気候は北部地方を除き全体に温帯性で, ブラジルで最も適した地域と言われる。クリチーバにおける年間平均気温は16.2℃, 最高月(1月)平均20.1℃, 最低月(7月)11.9℃であるが, 冬期に氷点下以下になることも珍しくない。南部のバルマスではこれより低く年間平均15.2℃で冬期には降霜, 結氷のほかにはしばしば降雪をみる。北部地方の気温は南部より高いが同じく冬期にはしばしば降霜を見る。雨量はクリチーバで1,352mm, バルマスで1,904mm, 全体に1,500~2,000mmである。9月~3月が雨期で, 平均して1月~2月が最も多い。4月~8月は乾期で6月~8月は最も少い。また, 中南部高原にはアラウカリア(パラナ松)による独特の植物相がみられ, 地方の風光に大きな特徴を与えている。</p>
要	





産	<p>約農業（ブドウ、桃等温帯果樹及び蔬菜類、花卉等）が多い。</p> <p>生産量から見れば、リオ・グランデ・ド・スール州の米はブラジルの13%を生産する。(1986年度)</p> <p>〔工業〕</p> <p>企業数においてはリオ・グランデ・ド・スール州はサンパウロ、リオ、ミナスに次いで4位、サンタ・カタリーナ州は7位を占めている。皮革工業、金属加工細工業、機械化学工業、繊維工業、食糧品加工工業、ブドウ酒製造業等が盛んでヨーロッパ系移住者が母国の技術を移転し発展させた分野が多く多角的である。企業規模は零細企業が多く、従業員が100名未満のものが95%をしめている。</p> <p>〔鉱業〕</p> <p>石炭はサンタ・カタリーナ州がブラジル総生産額の79.6%を、リオ・グランデ・ド・スール州が18.5%強を産出している(1985年)。リオ・グランデ・ド・スール州では銅(ブラジルの25.6%以上)、及び黄水晶、木化石等も産出している。</p>
主 要 都 市	<p>ポルト・アレグレ市</p> <p>人口1,125,477人(1980年国勢調査結果。1988年9月現在推定人口約127万人)、リオ・グランデ・ド・スール州の主都、パトス湖の北端グァイバ河口の西岸(南緯30°01'53")に位置する。</p> <p>1752年以降ポルトガル(系)人が大西洋上のポルトガル領アソーレス島から移住、1824年以降は中央ヨーロッパ系(ドイツ人、イタリア人、ポーランド人、スペイン人)が移住してきており、人種のモザイク都市となっている。</p> <p>ポルト・アレグレは1724年に創設され、ポルト・ドス・カザイスと呼ばれていたが、1772年に町造りが始められ1773年に現在の市名ポルト・アレグレと改称され、1810年に政庁が置かれ州都に昇格している。</p> <p>グァイバ河、ジャクイ河、シーノス河及びカイ河が合流し、グァイバ湾となっておりパトス湖に連っていて、水路の要衝に位置していること、外国人が移住してきたこと及び鉄道が敷設された等もあって工業化が促進され南部ブラジルの政治、経済、文化の中心となっている。</p> <p>気候は温帯的で年間平均気温は19℃と温暖であるが、標高が15mと低いゆえに、パトス湖の影響を受けて夏は非常にむし暑い。</p>

## 2. 移住地の概要

### (1) ジャカレイ移住地

所在地	サンパウロ州ジャカレイ郡 COLONIA JACAREÍ, MUNICÍPIO DE JACAREÍ, ESTADO DE SÃO PAULO 州都サンパウロ市より67km	
面積	613 ha	
経緯	蔬菜、果樹、養鶏等を中心とした近郊農業を行う移住者の受入地として1959年に旧日本海外移住振興株式会社が取得・造成した移住地である。移住者の受入れは1960年から始まり、現在32戸が入植定住している。	
自然環境	地形	北部および南東部に40~130mの丘陵がある。この丘陵に挟まれた中央部は盆地でパラテイ河が貫流している。標高530~570m
	地質・土壌	丘陵地：花崗岩系、砂壤土および壤土 低地：沖積性埴壤土
	植生・林相	丘陵地、果樹園、低地は蔬菜用地
	気候	年平均気温 19.5℃ 年間降雨量 1,215.9mm 乾期4~9月 雨期10~3月 年により降霜あり
社会環境	主要都市への交通手段	移住地入口から各都市への道路は完全舗装で、バス便はひんばんにある。 ジャカレイ市 人口約 11万人、距離約 8km サンパウロ市 " 1,000万人、距離約 67km モジ・ダス・クルーゼス市 " 13万人、距離約 40km
	市場	サンパウロ市、リオ・デ・ジャネイロ市及びサン・ジョゼ・ドス・カンポス市の青果市場等。
	地区内道路整備状況	1981年度に事業団補助（総額11,408千円）により道路整備を行ない良好となった。
	電気	1971年度事業団補助により電化（補助額5,635千円）
	放料水	素掘井戸で水質は良好である。
	公共施設	
	事業団援護	公民館（1981年9月完成）（補助額9,758千円） ジャカレイ小学校（教師5名、生徒147名、内日系人20名） （1988年4月末現在）、教員宿舎（日語教師が利用）
	その他	中学、高校、病院等はジャカレイ市内の施設を利用している。

入植戸数と地 (内)	年 度	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969
	戸 数	33	2					1			
	人 員	176	9					4			
	年 度	1970	1971	1972	1973	1974	現地入植				
	戸 数					1	32				
	人 員					6	165				

主な出身県名：長野，熊本，広島，山形

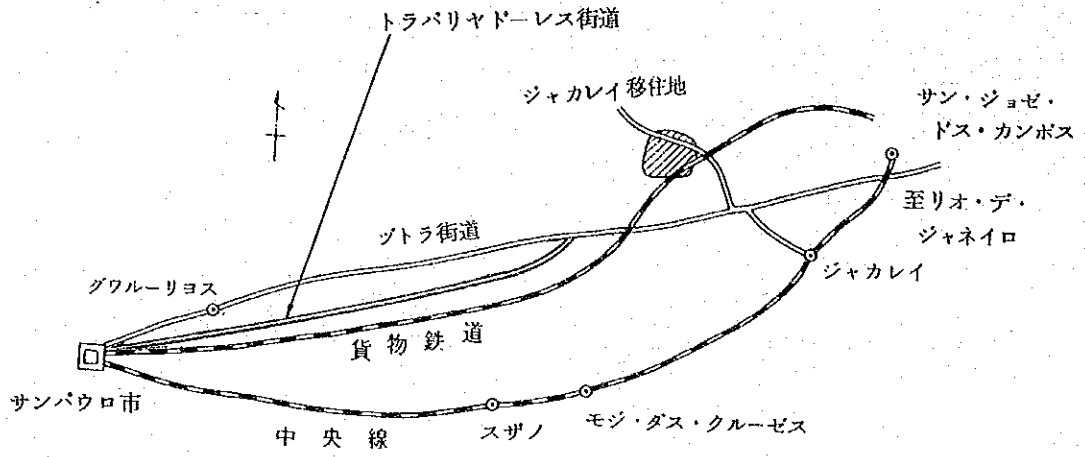
入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
			戸 数	人 数	戸 数
	日 本 人	居 住	32	187	26
		非 居 住	2	不明	0
		計	34	187	26
現 地 人		23	不明	0	

1988年4月1日現在

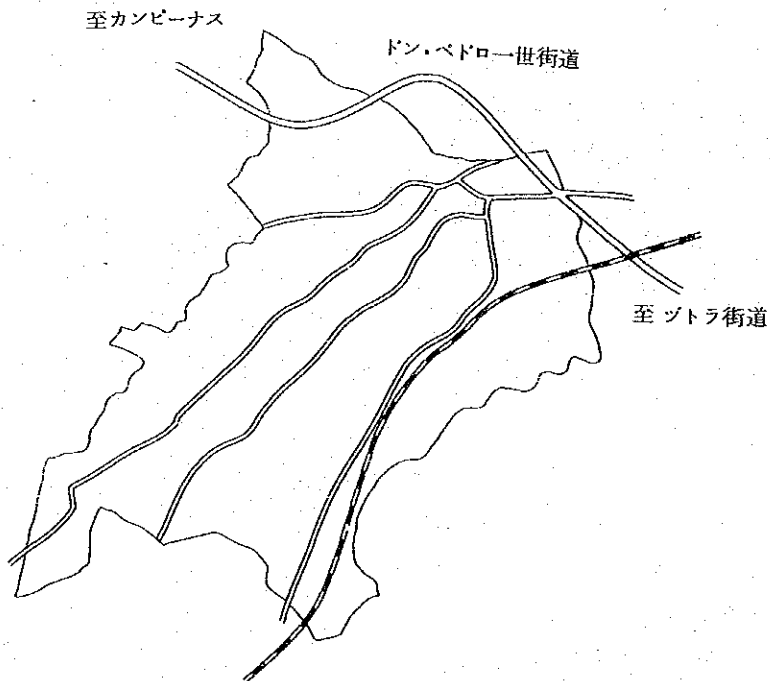
分譲状況	総面積	613 ha			
	ロ ッ テ 面積	5.9～8.2 ha (平均6 ha)			
	分譲条件及び価格	一括払864千円 分割払いは頭金10%以上4年据置5年均等払い。但し土地代金額について全期間年12%の利息を加算する。			
	分譲可能面積	559 ha (87ロット)			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	旧農業移住センター	
	559 ha	0	25 ha	29 ha	
地権発給	87全ロット発給済				1988年4月末現在

農業	主 作 目	養鶏，花卉（バラ，キク，グラジオラス）
	形 態	養鶏，花卉を主体とした都市近郊型農業
	農機具普及状況	トラクター0.6台，トラック0.5台，耕耘機0.6台
	家畜飼養頭数	豚8頭
	営農援護機関	
	営農指導	コチア産業組合
	金融機関	銀行，組合
主作物販売取扱機関	コチア産業組合	

地区略図



移住地略図



## (2) グェタバラ移住地

所在地	サンパウロ州リベイロン・プレット郡 NUCLEO COLONIAL GUATAPARA, RIBEIRÃO PRETO, ESTADO DO SÃO PAULO	
面積	7,294 ha	
経緯	<p>当初、全国拓植農協連が山形、茨城、長野、岡山、山口、鳥根、佐賀の7県（各県拓連）から資金的協力を得、コチア産組と協約してグェタバラ耕地の一部を購入することとして、旧移住振興会社に代理取得を依頼した。その後、造成、分譲に関するすべての事業を移住振興会社が行うことになり、全拓連、コチア産組はそれぞれ日本国内と伯国内でのあっせんおよび指導、生産物の販売等で協力することとなった。移住は1961年から開始されたが、移住者は当初前記7県からあっせんされた。（後全国対象にあっせんが行なわれたが7県以外からの内地移住者はない）</p> <p>営農は低地を利用しての水田および蔬菜作と、丘地を利用しての柑橘、雑作栽培を予定したが、必ずしも順調に進展せず、現在では営農型態が変り養鶏、養蚕、果樹の導入がはかれ、これらの組み合わせで進められている。入植定住者は115戸である。</p>	
自然環境	地 形	約60%が大波状形丘地、40%がセジグワス河の低地である。 標高510～581m
	地 質・土 壤	丘地は輝緑岩および砂岩の風化土壌より成るテラロシアマスツラータ pH4～4.5
	植 生・林 相	丘地：小灌木林または草地 低地：河に沿って原生林密生
	気 候	年平均気温22.6℃ 平均最高気温31.8℃ 平均最低気温13.3℃ 年間雨量1,128mm 雨期10月～3月 乾期4月～9月
社会環境	主要都市への交通手段	<p>移住地～リベイロン・プレット市間 急行バス等頻繁 所要時間1時間</p> <p>リベイロン・プレット～サン・パウロ市間 急行バス等頻繁 所要時間5時間</p> <p>グアタバラ町～サンパウロ市間 鉄道 約7時間</p> <p>グアタバラ町 人口約 3万人 距離約 12km</p> <p>リベイロン・プレット市 " 32 " " 35km</p> <p>アララクアラ市 " 8 " " 35km</p> <p>サンカルロス市 " 12 " " 45km</p> <p>リオクラロー市 " 11 " " 110km</p> <p>サンパウロ市 " 1,000 " " 285km</p>

市場	サンパウロ市, リベロン・プレット市, その他周辺の各都市 主として共同出荷であるが一部個人出荷および庭先販売
地区内道路整備状況	幹線道路が州道となり, アスファルト化され良好となった。その他, 丘地道路は事業団補助及び毎年の入植者負担により整備され良好である。 低地道路は基盤が泥炭層のため雨期には劣悪となる。
電気	1969年度事業団補助により電化完成。(補助額10,318千円) その後交換分合により移転した丘地の一部は未電化。
飲料水	主として自家用井戸(15m位)による。一部共同簡易水道。 公共施設用水は深井戸(120m位), 1970年度事業団補助により建設
公共施設	
事業団援護	グアタバラ小学校(教師4名, 生徒151名, 内日系人115名) 警察官派出所, 公民館(1982年3月完成)
組合等	コチア産組事務所, 販売所, 飼料配合所, 野球場 全拓連農場並びに各種建物施設
その他	歯科医は週に一回, リベロン・プレット市より往診している。 隣接農場(フェンダ・グアタバラ)には医師が常駐している。 中学以上の上級学校はリベロン・プレット市に通学。

入植戸数(内地)	年度	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969
	戸数	16	26	40	32	1				
	人員	83	136	210	146	5				
	年度	1970	1971	1972	現地入植					
	戸数			11	36					
	人員			48	176					

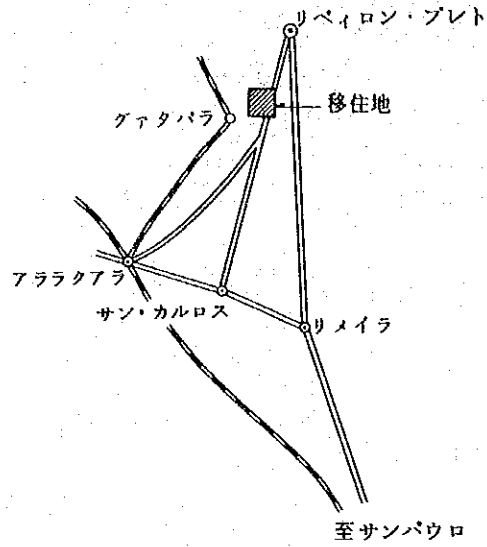
主な出身県名: 茨城, 山形, 長野, 島根, 岡山, 山口, 佐賀

入植世帯数	区分		入植数		入植世帯数	農家戸数
			戸数	人数	戸数	戸数
	日本人	居住	115	652	95	95
		非居住	0	0	0	0
		計	115	652	95	95
	現地人	23	121	16	16	

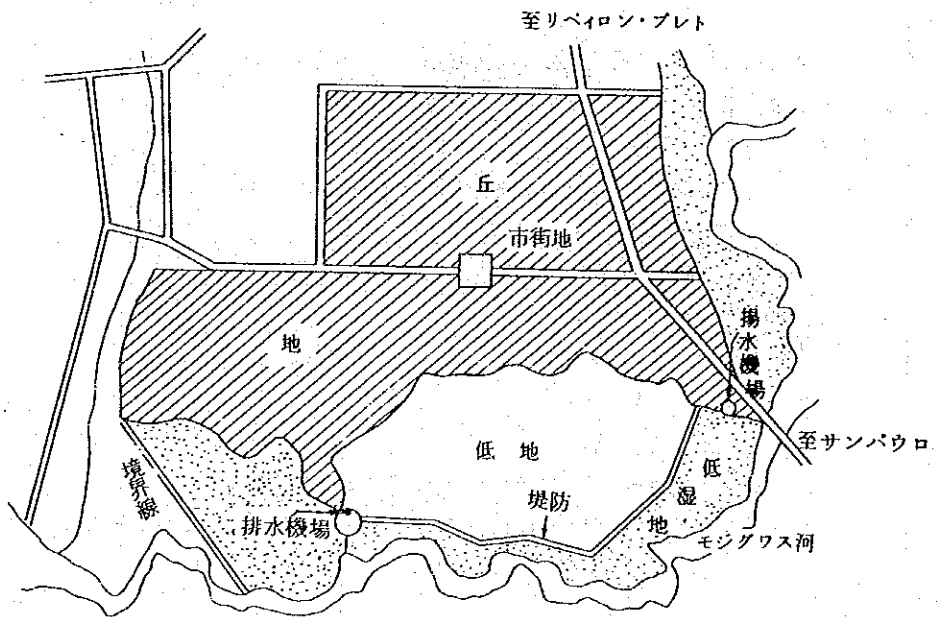
1988年4月1日現在

分譲状況	総面積	7,294 ha
	ロッテ面積	低地3 ha 丘地2~6 ha
分譲条件及び価格	一括払	90~1,122千円(丘地), 2.5~269.5千円(低地)
	分割払	(頭金50%以上残額は丘地1年後払, 低地8カ月後払, 利息12% 市街地 一括払い384千円, 分割払(頭金50%据置なし, 1年後払 利息12%)
分譲状況		6,768 ha (1,254 ロッテ, 全拓連分譲地750 ha 含)
地権発給		(1985年3月末現在)
		(1988年3月末現在)
農業	主作目	鶏卵, マユ, 水稻, 雑作(大豆)
	形態	養鶏, 養蚕, 及び米作の専業及びこれらを組み合わせた営農
	農機具普及状況	トラクター1.5台, トラック0.2台(1982年度農家経済調査結果)
	家畜飼養頭数	豚(成5.8頭・仔3.3頭)(1982年度農家経済調査結果)
	営農援護機関	
	営農指導	カンピーナス農業研究所, ビランカーバ農大等研究機関, 並びにコチア産業組合 ブラ拓製糸等
	金融機関	銀行, 組合
	主作物販売取扱機関	鶏卵: コチア産業組合 マユ: ブラ拓製糸 果樹: 各種加工場 米: 庭先販売
	その他	入植当初, 営農は低地を利用しての水田及び蔬菜作と丘地を利用しての柑橘, 雑作栽培を予定したが, 必ずしも順調に進展せず, 現在は養鶏, 養蚕及び稲作のいわゆる三白農業を3本柱として進められている。

地区略図



移住地略図





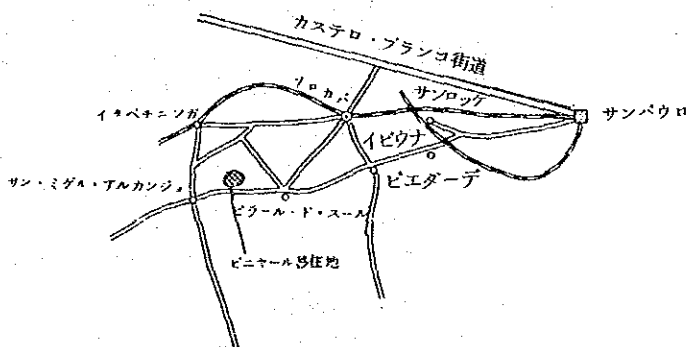
## (8) ビニヤール移住地

所在地	サンパウロ州サン・ミゲル・アルカンジョ郡 FAZENDA DO PINHAL MUNICÍPIO DE SÃO MIGUEL ARCANJO, ESTADO DE SÃO PAULO	
面積	755 ha	
経緯	蔬菜, 果樹, 養鶏を中心とした近郊農業を行う移住者の受入地として, 1962年旧日本海外移住振興株式会社が取得, 造成した移住地である。この移住地の指導には事業団の依頼を受けて南伯産業組合中央会があたっている。現在の入植戸数は53戸である。	
自然環境	地 形	緩波状形, 丘陵部はやや平坦その他はゆるやかな傾斜(5~7°)標高660~735 m。 小川数本あり。
	地質・土壌	頁岩を母材とする土壌で埴壤土が主体。丘陵部にテラ・ロッサ系の土壌が部分的にある。
	植生・林相	40%が再生林, 20%が灌木林, 40%が畑地および放牧地。
	気 候	年平均気温18.1℃ 平均最高気温26.9℃ 平均最低気温7.2℃ 年間雨量1,293 mm 雨期12~4月 乾期5~11月
社会環境	主要都市への交通手段	移住地~各都市間 バス便頻繁 サンパウロ市より国道経由で1981年に, 移住地入口附近を通るアスファルト道路が開通して, 便利になった。 所要時間 車で2時間半, バスで4時間
	市 場	サンパウロ市 人口約 1,000 万人 距離約 163 Km イタベチニンガ市 # 7 万人 60 Km ソロカバ市 # 27 万人 100 Km ピエーデ市 # 2 万人 80 Km ピラル・ド・スール # 1 万人 22 Km サン・ミゲル・アルカンジョ市 # 1 万人 20 Km
	地区内道路整備状況	主としてサンパウロ市, その他近隣都市 全部土道であるが, 1980年度事業団補助(総額7,925千円)により道路整備され良好となった。
	電 気	1970年度事業団補助により電化(補助額9,782千円)

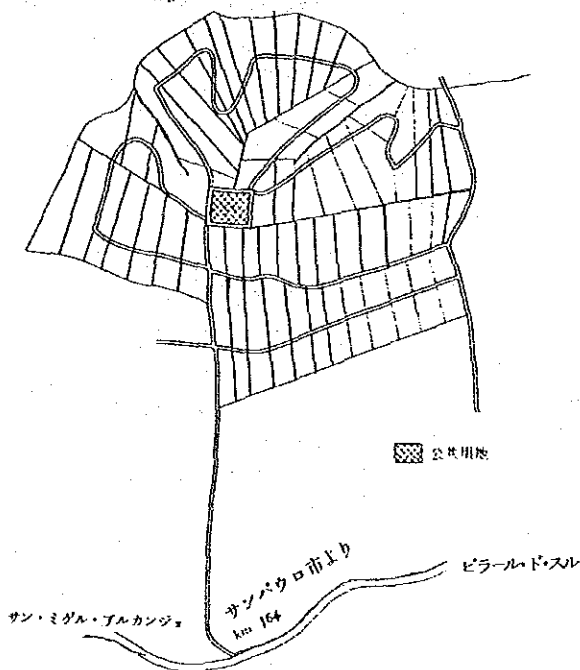
社 会 環 境	飲 料 水	各戸素掘井戸 公共用地飲料水は、1974年度事業団補助により200mの深井戸掘削。 近年、営農規模の拡大と共に、若干飲料水が不足してきている。								
	公 共 施 設 事業団援助 組 合 等 そ の 他	教員宿舎、倉庫、公共用地深井戸 南伯産組事務所並びに倉庫 ビニヤール小学校（教師4名、生徒78名、内日系人60名） （1988年3月末現在）、日語学校1校 中学校へはサン・ミゲール・アルカンジョ市へバス通学。								
入 植 状 況	入 植 戸 数 と 地 人 員	年 度	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969
		戸 数	3	7	4	3	1			
		人 員	14	31	23	11	3			
		年 度	現地入植者							
	戸 数	55								
	人 員	215								
主な出身県名：福 井、富 山、福 島、千 葉										
入 植 世 帯 数	区 分	入植数	入 植 世 帯 数		農 家 戸 数					
			戸 数	人 数	戸 数					
	日 本 人	居 住	53	330	53					
		非 居 住	2	11	2					
		計	55	341	55					
現 地 人	未調査	未調査	未調査							
1988年4月1日現在										
分 譲 状 況	総 面 積	756 ha								
	ロ ッ テ 面 積	1 ロ ッ テ 1.05～1.24 ha 平均 1.2 ha								
	分譲条件及価格	一括払650千円 分割払いは頭金10%以上4年据置5年均等払い。但し土地代金額について全期間年12%の利息を加算する。								
	分譲可能面積	729 ha（60ロ ッ テ）								
分 譲 状 況	分譲済面積	未分譲面積		道路市街地等利用地		除 地				
	729 ha	0		29 ha		0				

分譲状況	地権発給	全戸発給(60ロッテ)
		1988年3月末現在
農業	主作目	ブドウ, トマト, ニンジン
	形態	果樹(イタリアブドウ及び若干の柑橘, ピワ, リンゴ, カキ) 専業農家が殆んどで, 一部トマト, ニンジン, フェジョン等野菜との組み合わせによる農業
	農機具普及状況	トラクター0.7台, 耕耘機0.7台, トラック0.3台
	家畜飼養頭数	肉牛0.2頭, 乳牛0.2頭, 豚0.3頭, 役馬0.1頭
	営農援護機関	南伯産業組合指導部
	金融機関	銀行
	主作物販売取扱機関	南伯産業組合中央会 ビニヤール単協

地区略図



移住地略図



## (4) ムンド・ノーボ移住地

所在地	サンパウロ州オウリーニョス郡 BAIRRO MUNDO NOVO, MUNICIPIO DE OURINHOS, ESTADO DE SÃO PAULO			
面積	239 ha			
経緯	サンパウロ産業組合中央会傘下のオウリーニョス産業組合が、旧ムンド・ノーボ耕地を買収し、組合員となる日本人移住者を受け入れるために創設した移住地で、移住者は1961年および62年に日本から17世帯現地から7世帯が入植した。現在は17戸が入植定住している。			
自然環境	地 形	緩傾斜波状地の高台及び緩傾斜の台地 標高420~450 m		
	地 質・土 壤	テラロシアに微細砂の混じった土、保水力に優れ極めて肥沃		
	植 生・林 相	一部に原始林地帯があったが大部分は既耕地		
	気 候	年平均気温26℃ 平均最高気温34℃ 平均最低気温12℃ 年間雨量1200~1500mm		
社 会 環 境	主要都市への交通手段	移住地~オウリーニョス市間 砂利道良好、トラック等 オウリーニョス市~サンパウロ市間 完全舗装 バス頻繁 所要時間8時間 鉄道1日1便 オウリーニョス市 人口約 6万人 距離約 7km サンパウロ市 " 1,000万人 " 394km		
	市 場	オウリーニョス, サンパウロ		
	地区内道路整備状況	土道であるが良好		
	電 気	電気あり		
	飲 料 水	各戸素掘井戸		
	公 共 施 設	移住地内には医療施設なし オウリーニョス市に医療施設完備 移住地内に小学校1校 中学校, 高校はオウリーニョス市学校		
入植戸数と人員	年 度	1961	1962	現地入植者
	戸 数	8	8	9
	人 員	43	41	43

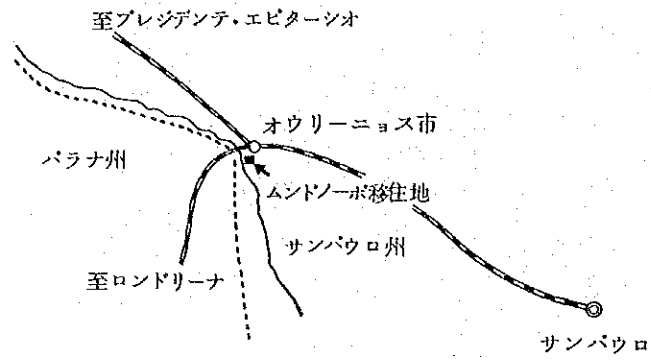
主な出身県名：愛 媛，北海道，長 崎

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
日 本 人	居 住	17	55	15	
	非 居 住	2	7	2	
	計	19	62	17	
現 地 人	計	1	6	1	

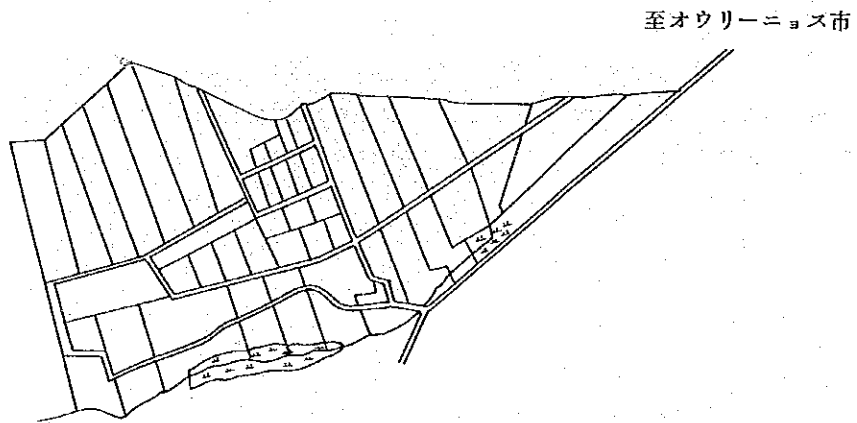
1988年4月1日現在

分 譲 状 況	総面積	239 ha
	ロッテ面積	10 ha
地 権 取 得	分譲条件及価格	一括払い 652 Cr \$ 分割払い 渡航前に391千円 2年目より毎年210千円相当借賃を3年間に支払う。
	地権取得	全戸取得済  (1978年10月現在)
農 業	主 作 目	鶏卵，マユ
	形 態	鶏卵を主体に養蚕，果樹等を組み合わせた営農を行っている。
	農機具普及状況	トラクター1.3台，トラック0.8台(1979年度農家経済調査結果)
	家畜飼養頭数	豚0.7頭(1979年度農家経済調査結果)
	営農援護機関	サンパウロ産業組合中央会より，時々果樹関係の営農指導員がまわっている。
	営 農 機 関	
	金 融 機 関	銀行
	そ の 他	入植者は旧耕地から引継いだコーヒーを主体として営農を行っていたが，これがサビ病により打撃を受け，現在ではほとんど栽培されておらず，養鶏を主としてその他鐘紡，神戸生糸など製糸会社の進出により1973年頃より養蚕の導入が図られている。

地区略図



移住地略図



## (6) 桜・高森移住地

所在地	サンパウロ州グアラレーマ郡 COLONIA CEREJEIRA, ESTRADA GUARAREMA KM6, BAIRRO GOIABAL, MUNICIPIO DE GUARAREMA, ESTADO DE SÃO PAULO						
面積	200 ha						
経緯	日系コロニアの有力者故足立小平治氏が、1960年伯人耕主の土地の委任を受けて日本人移住者に分譲することとなった。当初同氏の出身県である岐阜県から受入れたが、後全国から受入れることとなった。入植者は日本直来と現地からあわせて現在66戸が定住している。						
自然環境	地形 地質・土壌 植生・林相 気候	緩い起伏の丘陵、小川、谷川、湧水等豊富。標高580~590m 壤土 再生林を含む草原地帯 年平均気温17℃ 年間降雨量1,500mm					
社会環境	主要都市への交通手段 市場 地区内道路整備状況 電気 飲料水 公共施設 事業団援護 その他	近傍各都市へバス便が頻繁にある。 サンパウロ市 人口約1,000万人 距離約57km ジャカレー市 " 11万人 " 12km モジ・ダス・クルーゼス市 " 13万人 " 30km グワラレーマ市 " 1万人 " 6km サンパウロ市並びにリオ・デ・ジャネイロ市 良好 自力で電化済み、一部事業団融資。 井戸(但し、桜地区の極く一部に水のないロッテあり。) 小学校、教員宿舎、日本人会館、倉庫、公民館(1980年12月完成) 日語学校 中学・高校はグワラレーマ市もしくはジャカレイ市に通学 移住地内に医療施設はなくグワラレーマ市を利用					
入植戸数と地内人員	年度	1962	1963	1964	1965	1966	現地入植者
	戸数	39	0	4	3	1	98
	人員	171	0	19	11	3	469

主な出身県名：岐 阜, 長 野, 広 島, 北海道

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
			戸 数	人 数	戸 数
	区 分	居 住	非 居 住	計	現 地 人
日 本 人	居 住	66	349	62	
	非 居 住	3	18	3	
	計	69	367	65	
	現 地 人	21	未調査	0	

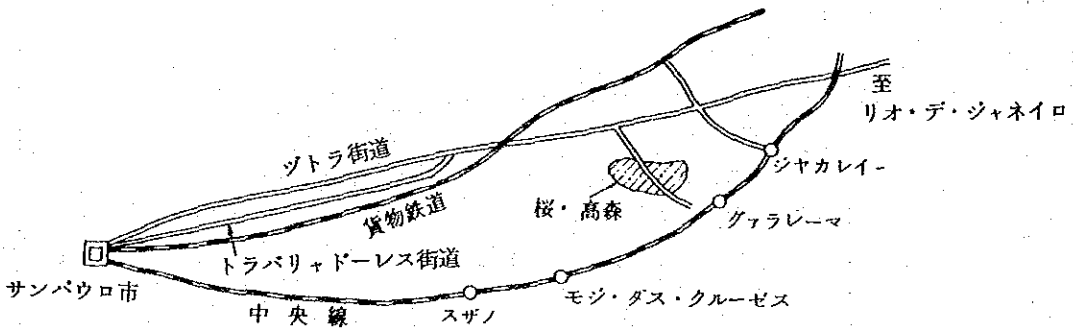
1988年4月1日現在

分譲状況	総面積	200 ha
	ロッテ面積	1ロッテ約5 ha
	分譲条件及価格	一括払い ㊶ 52万円 ㊷ 28.8万円 分割払い 頭金残金は1年以内。
地権取得	取得済。 一部分割払未了の者が494号法律(1971年10月1日付法律5709号)の制限にかかり未取得である。	

(1978年10月現在)

農業	主 作 目	花卉(バラ, グラジオラス)
	営 農 状 況	露地バラの栽培専業農家がほとんどで, 一部柑橘との複合経営および養鶏を営む
	営農指導機関	協力機関としてコチア産組等。
	主作物販売 取扱機関	花卉は主として個人。 蔬菜, 鶏卵, 鶏肉, 果実は主として組合。

地区略図





(6) アウリベルデ移住地

所在地	サンパウロ州カッボン・ボニート郡 NUCLEO AURIVERDE, MUNICIPIO DE CAPÃO BONITO ESTADO DE SÃO PAULO	
面積	418 ha	
経緯	青年既移住者独立用及び本邦からの入植者を対象として、1977年に事業団が取得、造成した移住地である。入植者の受入れは1978年より始まり、現在13戸が入植定住している。	
自然環境	地形	南部が高く(標高750m)北部、西部に向かって約50mの標高差がある。地区内に3本の小川が流れており波状形地が3カ所にわかれてある。
	地質・土壌	粘板岩系を母岩とするLatsol Vermelho Escuro と呼ばれる赤色植壤土
	植生・林相	20 haの再生林の他は牧野、畑地である。
	気候	年平均気温 20.1℃ 年間降雨量 1,453.2mm 乾期 4~9月 雨期 10~3月
社会環境	主要都市への交通手段	移住地入口から各都市への道路は完全舗装 カッボン・ボニート市 人口約 3万人 距離約 6.5 km ソロカバ市 " 30万人 " 133 km サンパウロ市 " 1,000万人 " 245 km
	市場	カッボン・ボニート市, サンパウロ市等
社会環境	地区内道路整備状況	土道であるが良好
	電気	1981年度電化(事業団補助額7,568千円)
社会環境	飲料水	8~10mの索掘井戸で水質は良好である。
	公共施設	移住地内に特にないがカッボン・ボニート市に病院がある。また同市に小学校、中学校、普通高校、商業高校、師範学校がある。
入植戸数と人員	現地入植者	
	戸数	11
	人員	47

(1988年9月末現在)

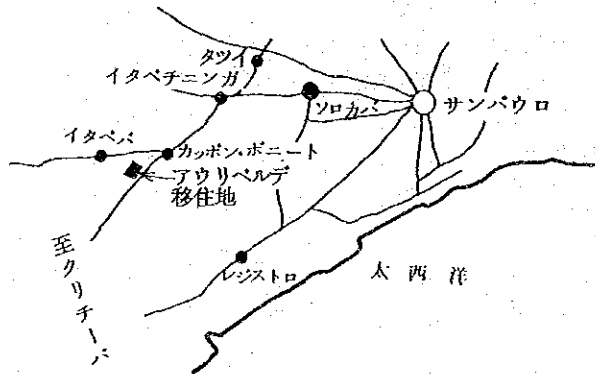
入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
	区分	居住	13	64	13
日本人	非居住	3	22	3	
	計	16	86	16	
	現地人	1	5	1	

1988年4月1日現在

分譲状況	総面積	419 ha		
	ロッテ面積	15 ha		
	分譲条件及び価格	一括払い5,070千円。分割払いは頭金20%, 4年の据置, 5年分割払但し土地代金について全期間年12%の利息を加算する。		
	分譲可能面積	410 ha (27ロッテ)		
分譲状況		分譲済面積	未分譲面積	保留地 (道路市街地利用地等)
		410 ha (27ロッテ)	0	9 ha
	地権発給	27ロッテ発給済		
				1985年3月末現在
				1985年3月末現在

農業	主作目	蔬菜, 果樹, 花卉
	営農援護機関	
	営農指導	コチア産業組合カッボン・ボニート倉庫の指導を時に受ける。
	金融機関	銀行, 組合

地区略図



## (7) バルゼア・アレグレ移住地

所在地	南マット・グロッソ州レーノス郡 FAZENDA VARZEA ALEGRE, MUNICIPIO DE TERENOS, ESTADO DE MATO GROSSO DO SUL	
面積	3 6.4 7 2 ha	
経緯	1957年、邦人自営農受入地として旧日本海移住振興株式会社が、購入造成した移住地である。 入植は1958年から開始され山口県人が多い。 当初はバナナ及び米を中心にした営農に従事したが思わしくなく、その後養鶏を導入し柑橘、アバカシ(パイナップル)などの果樹と組み合わせての経営は順調であり、又一部では牧畜も行なわれており、現在55戸が入植定住している。	
自然環境	地形 地質・土壌 植生・林相 気候	北部は平坦地、南部は緩傾斜丘陵地 標高250~310m 主に砂壤土、砂質土、若干のテラ・ロシヤ、テラ・マサッペー地帯が斑点状に散在。 いわゆるカンボセラード地帯である。原始林や再生林が散在するが有用材乏しく草生地帯も極めて少い。 年平均気温24.7℃ 平均最高気温34.0℃ 平均最低気温10.0℃ 降雨量1313mm 雨期10月~3月 乾期4月~9月 区別は明瞭
社会環境	主要都市への交通手段 市場 地区内道路整備状況 電気	鉄道はノロエステ線の駅が地区内に2カ所あり、カンボ・グランデ市まで約1時間 テレノス市まで約30分、1日に2便ある。 カンボ・グランデ市からサンパウロ市間には、鉄道、バス便、航空機がある。 カンボ・グランデ市 人口約 35 万人 距離約 45 km テレノス町 " 0.5 万人 " 20 km クヤバ市 " 22 万人 " 708 km サンパウロ市 " 1,000 万人 " 1,043 km カンボ・グランデ市、クヤバ市 土道であるが良好 地区内に国道BR262号(アスファルト)が通っている(カンボ・グランデ~アキダウアナ~ポリビア国境)。 1978年度電化(事業団補助17,707千円)

社 会 環 境	飲 料 水	入植者は素掘井戸。公共団地並に市街地の組合用地にある、学校、組合、日本人会事務所などは深井戸（事業団補助）を利用している。
	公 共 施 設	移住内に医療機関はないが、カンボ・グランデ市にカトリック教団経営慈恵病院 私立病院がある。 バルゼア・アレグレ小学校（教師1名、生徒49名、内日系人42名） （1988年3月末現在）
	組 合 等	倉庫、飼料配合所、組合共同販売所
	そ の 他	公民館（事業団援助、1975年3月完成） 中学校以上の上級学校は、カンボ・グランデ市に寄宿

入 植 内 戸 数 と 入 地 員	年 度	1958	1959	1960	1961～ 1974
	戸 数	8	9	24	
	人 員	37	41	129	
	年 度	1975	現地入植		
	戸 数	1	50		
	人 員	2	254		

(1988年3月現在)

主な出身県名：山 口、広 島、島 根、大 阪

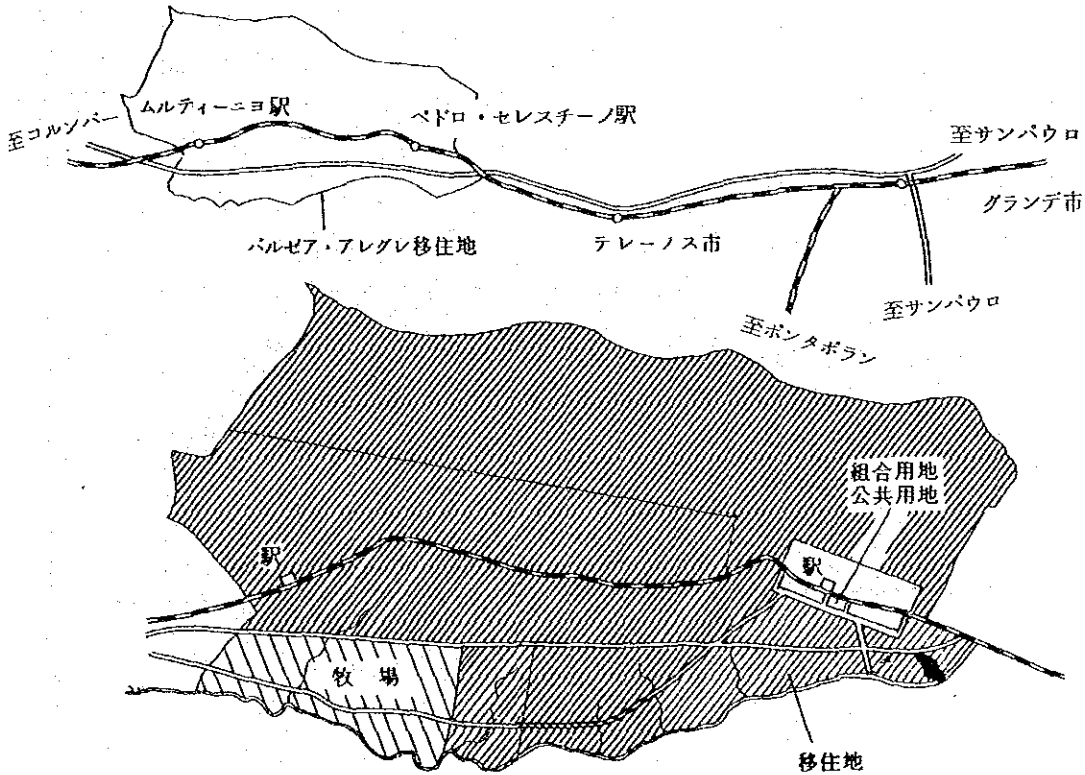
入 植 世 帯 数	入植数		入植世帯数		農家戸数
			戸 数	人 数	
	日 本 人	居 住	55	251	54
		非 居 住	44	未調査	44
		計	99	251	98
	現 地 人	30	未調査	30	

(1988年4月1日現在)

分 譲 状 況	総 面 積	37,495 ha			
	ロ ッ テ 面 積	25 ha (小型ロッテ)		300～1,500 ha (大口ロッテ)	
	分譲条件及価格	28,000～33,000円/ha 小型ロッテの分割払いは頭金10%以上4年据置5年均等払い、大口ロッテは頭金50%以上据置なし2年払い。但し土地代全額について、全期間年12%の利息を加算する。			
	分譲可能面積	34,245 ha (218ロッテ)			
	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地利用地等	牧 場 地	
	34,245 ha (218ロッテ)	0	662 ha	2,588 ha	

分譲状況	地権発給	全ロット発給済
		1988年3月末現在
農業	主作目	鶏卵, 柑橘, 雑作及び牧畜
	形態	養鶏専業農家が殆んどで一部果樹, 蔬菜を組み合わせた営農を行っている。
	農機具普及状況	トラクター0.9台 トラック0.5台 動噴0.6台 その他 (1983年度農家経済調査結果)
	家畜飼養頭数	肉牛(成13.6頭・仔2.0頭)(1983年度農家経済調査結果)
	営農支援機関	
	営農指導	事業団 農協 IPEAO(西部農牧調査実験研究所)
	金融機関	銀行
主作物販売取扱機関		鶏卵は, バルゼア・アレグレ産業組合, 果樹については商人或は個人が直接カンボ・グランデ市にて販売している。
	その他	バルゼア産組はサンパウロ産組中央会に加盟しており同会の養鶏技師によって時々技術指導が行なわれている。

移住地略図



## (8) 日光移住地

所在地	パラナ州ドゥラジーナ郡 COLONIA NIKKO, MUNICIPIO DE DOURADINA, ESTADO DE PARANA																										
面積	904.9 ha																										
経緯	戦後の雇用移住者が、協同して事業団から土地購入資金の融資を受けて、集団的に独立した地区である。経営の主体はコーヒーであるが、最近は果樹に力を入れている。現在の入植定住は24戸である。																										
自然環境	地 形 地 質・土 壌 植 生・林 相 気 候	緩やかな起伏のある波状地、地区内に小川が2~3本ある。標高約470m テーラロシヤミスタ砂壤土。pH6.5 厚生林(灌木、喬木が密性) 年平均気温 24℃ 平均最高気温 33℃ 平均最低気温 17℃ 年間降雨量 1,200mm内外																									
社会環境	主要都市への交通手段  地区内道路整備状況 電 気 飲 料 水 公 共 施 設 事業団援護  そ の 他	移住地から次の近隣都市へのバスが1日に1~4便運行されている。 <table border="1"> <tr> <td>ドゥラジーナ</td> <td>人口約</td> <td>1万人</td> <td>距離約</td> <td>12km</td> </tr> <tr> <td>マリア・エレナ市</td> <td>"</td> <td>1万人</td> <td>"</td> <td>25km</td> </tr> <tr> <td>ウムアラーマ市</td> <td>"</td> <td>1.0万人</td> <td>"</td> <td>40km</td> </tr> <tr> <td>パラナバイ市</td> <td>"</td> <td>4万人</td> <td>"</td> <td>130km</td> </tr> <tr> <td>ロンドリーナ市</td> <td>"</td> <td>30万人</td> <td>"</td> <td>350km</td> </tr> </table> 土道 1976年度事業団補助により電化(補助額4,996千円) 各戸井戸水利用、水質良好  公民館(1975年3月完成) 地区内に医療施設はないがウムアラーマ市に病院がある。 小・中学校は、ピラ・フォルモーザに通学。夜間高校がドゥラジーナ市にあり、スクールバスで通学する。ウムアラーマ市に寄宿している中・高校生もいる。	ドゥラジーナ	人口約	1万人	距離約	12km	マリア・エレナ市	"	1万人	"	25km	ウムアラーマ市	"	1.0万人	"	40km	パラナバイ市	"	4万人	"	130km	ロンドリーナ市	"	30万人	"	350km
ドゥラジーナ	人口約	1万人	距離約	12km																							
マリア・エレナ市	"	1万人	"	25km																							
ウムアラーマ市	"	1.0万人	"	40km																							
パラナバイ市	"	4万人	"	130km																							
ロンドリーナ市	"	30万人	"	350km																							

入植戸数と人員 (内地)	年 度	現地入植者
	戸 数	62
	人 員	319

主な出身県名：高知 愛媛 鹿児島

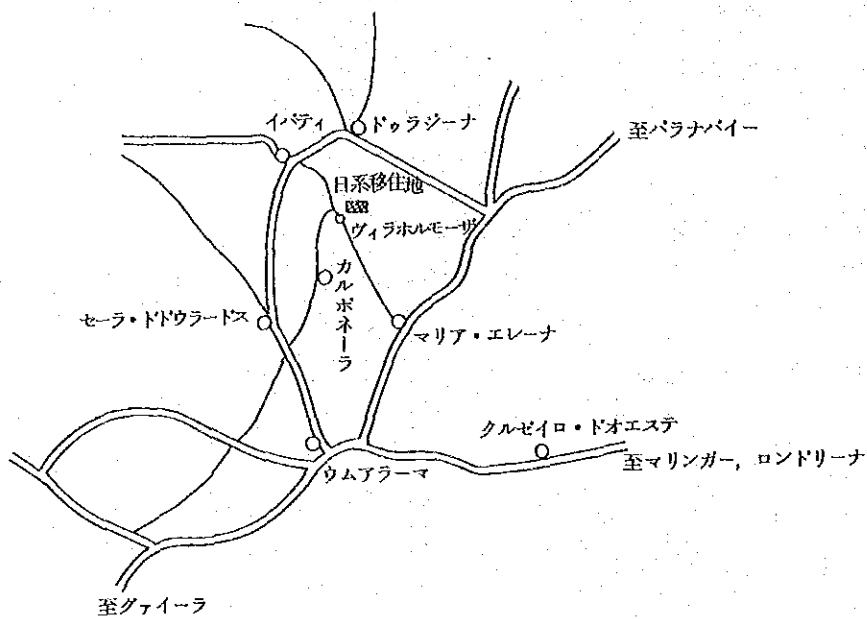
入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
	区分		戸 数	人 数	戸 数
	日本人	居 住	24	150	24
非居住		3	18	3	
計		27	168	27	
現 地 人		18	136	18	

1988年4月1日現在

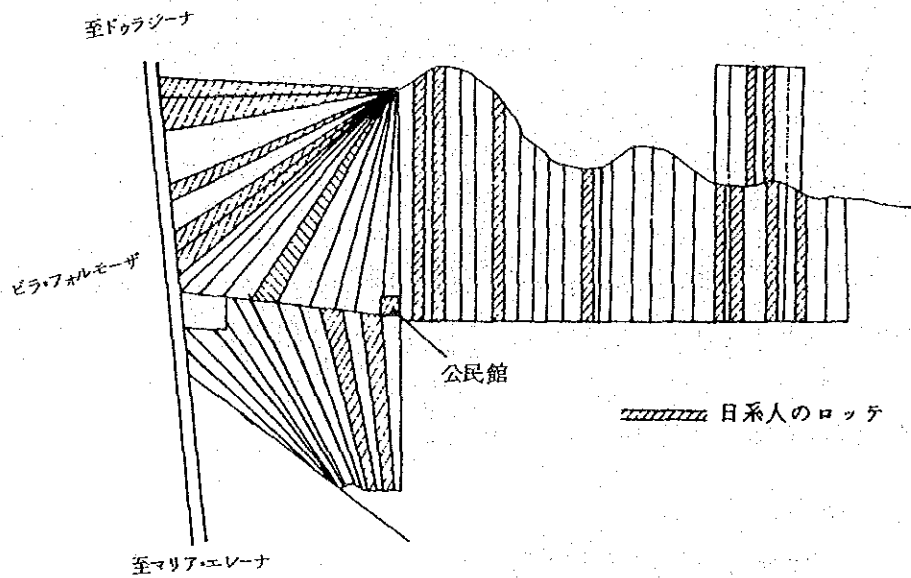
分譲状況	総面積	9049ha
	ロッテ面積	1ロッテ約12.10ha(56ロッテ)
	分譲条件及価格	契約の当事者並びに入植者団体と地主との契約 土地代はha45~75cr\$4年分割 (但し入植当時の価格で現在は満植)
	地権取得	全戸取得済  (1978年10月現在)

農業	主 作 目	コーヒー、ブドウ、マユ
	形 態	コーヒーを主体にフェジョン、大豆、落花生等雑作を組み合わせた営農、ブドウ、養蚕も経営に取り入れる農家がある。
	農機具普及状況	トラック14台 ドラクター11台 動噴6台 乗用車13台 その他 (1988年7月調査)
	家畜飼養頭数	肉牛(成97頭), 豚(成172頭)
	営農援護機関 営農指導	南伯産業組合中央会
金融機関	銀行	
主作物販売 取扱機関	南伯産組	

地区略図



移住地略図





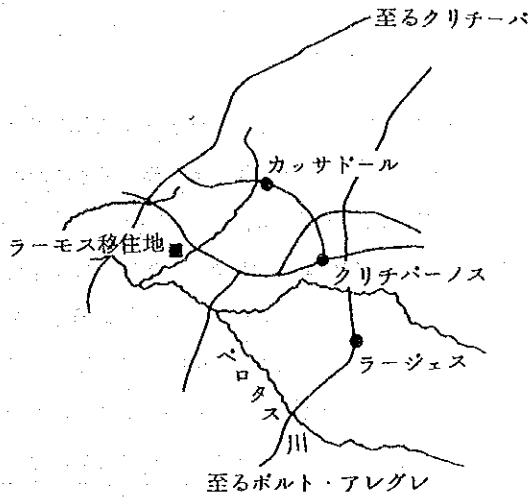
## (9) ラーモス移住地

所在地	<p>サンタ・カタリーナ州, クリチバーノス郡フレイ・ロジェリオ地区</p> <p>DISTRIO DE FREI ROGERIO, CURITIBANOS ESTADO DE SANTA CATARINA (NUCLEO COLONIAL "GOVERAADOR CELSO RAMOS")</p>																				
面積	1,137ha (50 ロツテ)																				
経緯	<p>サンタ・カタリーナ州中, 山部地帯の農業振興のため, 同地域に適する温帯果樹及びその他の農作物並びに小家畜の飼育に専門的技術を有する日本人を導入することを目的として, 州と事業団が協定に基づいて創設した州直営の混成移住地である。(日本人入植率70%, 現地伯国人率30%)</p> <p>日本人の入植は, 1964年及び翌65年に現地から16世帯, 日本からは1967年以降今日まで3世帯が入植しているが, その後雇用青年の受入と独立, 他地域からの移住地或いはその隣接地への入植もあり, ラーモス地区在住の日本人数は52戸となっている。</p>																				
自然環境	<p>地形 傾斜4~7°の丘陵地帯で, 地区内に細流多数。</p> <p>地質・土壤 母岩が玄武岩の壤土, 埴壤土, 砂壤土, pH5~5.8</p> <p>植生・林相 未利用地は大部分再生林化し, 灌木, 雑草が繁茂している。現在殆んど自然原生林は残っていない。</p> <p>気 候 年平均気温 15~16℃ 平均最高気温 24.5℃ 平均最低気温 9.1℃ 年間降雨量 1,400~1,600mm</p>																				
社会環境	<p>主要都市への交通手段 移住地~クリチバーノス市間は砂利道。定期バス1日3往復のほか, 入植者自家用車等がひんばんに通っている。所用時間30分。</p> <p>クリチバーノス市~クリチバーノス市~ラージェス市~ポルト・アレグレ市間完全舗装。</p> <table border="0"> <tr> <td>クリチバーノス市</td> <td>人口約</td> <td>4万人</td> <td>距離約</td> <td>23km</td> </tr> <tr> <td>クリチバーノス市</td> <td>"</td> <td>117万人</td> <td>"</td> <td>420km</td> </tr> <tr> <td>ラージェス市</td> <td>"</td> <td>18万人</td> <td>"</td> <td>110km</td> </tr> <tr> <td>ポルト・アレグレ市</td> <td>"</td> <td>122万人</td> <td>"</td> <td>490km</td> </tr> </table> <p>市場 モモ, リンゴ等果樹は, 主にサンパウロ市へ直接共同出荷。花卉類は主にポルト・アレグレ市場, その他一部はサンパウロ, クリチバー及び近傍都市</p> <p>地区内道路 起伏多く, ひんばんな維持補修を要するが, 市が政府の援助を受けて実施している。雨天通行にはやや困難な部分がある。</p> <p>電 気 電化は1977年度に完了(事業団補助1,159千円)</p>	クリチバーノス市	人口約	4万人	距離約	23km	クリチバーノス市	"	117万人	"	420km	ラージェス市	"	18万人	"	110km	ポルト・アレグレ市	"	122万人	"	490km
クリチバーノス市	人口約	4万人	距離約	23km																	
クリチバーノス市	"	117万人	"	420km																	
ラージェス市	"	18万人	"	110km																	
ポルト・アレグレ市	"	122万人	"	490km																	

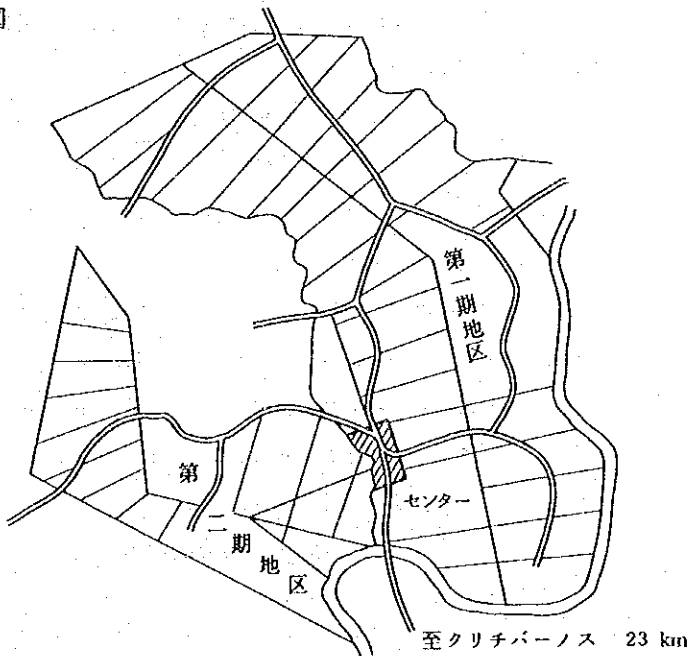
社会環境	飲料水 公共施設 事業団援護 その他	索掘井戸(7~8m)水質良好,水量は豊富である。 ラーモス小学校(教師3名,生徒65名内,日系人15名),教員宿舎2棟,公民館1棟(1981年8月完成)。地区内に医療機関はないがクリチバーノス市(人口4万人)に総合病院がある(フレイ・ロジェリオ病院)中学校,高等学校はクリチバーノス市,クリチバ市,ラージェス市,ポルトアレグレ市に通学あるいは寄宿。					
	入植(戸内数と地)人員	年度	1969	1970	1971	1972	1973
	戸数	3	2	5		1	
	人員	19	8	16		4	
	年度	現地入植者					
	戸数	60					
	人員	-					
主な出身県名:北海道,長崎,山口,沖縄							
入植世帯数	区分	入植数		入植世帯数		農家戸数	
				戸数	人数	戸数	
	日本人	居住	52	310	52		
		非居住	8	0	0		
		計	60	350	60		
現地人		12	65	12			
1987年10月1日現在							
分譲状況	総面積	1,137ha(50ロッテ)					
	ロッテ面積	1ロッテ平均25ha(12haのロッテも7ロッテある)					
	分譲条件及価格	土地代(含住宅資材代)Cr \$1,997 3年据置 10年分割払い(無利子) 1969年9月以降 土地代 Cr \$1,000 3年据置 5年分割払い (無利子)住宅資材は購入原価を8年後5年分割払い。					
	分譲状況	分譲済総面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地		
		1,114.5ha	-	225ha	-		
地権取得	全員地権取得済。						
農業形態	主作目	ニンニク,トマト,ピーマン等の果菜類。カーネーション,キク及びリンゴ等の温帯果樹。					
	形態	花卉生産(カーネーション,菊)グループ,輸送果菜生産(トマト,人参,ビート等)グループ,ニンニク生産グループ及び,リンゴ生産グループとそれぞれ専業分化している。					

農業	農機具普及状況	トラクター1.1台, トラック0.9台, 耕耘機0.9台 (1986年度農家経済調査結果)
	家畜飼養頭数	肉牛(成2.0頭・仔1.6頭), 豚(成0.5頭・仔0.8頭) (1986年度農家経済調査結果)
	営農援護機関 営農指導	州農業改良普及事務所, 国立試験場が近傍にある(ビデイラ市60km), コチア産組, 南伯産組
	金融機関	銀行
	主作物販売 取扱機関	大部分の生産物はコチア・南伯両農協を通じ, サンパウロ市へ共同出荷している。

地区略図



移住地略図



(10) イタジャイ移住地

所在地	サンタ・カタリーナ州イタジャイ郡 NÚCLEO COLONIAL "RIO NOVO" ITAJAÍ, ESTADO DE SANTA CATARINA	
面積	60ha	
経緯	<p>1969年、ラーモス移住地ネクタリン祭の席上、IRASC総裁、州農務長官、当時のブラジル農業開発院（INDA）駐在官等より、近い将来沿岸地帯に日本人を主とする蔬菜園芸移住地を設定することについて、是非検討して欲しい旨要望があった。</p> <p>その後1971年5月に至って、IRASCより正式にイタジャイ地区についての現地調査依頼があった。</p> <p>従来、イタジャイを始めとする近傍主要都市における蔬菜生産には殆んどみるべきものがなく、果菜類の90%はサンパウロ、パラナ州方面からの移入品に頼ってきたが、鮮度が著しく落ちる上に高価であり、市民の食生活は極めて低調であった。</p> <p>そこで、日本人を中心とする蔬菜園芸移住地を設定して、生産物を新設予定の市中央市場に直結させ、近傍主要都市の生鮮蔬菜類の供給を確立せしめるとの具体的構想を持つに至った。</p> <p>市は土地の購入ロッテ造成、電気導入、住宅建設等をIRASCは、住宅建設費用の負担、州農業改良普及院（ACARESC）は営農相談、融資あっせん、事業団は日本人入植者の選考をそれぞれ担当し、1972年に日伯混成入植を開始したものである。現在の入植定住者は7戸である。</p>	
自然環境	地形	沿岸平担低湿地 標高18m
	地質・土壌	表層部は、100~150cmの老朽有機物堆積、その下は水成岩を母岩とする砂質土と泥炭質粘土の混合土壌
	植生・林相	広葉樹の中に有用堅木が混生する原生林で、60%程度は熟畑化している。
	気候	多雨温暖性気候 1971年の観測結果 年平均最高気温 27.6℃ 年平均最低気温 16.48℃ 年平均相対湿度 76.52% 年平均降雨日数145日で降霜は年数回 降雨量は1589.8mmである。
社会環境	主要都市への交通手段	移住地～イタジャイ市間はBR101号線南下3km、車で10分程度、BR101号線をひんぱんに通るバス便を利用。 BR101号線はフロリアノ・ポリス市、ボルト・アレグレ市およびクリチバ市、サンパウロ方面に通じている。 ジョインビレ市 人口約28.3万人 距離約80km イタジャイ市 " 10万人 " 3km

社 会 環 境	市場	カンボリウ市 人口約 2万人 5km
	地区内道路 整備状況	フロリアノ・ボリス市 " 21万人 85km ブルメナウ市 " 18万人 35km ブルスケ市 " 4.4万人 30km イタジャイ市 リオ・ノーボ川沿いに幅員8mの公共道路が貫通している。 電気は創設に当り導入されている。 飲料水用水道はイタジャイ市から延長利用している。

入と 植人 員地 数	区分	入植者	現地入植者
	戸数		7
	人員		26

主な出身県名：北海道 熊本 高知 茨城

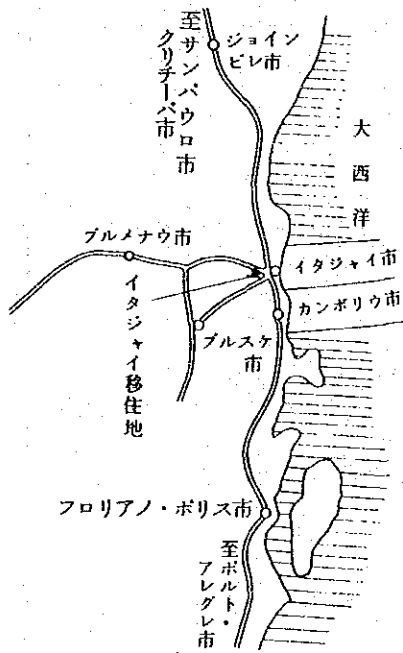
入 植 世 帯 数	入植数		入植世帯数		農家戸数
	区分		戸数	人数	戸数
	日本人	居住	7	22	7
		非居住	0	0	0
		計	7	22	7
現地人		3	11	3	

1987年10月1日現在

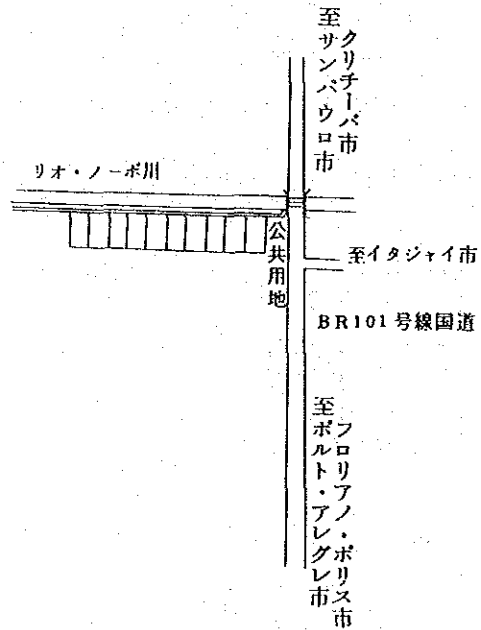
分 譲 状 況	総面積	60ha			
	ロッテ面積	1ロッテ6ha×10ロッテ			
	分譲条件及価格	1ロッテ価格、土地代、家屋建築費・造成費の合計 Cr\$ 25,000 2年据置 10年払い			
	分譲可能面積	60ha			
	分譲状況	分譲面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	60ha	—	—	—	
	地権取得	全戸取得済			

農    業	主 作 目	キク、トマト、チンヤ等各種の近郊蔬菜類で、目立った中心作目は設定されていない。
	形 態	キク、バラ、グラジオラス等の花卉。トマト、チンヤ、カリフラワー等の蔬菜を組み合わせた営農。
	営農援護機関	
	営農指導	サンタ・カタリーナ州農業改良普及事務所 (ACARESC)
	金融機関	銀行
	主作物販売取扱機関	個人出荷 (朝市又は個人商店卸)

地区略図



移住地略図



(1) カッサドル移住地

所在地	サンタカタリーナ州カッサドル郡バイオール・ペリー地区 NÚCLEO COLONIAL "GOVERNADOR COLOMBO MACHADO SALLES" MUNICÍPIO DE CAÇADOR, ESTADO DE SANTA CATARINA	
面積	275 ha	
経緯	ラーモス移住地における日本人農家の果樹栽培状況を視察したカッサドル市長は、その成果に鑑み同郡内にも日本人を中心とする小入植地を創立すべく、その可能性について検討を行い適地を物色した結果、農地改革に協力的な地主の所有地に決定し、市がこれを買上げ IRASC の協力のもとに移住地を設定した。一方日本人入植者の選考に当っては、在リオ・グランデ・ド・スール州、サン・パウロ州の希望者の中から、事業団がカッサドル郡 IRASC と協議の結果 10 家族を選定し、第 1 陣として 9 家族、翌 1974 年 3 月 1 日合計 10 家族が入植した。また近年、近傍地区への入植農家が漸増している。	
自然環境	地 形 地 質・土 壤 植 生・林 相 気 候	概ね波状型、パラナ松よりなる森林にはかなり強度の傾斜が見られるが、全体的に見ればほんの一部である。標高 1,000~1,100 m 玄武岩を母岩とする砂壤土、有機質が比較的豊富、特に森林部には粗大有機質が堆積している。 pH 4.5~5.5 雑木原生林(若干の有用木混生)と再生林および牧草地 大部分広葉樹、針葉樹はパラナ松の外 2~3 種で極く一部、森林は密でない。現在森林はほとんど残っていない。 年平均気温 16.8℃ 年平均気温 22.4℃ 平均最低気温 10.9℃ 平均年間降雨量 1,576mm 降雨日数 120日
社会環境	主要都市への 交通手段	移住地~カッサドル市間は簡易舗装州道 カッサドル市から BR116 号線まで 6.5 km は完全舗装。 BR116 号線は、ポルト・アルグレ市およびサンパウロ市、クリチーバ市に通じている。 カッサドル市 人口約 5 万人 距離約 11 km ポルトウニオン市 " 3 万人 95 km クリチバーノス市 " 4 万人 108 km クリチーバ市 " 117 万人 356 km

社 会 環 境	市 場	果樹の大部分とニンニク、トマトはサンパウロ市、及びリオ・デ・ジャネイロ市に出荷、その他は地元市場
	地区内道路	幅員6mの幹線道路
	整備状況	
	飲料水	飲料水はロッテ毎に掘抜井戸施設あり
	電気	電気は1980年度末に州、郡の協力により完全電化
公共施設	移住地内には、医療、教育等の公共施設はないが、カッサドルにあるものを利用している。事業団援護による大型トラクター1台(附属機一式を含む) 公民館 (1986年3月事業団助成)	

入 植 戸 数 と 員 数	区分	入植数	現地入植者
	戸数 人員		18

主な出身県名：福岡・茨城・青森・熊本・大分・静岡・東京・長野・長崎・北海道

入 植 世 帯 数	区分	入植数	入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
	日本人	居住	17	81	17
		非居住	1	4	1
		計	18	85	18
現地人		未調査	未調査	未調査	

1987年10月1日現在

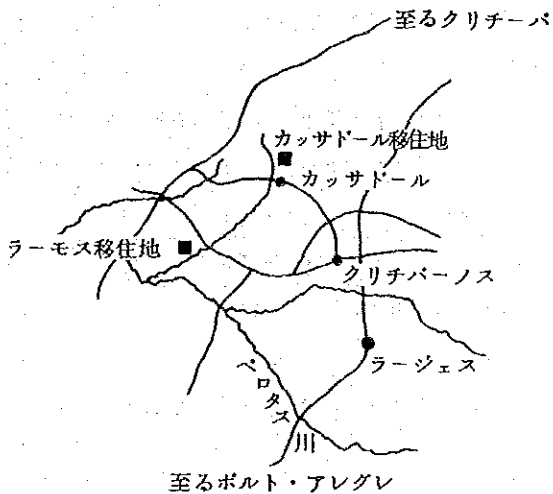
分 譲 状 況	総面積	275ha			
	ロッテ面積	1ロッテ 25ha			
	分譲条件および価格	土地代(含家屋) Cr \$ 25,000 3年据置 8年々賦無利子 通貨価値修正なし			
	分譲可能面積	周辺に購入可能な私有地あり(時価ha当り Cz 100,000.00)			
	分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	275ha	-	-	-	
地権取得	全戸取得済				

(1987年10月現在)

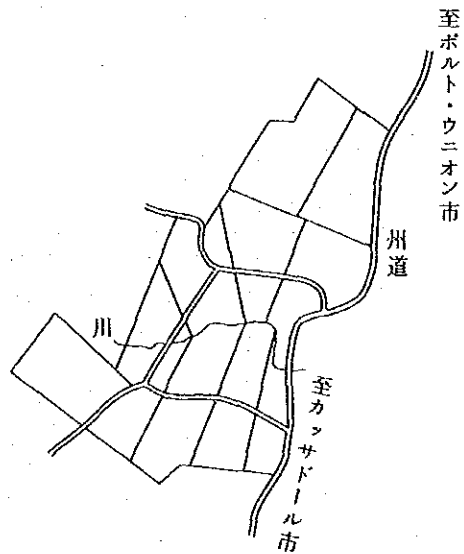


農	主作物形態	ニンニク, リンゴ, トマト ニンニク, トマト, 蔬菜等を主体に, リンゴ, モモ等の果樹を組み合わせた営農
	農機具普及状況	トラクター1.8台, トラック1.0台, 動噴1.5台 他 (1986年度農家経済調査結果)
業	営農援護機関 営農指導	サンタ・カタリーナ州農業改良普及事務所(ACARESC), 国立果樹試験場附属訓練センター(ヴィディラ市)があり, カッサドル市に州立農業試験場, また市役所勤行課に州の改良普及技術員が常駐し指導にあっている。
	金融機関	銀行
	主作物販売取扱機関	南伯中央産業組合(サンパウロ)

地区略図



移住地略図



(12) クリシューマ(ファシナル)移住地

所在地	サンタ・カタリーナ州クリシューマ郡フォルキリーニャ FORQUILNINHA, MUNICÍPIO DE CRICIUMA, ESTADO DE SANTA CATARINA (NUCLEO COLONIAL "FAXINAL")
面積	100ha
経緯	<p>クリシューマ郡は、炭坑関係者を中心として州内では屈指の経済成長をなしてきてきた工業地域であるが、近郊に野菜、果樹等の供給地がなく、これらの大部分をサンパウロ、ポルト・アレグレ方面から移入していた。</p> <p>そこで郡当局はラーモス、イタジャイ、カッサドール等協定入植地の例にみられるように、日本人中心の移住地を創設し、生鮮野菜類の供給ルートを確立するという構想をもつに至った。</p> <p>1973年5月、IRASC及び郡当局は、従来のように、これを協定移住地として旧JAMICを含めた3者の協定をもって設定することが最良の方法であるとの結論を得、具体的な検討に入った。以降3者の協定によって土地の選定、移住地計画の策定等検討を行った結果1973年12月IRASC、郡当局、旧JAMICが協定書に調印し、ここにクリシューマ移住地の誕生を見るに至った。協定にもとづき、郡当局は土地購入、ロッテ造成、電気導入、住宅建設、IRASCは住宅建設費の負担、融資斡旋、旧JAMICは日本人入植者の選考を夫々担当し1974年6月入植を開始した。</p>
自然環境	地形 低いなだらかな丘陵と低地が小波状形に続く既成牧場地帯の一部 植生・林相 ユーカリの植林が点在するほかは全面が牧野となっている。 気候 多雨温暖気候 平均最高気温 25.5℃ 平均最低気温 13.6℃ 平均相対湿度 81.0% 降雨量 1,558.4mm
社会環境	主要都市への交通手段 移住地からクリシューマ市の中心までは完全舗装の州道、クリシューマ市よりBR101号線でポルト・アレグレ市、フロリアノ・ポリス市サン・パウロ市へ定期直通バスが利用できる。 クリシューマ市 人口約 13万人 距離約 27km(州道) ツパロン市 8万人 " 50km(州道) フロリアノ・ポリス市 21万人 " 210km(BR101号) ポルト・アレグレ市 127万人 " 330km( " ) 市場 クリシューマを中心とする近傍都市を対象に野菜を供給。

地区内道路整備状況	クリシュマ市からバカリア市(リオ・グランデ・ド・スール州)に通ずる州道簡易舗装が移住地の境界線を通っている。
電気	電気は創設と同時に郡により導入されている。
飲料水	飲料水は郡当局により掘抜き井戸を水源とし、上水道として各戸に給水。水質良好。
公共施設	移住地内に公共施設はないが、クリシュマ市にあるものを利用、クリシュマ市内に4病院(600ベット)、移住地より1kmの地点に小学校があり7km地点のフォルキリーニャ村に小・中学校がある。また、クリシュマ市には高校から単科大学まで完備している。

入植戸数と員 (現地入植)	入植数	入植者
	区分	
	戸数	7
	人員	36

主な出身県名：千葉，鹿児島，福岡，北海道，山口

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
	区分		戸数	人数	戸数
	日本人	居住	7	36	7
		非居住	0	0	0
		計	7	36	7
現地人		3	14	3	

1987年10月1日現在

分譲状況	総面積	100ha
	ロッテ面積	1ロッテ価格 50,000クルゼイロ(60m <sup>2</sup> 住宅付)
	分譲条件	頭金なし，2年据置 8年々賦 利息，価値修正等郡負担
	地権取得	全戸取得済
農業	主作目態	キュウリ，チシャ，トマト キュウリ，チシャ，トマト，ニンジン等蔬菜の専業，ブドウ，柑橘，桃等が植え付けられている。

農 業	営農援護機関	
	営農指導	サンタ・カタリーナ州農業改良普及事務所 (ACARESC)
	金融機関	銀行
	主作物販売 取扱機関	個人出荷

13 サン・ジョアキン移住地

所在地	サンタ・カタリーナ州サン・ジョアキン郡 MUNICIPIO DE SAO JOAQUIN, ESTADO DE SANTA CATALINA	
面積	1,440 ha	
経緯	サンパウロ市コチア産業組合では、古くから国産リンゴ生産について多大の関心をもっていたがラーモス、カッサドール等の移住地でのリンゴ生産実績を踏まえ、組合の拓殖事業の一部として入植地区を買収、1ロット20haに分割、主として分譲したものである。 この間の土地代、住宅代にかかわる融資は、中央銀行から州立銀行に手当された原資による地域開発投融资々金によってまかなわれた。なお同移住地は一般にはサン・ジョアキン、コチア村とよばれているが、郡の積極的なコロニア誘致運動に呼応したもので、道路、電化等の諸環境整備には、郡独自の相当な援助をうけているようである。入植開始は1974年からで現在の入植者は60戸である。	
自然環境	地形	傾斜4～5°の丘陵地帯で、ジェラル山脈の頂原野の一部である。各所に散在する低盆地沿いには無数の自然湧水源があり低地部はかなり湿潤である。
	地質・土壌	玄武岩と結晶片岩を母岩とする壤土、埴壤土が中心でpHは4.0～5.0度で酸性はかなり強い。鉄、アルミナが比較的多く、磷酸の肥効は低い。石塊が多いので、樹木営農以外には適していない。
	植生・林相	町に近く便利な所で、バナナ松の伐採後相当の年月がたっているようで、現在までは殆んど完全な自然牧場として利用され、極く一部の急傾斜地以外は残存森林なく、草地は禾本科の自然牧草である。
	気候	1965～1975年の11カ年平均(サン・ジョアキン果樹試験場-1,418m調べ) 年平均気温 13.9℃ 平均最高気温 18.8℃ 平均最低気温 9℃ 降雨量 1553mm
社会環境	主要都市への交通手段	植民地～サン・ジョアキン市間は完全舗装州道 サン・ジョアキン市から主要都市へは定期バスが運行されている。 サン・ジョアキン市 人口約 3万人 距離約 5km ラージェス市 " 15万人 " 59km フロリアノ・ポリス市 " 21万人 " 220km

社 会 環 境	市場	果樹、輸送園芸産物は殆んど全部サンパウロ中央市場向け出荷され、コチア産組の委託販売（全員が組合員）
	地区内道路整備状況	郡役所で必要に応じて補修
	電気・飲料水	農村電化資金で大部分電化済、飲料水は各農家の個人掘抜井戸を利用。
	公共施設	サン・ジョアキン市にコチア産組倉庫、公民館（事業団助成 1988年3月完成）、移住地内の医療機関、教育施設なし、サン・ジョアキン市に総合病院（入院設備付）、小・中・高校。大学はラージュス市に商経単科大学

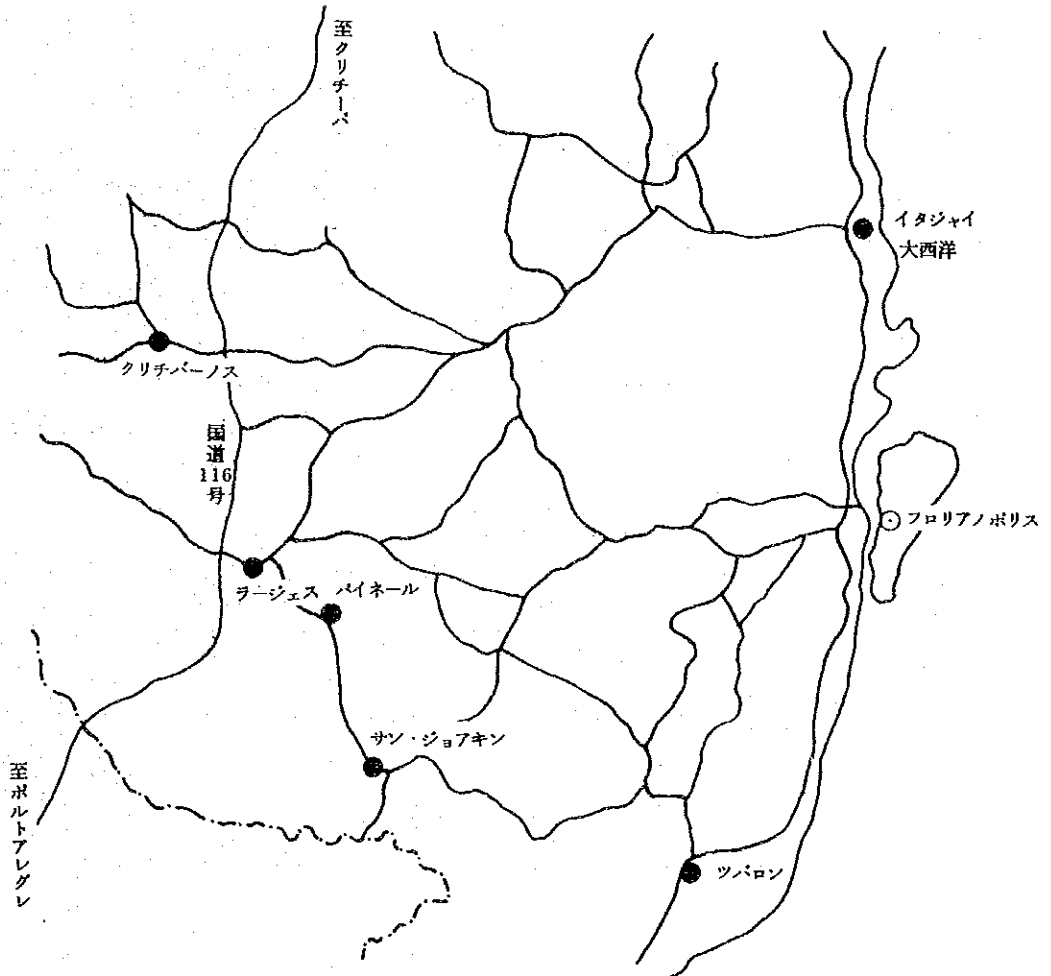
主な出身県名：ブラジル生れ、高知、福島、北海道、愛媛、福岡、和歌山、東京、長崎、香川県本、宮崎

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
	日本人	居住	60	259	60
非居住		0	0	0	
計		60	259	60	
	現地人	未調査	未調査	未調査	

1987年10月1日現在

分譲状況	総面積	1,440 ha
	分譲条件及び価格 地権取得	分譲価格はha当り約5,000~6,000 グルゼ/ロス、融資銀行の州立銀行 利息は年15%、据置3年、8ヶ年払いである。 地権取得済  (1981年10月現在)
農業	主作目	リンゴ
	形態	入植地設定計画に沿って殆んど大部分がリンゴ主体農家で、果樹園規模も5,000本~10,000本と比較的大きく半企業的経営といえる。
	営農支援機関 営農指導 金融機関	コチア産業組合 サン・ジョアキン果樹試験場、サンタ・カタリーナ州農業改良普及事務所 (ACARESC) 銀行、コチア農業信用組合

地区略図



(14) イボチ移住地

所在地	リオ・グランデ・ド・スール州イボチ郡及びドイス・イルモン郡 VALE DAS PALMEIRAS, MUNICIPIO DE IVOTI ESTADO DE RIO GRANDE DO SUL	
面積	257.53 ha	
経緯	リオ・グランデ・ド・スール州の分益農移住者が中心となり、事業団の土地購入資金の融資を受けて26戸が集団的に土地購入独立した地区で、移住地農家の雇用青年および散在近郊農家の一部が同様の要領で隣接地区を買収入植し、現在49戸が定住している。	
自然環境	地形	谷から山頂まで150~250mあり、北西に傾斜をなす丘陵の一角にイボチ移住地がある。標高平均200m
	地質・土壌	玄武岩、結晶片岩を母岩とする赤褐色ラテライトで有機質に富み水はけがよい。
	植生・林相	再生雑木林、アカシア・ネグラ植林地が大部分であったが、現在は殆んど全部が畑地となっており、ベッテン河沿いの共有地だけが雑木林で残されている。
	気候	年平均気温 21.1℃ 平均最高気温 26.3℃ 平均最低気温 14.2℃ 年間平均降雨量 1,363.8mm 降霜：冬期数回。
社会環境	主要都市への交通手段	ボルト・アレグレ市より完全舗装道路(BR116)50kmでイボチ町に至る。移住地から人口約1万人のイボチ町までは砂利道で約3km、同町からは国道BR116にて主要都市へ定期バス等が多数利用できる。
	市場	ボルト・アレグレ市 人口約 122万人 距離約 50km ノーボ・ハンブルゴ市 " 16万人 " 10km サン・レオポルト市 " 12万人 " 15km ボルト・アレグレ市、サンパウロ市、リオ・デ・ジャネイロ市、ヨーロッパ諸国。
	地区内道路整備状況	砂利道、幹線道路は郡道に編入されており、郡役所が随時補修を行っている。
	電気飲料水	電化は州の補助を受け自力で導入。 事業団補助により1976年度に3ヶ所の深井戸を掘削、良好な水質の飲料水が得られる。



公共施設 事業団援助 その他	<p>深井戸4基, ダム及び給水塔, 農協事務所兼購販売所, 公民館(1981年8月完成), 出荷倉庫, 連邦政府助成による体育館建設予定(1988年)</p> <p>医療施設はイボチ町, ドイス・イルモン市, ノーボ・ハンブルゴ市にある病院を利用している。</p> <p>イボチ町にも小学校及び中学校がありここに通学しているものもある。高校, 大学はノーボ・ハンブルゴ, サン・レオポルド, ボルト・アグレ市に通学又は寄宿。</p>
----------------------	---

入と(内地) 植人 戸員 数員	年度	41~ 46	47	現地入植者
	戸数 人員		2 2	49

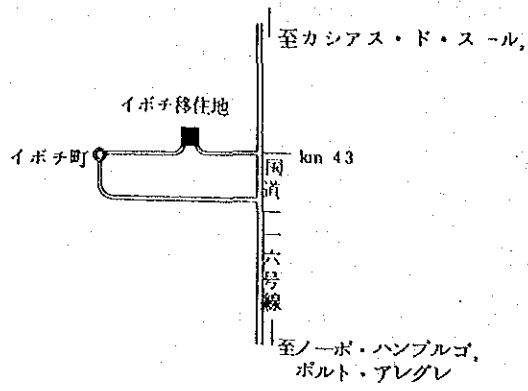
主な出身県名：鹿児島, 北海道, 山口, 熊本, 静岡

入植世帯数	区分		入植数		入植世帯数	農家戸数
			戸数	人数	戸数	戸数
	日本人	居住	49	273	49	49
		非居住	0	0	0	0
計		49	273	49	49	

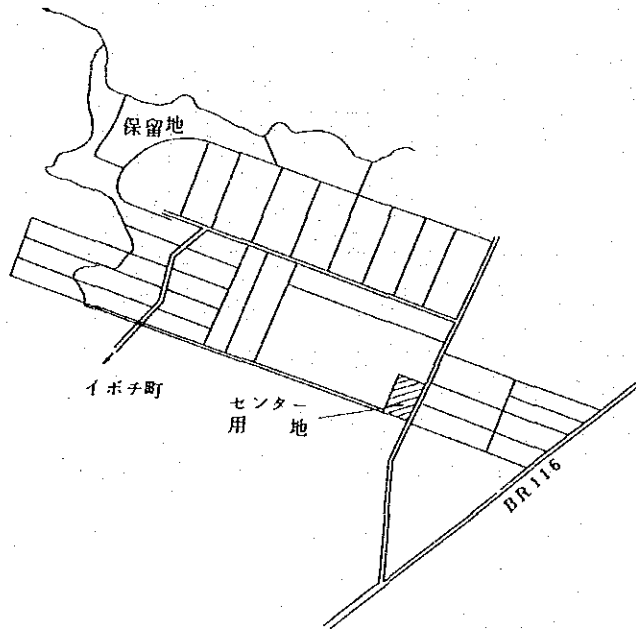
1987年10月1日現在

分譲状況	総面積	257.53ha
	ロッテ面積	1ロッテ 5.84ha
農業	分譲条件及価格	数人の地主より独立期成会が一括購入(事業団の融資援助)事後各人に分割。
	地権取得	全戸取得済
農業	主作目形	ブドウ, カーネーション, カキ イタリア種, 巨峰種などの生食用ぶどうを主幹作物としてこれに, ピワ, 柿, 柑橘, モモ等の果樹及び野菜を組み合わせた営農を行っている。
	農機具普及状況	耕耘機1.2台, トラック0.4台, 動噴2.0台 他 (1986年度農家経済調査結果)
	家畜飼養頭数	乳牛(仔0.1頭) (1986年度農家経済調査結果)
	営農指導 金融機関 主作物販売 取扱機関	州農業改良普及事務所 銀行 イボチ農協

地区略図



移住地略図



09 イタチ移住地

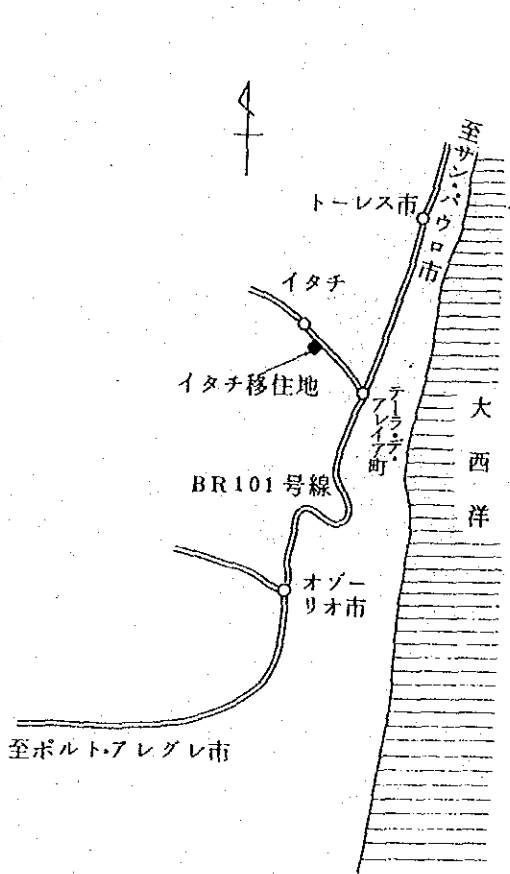
所在地	リオ・グランデ・ド・スール州オゾーリオ郡イタチ村 VILA ITATI, MUNICIPIO DE OSORIO ESTADO DE RIO GRANDE DO SUL	
面積	153.5 ha	
経緯	リオ・グランデ・ド・スール州の分益農移住者が中心となり、事業団の土地購入融資を受けて1967年集团的に土地購入し独立した地区である。現在15戸が入植定住している。	
自然環境	地形 地質・土壌 植生・林相 気温 (トーレス市)	東は河どまりで、移住地の東半分はその河の沖積層の谷、西半分は丘陵である。谷と丘陵の間に小川と低平地がある。 玄武岩、結晶片岩を母岩とする褐色のラテライトで、有機質に富み水はけがよい。 再生雑木林 年平均気温 17.9℃ 平均最高気温 21.7℃ 平均最低気温 14.4℃ 年間降雨量 1423mm
社会環境	主要都市への交通手段 市場 地区内道路整備状況 電気 飲料水 公共施設 農協	移住地～オゾーリオ市、ポルト・アレグレ市とも完全舗装(BR101)である。バス便は直行4便運行している。 トーレス市 人口約 4万人 距離約 60km オゾーリオ市 " 4万人 " 70km ポルト・アレグレ市 " 127万人 " 170km ポルト・アレグレ市が主市場、その他近傍都市。 郡道がイタチ村を環状に1周しており、砂利道であるが、雨天でもバス運行の中止はない。 電化済み。 井戸を使用 共同花卉冷蔵庫兼会場(伯銀の融資援助)

入植世帯数	入植数 区分		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
	日本人	居住	15	60	15
		非居住	2	13	0
計		17	73	15	

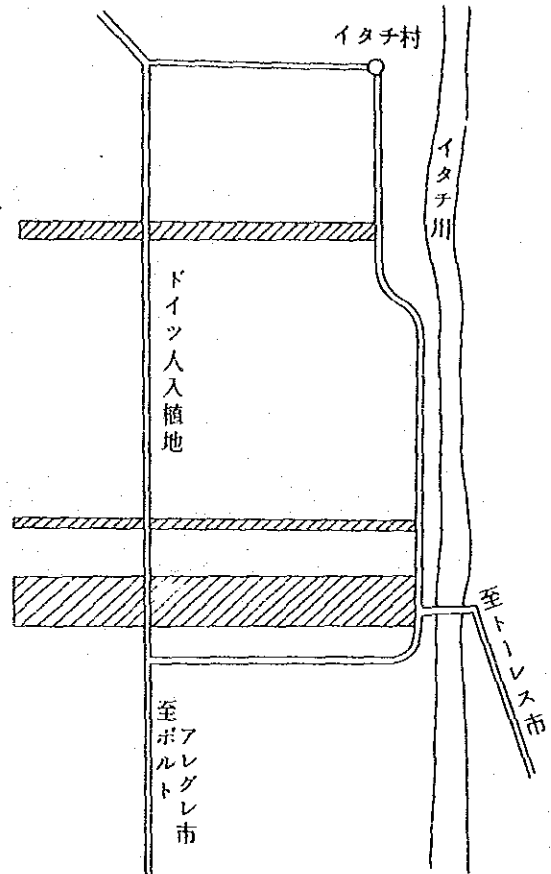
1987年10月1日現在

分譲状況	総面積	153.5 ha			
	ロッテ面積	1 ロッテ平均 14 ha 但し一部入植者(6戸)は 9.6 ha			
	分譲条件及価格	43年転入者 7戸 ha当り 850 Cr\$ 事業団融資を含む現金一括払い 45年転入者 2戸 ha当り 1,200 Cr\$			
	分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
地権取得	全戸取得済				
農業	主作目	バラ, キク, カーネーション等。			
	形態	キク, カーネーション, バラ等の花卉専業営農である。			
	営農支援機関 営農指導 金融機関	銀行			
	主作物販売 取扱機関	ポルト・アレグレ市場の委託販売業者			

地区略図



移住地略図



100 バジュー移住地

所在地	リオ・グランデ・ド・スール州バジュー郡フロレンサ村 VILA FLORENZA, MUNICIPIO DE BAGE ESTADO DE RIO GRANDE DO SUL		
面積	24 ha		
経緯	1961年4月バジュー市近郊に分益農として、ブラジル人農場に入植し、以来段階的に借地営農にきりかえた4家族が、土地を共同購入し従来の蔬菜単作に果樹を加え、営農を安定させる計画をたて事業団が融資等でバックアップした独立移住地である。現在の入植定住者は4戸である。		
自然環境	地形	なだらかな波状地形、移住地の境界をなすバジュー川に向かって、ゆるやかに傾斜している。	
	地質・土壌	赤色ブレリー土地帯に位置しているが、暗灰色味をおびた砂壤土である。心土層は白い粘土質で、表土は残く(40~50cm程度)軽い土で流亡しやすい。保水力も決して強い方でない。特に燐酸分が貧弱であるが、pHは5.5~6.5である。	
	植生・林相	即成の牧場の一部である。	
	気候	高原内陸性の夏乾冬湿がはっきりした気象型である。年平均気温17.7℃、平均最高気温23.6℃、平均最低気温12.5℃、雨量1,414mm、降霜日数65日。	
社会環境	主要都市への交通手段	バジュー市中心街まで3km、ポルト・アレグレ市までは370km、全線舗装されている。バジュー市は、ウルグァイ国境より60kmの地点に存在し、軍事上重要性があるので国境守備連隊が配置されている。又、大農場に広く取り囲まれた市で、商業も活況を呈し、また市全体としては極めて落ちついた雰囲気をかもしている。市内人口約11万人。	
	市場	バジュー市、ポルト・アレグレ市	
	地区内道路整備状況	私道であるが、良好な状態	
	電気	電気は1984年に導入	
環境	飲料水	飲料水は各ロッテに掘抜き井戸を設備	
	公共施設	移住地内にはないが、バジュー市のものを利用	
入植戸数 と 入植人員 (内地)	戸数	現地入植者 5	
	人員	24	

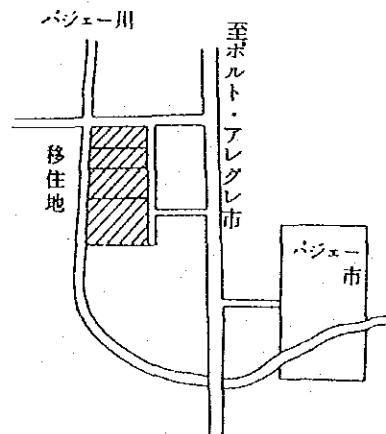
主な出身県名：長 崎

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
	区分		戸数	人数	戸数
日本人	居住		4	27	4
	非居住		0	0	0
	計		4	27	4
現 地 人			未調査	未調査	未調査

1987年10月1日現在

分譲状況	総面積	24 ha			
	ロッテ面積	5 ha (3ロッテ), 9 ha (1ロッテ)			
	分譲条件および価格	ha当り2,000 Cr \$ で購入 周辺地価(時価Cr \$ 500,000~1,000,000/ha)			
	分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
		26ha	—	—	—
農業	地権取得	全戸取得済			
	主 作 目	ぶどう, りんご他の果樹および蔬菜			
	営農援護機関	州農務局地区改良普及所			
	営農指導	銀行			
	金融機関	バジュー市の目抜き通りで隔日移動朝市があるので直売小売を行うとともに、市内の蔬菜卸売業者に卸売りを行っている。			
	主作物販売取扱機関				

移住地略図



(1) イタブアン移住地

所在地	リオ・グランデ・ド・スール州ヴィアモン郡イタブアン村 VILA ITAPUÃ, MUNICIPIO DE VIAMÃO ESTADO DE RIO GRANDE DO SUL	
面積	455ha (但し日本人入植地区 19ロッテ)	
経緯	1975年にイボチ移住地ぶどう祭りに招待した州農務長官より、上記地区で、かつて州政府が造成した農地解放植民地の一部に未分譲があるので、若し日本人農家が入植するのであれば、これを分譲してもよいとの下話があった。この情報は、いち早くポルト・アレグレ市郊外の借地野菜農家に伝わり、入植したいとするグループが自然に出来上り、直接州との話合いの結果漸次入植するに至った。現在の入植戸数は15戸である。	
自然環境	地形	傾斜丘地から水平湿地となっており、この湿地区は延々と約8.5km続いてグワイバ川となっている。
	地質・土壌	傾斜丘地区は、全くの砂地で、降雨による表土流失が著しく、地味は劣悪な状態にある。
	植生・林相	低湿地は、グワイバ川に対して湾形になった部分に、川の浮遊物が多年吹きよせられて集積されて出来たのではないかと想像される地質である。地下水位が非常に高く、溝を掘るとそこに殆んどそのまま滞水するが、これは乾湿期の差、川の水位の上下とも密接な関係があるように思われる。
	気候	丘地は貧弱な雑喬木草原で、丁度セラードを思わせるものがある。現在殆んど切りつくされているので、ひどい侵蝕地となっている。草生はまばらな禾本科植物が主である。低湿地はカヤツリグサ、チリリカとよばれる湿生多年草が主である。
環境	最寄りのポルト・アレグレ市の平均気候は次のとおりで、概ねこの数値に近いように思われるが、相対湿度がより高く、更に河面からの風が比較的強いので、冬期にも殆んど目に映るような降雨がないのが特徴となっている。	
社会環境	主要都市への交通手段	年平均気温 19.3℃      年降雨量 1322mm 平均最高気温 24.5℃      降雨日数 123日 平均最低気温 14.5℃ ポルト・アレグレ市より約30kmのラミ地区まではアスファルト道路で、あとの35kmは簡易舗装道である。入植地より5kmの地点からポルト・



社 会 環 境	市場	アレグレ向けバス1日数往復, ラミ地区からは30分おきにバス便がある。
	地区内道路整備状況	入植者の自己負担で必要により補修しているが, 砂利投入をせず地ならしだけのため, 強雨時後は通行にかなり苦心している。
	電気	1984年に自力に導入。
	飲料水	各自の手掘井戸であるが, 水質は良好。
	公共施設	地区内にはなし。
		移住地より5kmの地点に農村小学校がある。(4年課程)
		その後はイタブアン町に本校がある。
		中学以上は殆んどベレン・ノーボ村又はボルト・アレグレ市。
		医療関係は主としてボルト・アレグレ市又はベレン・ノーボ村(30km)

入 植 世 帯 数	入植数 区分		入植世帯数		農家戸数	1987年10月1日現在
			戸数	人員	戸数	
	日本人	居住	15	77	15	
		非居住	2	11	2	
		計	17	88	17	
現地人		未調査	未調査	未調査		

分 譲 状 況	総面積	455ha(但し日本人入植地区 19ロッテ)
	ロッテ面積	平均23.94ha
	分譲状況	満植
	地権取得	据置なし, 10年々賦で, 土地代の完済をもって地権が与えられる。 地権全員取得済。
		1987年10月現在

農 業	主作目	チンジャ, トマト, キュウリ, ニンジン, カリフラワー
	形態	チンジャ, トマト, キュウリ, ニンジン等の蔬菜専業。柑橘類, カキ等の果樹類が若干植え付けられている。
	営農援護機関	
	営農指導	
	金融機関	銀行

48 その他主な移住地の概況

入植地名	州名	入植者数		農家戸数	備考
		戸数	人数		
ベロッタス	リオ・グランデ・ ド・スール	69	234	30	都市近郊農業 兼商業
サンタ・マリア	リオ・グランデ・ ド・スール	37	165	15	都市近郊農業 兼商業
計		106	399	45	

1987年10月1日現在

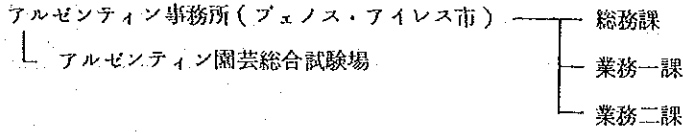
アルゼンティン共和国  
IV アルゼンティン事務所



アルゼンティン共和国

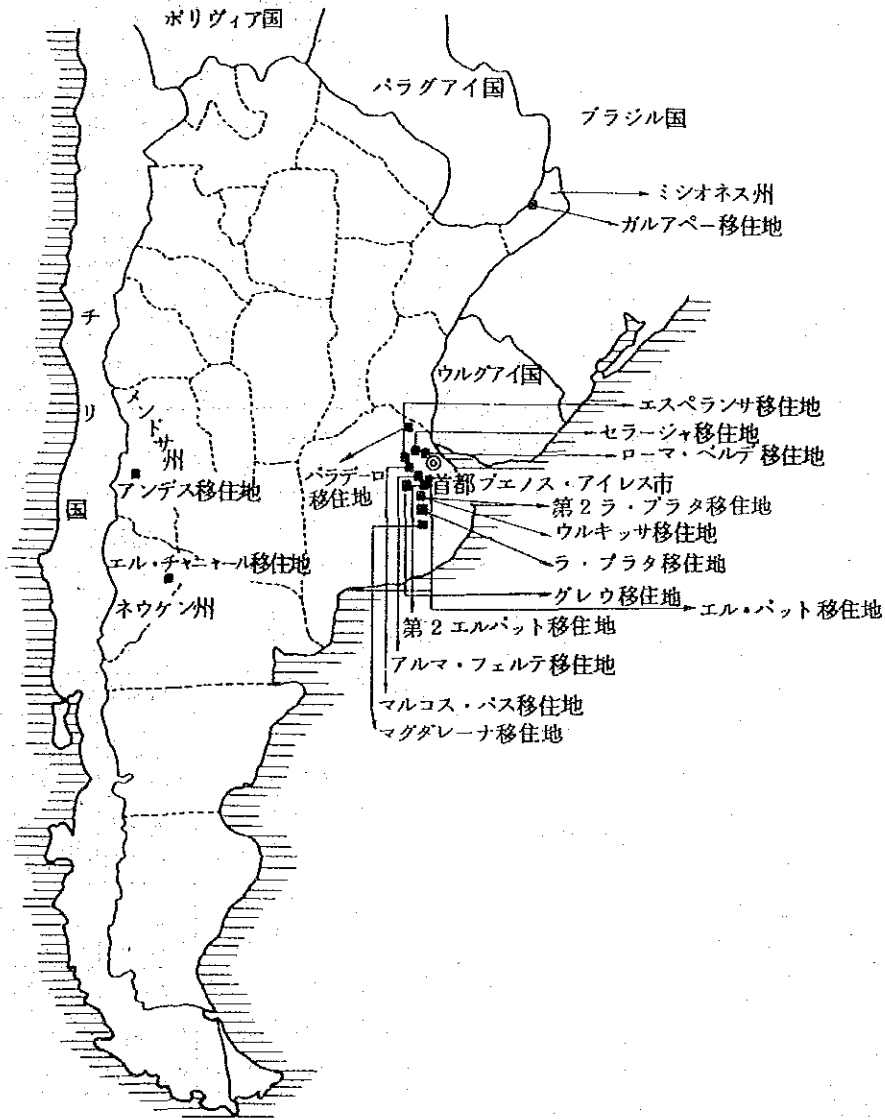
Ⅳ アルゼンティン事務所

事務所機構



管 轄

アルゼンティン国全域



# 1. アルゼンティン国の基礎指標

首都 ブエノス・アイレス

面積	独立年月日	政体	宗教	言語	民族または人種構成	通貨
2,791,810 km	1816.7.9	立憲共和制	カトリック (国教)	スペイン語	ラテン系ヨーロッパ人種 (主としてスペイン、 イタリア系子孫)	AUSTRAL

## 1. 人口、人口密度・人口増加率

年度	1960	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	※1980
人口	20,850	23,748	24,070	24,390	24,720	25,050	25,380	25,720	26,060	26,390	27,241	27,947
人口(千人)	20,850	23,748	24,070	24,390	24,720	25,050	25,380	25,720	26,060	26,390	27,241	27,947
人口密度	7.5	8.5					9.1					10.0
人口増加率	←13.9						16.1					

※ 1980年国勢調査による

## 2. 国民所得

所得	1979	1980	1984	備考
国民総所得	60,310	66,430	67,200	百万ドル
1人当り国民所得	2,210	2,390	2,230	ドル

出典：経済協力の現状と問題点 1982（通産省）  
World Bank Atlas 1984

## 3. 国内総生産

(単位：アウストラール)

区分	1985			1986			1987		
	金額	成長率	構成比(%)	金額	成長率	構成比(%)	金額	成長率	構成比(%)
農・牧・水産業	1,420.3	△ 1.3	15.9	1,380.7	△ 2.8	14.6	1,406.1	1.8	14.7
鉱業	241.6	△ 2.6	2.7	240.4	△ 0.5	2.5	235.9	△ 1.9	2.5
製造工業	2,020.1	△ 10.3	22.6	2,280.2	12.9	24.2	2,267.3	△ 0.6	23.7
建設業	283.8	△ 6.7	3.2	309.4	9.0	3.3	355.1	14.8	3.7
電気・ガス・水道	417.5	1.3	4.6	448.6	7.4	4.8	472.7	5.4	4.9
運輸・倉庫・通信	1,047.3	△ 2.9	11.7	1,082.8	3.4	11.5	1,106.2	2.2	11.5
商業・レストラン・ホテル業	1,260.3	△ 8.3	14.1	1,369.9	8.7	14.5	1,390.3	1.5	14.5
金融・保険・不動産業	697.9	△ 1.2	7.8	745.7	6.9	7.9	767.5	2.9	8.0
サービス業	1,561.7	1.1	17.4	1,574.7	0.8	16.7	1,586.0	0.7	16.5
合計	8,950.4	△ 4.4	100.0	9,432.2	5.4	100.0	9,587.2	1.6	100.0

出典：ア国中銀資料(1970年価格)

4. 輸出入構成 (単位：百万\$)

区分 \ 年度		1985	1986	1987
輸 出	植 物 産 品	3,306	2,205	1,373
	食料, 飲料, 嗜好品	855	1,169	1,337
	動物及び同産品	425	561	655
	織物及び同製品	322	246	314
	皮革類及び同製品	317	381	419
	油 脂 類	993	656	546
	そ の 他	2,178	1,634	1,716
計		8,396	6,852	6,360
輸 入	機械, 器具類	1,041	1,197	1,725
	鉱 物 産 品	570	571	823
	化学製品	799	1,036	1,040
	金属及び同製品	325	396	566
	車輛, 船舶, 航空機等	294	283	351
	製紙原料及び紙	75	123	142
	そ の 他	710	1,118	1,171
計		3,814	4,724	5,818

出典：ア国統計局資料

5. 物価上昇率 (前年対比)

物価 \ 年度	1981	1982	1983	1984	1985	1986
卸 売 物 価	180.1	311.0	410.6	624.0	363.9	57.8
消 費 者 物 価	131.3	209.7	433.7	688.0	385.4	81.9
物価 \ 年度	1987					
卸 売 物 価	181.6					
消 費 者 物 価	174.8					

出典：ア国統計局資料

## 2. アルゼンティンへの日本人移住の歴史

ア国への日本人移住者は明治一大正期はわずか1,300人で、昭和初期から盛んになり、1941年までに約4,000人に達し、合計5,300人（内沖縄県人約2,800人）で、1940年当時の在留邦人は2世を含めて約7,000人に達している。当時は独身男子が圧倒的に多く成年男女の比率は3：1であった。

ア国への移住者は、ブラジルの契約移民と異なり、アンデス越えのペルー移民の流れや、故屋清蔵氏（福島県出身、果樹園経営、1908年笠戸丸移民の転住）などブラジルからの転住者及び、日本からの直接の自由移民（渡航費の補助なし）や外務省海外実習生（1935年～41年に116人）などであった。その中には、故伊藤清蔵博士（牧場主、山形県出身、1910着亜）のような海外雄飛や牧場経営のロマンを求めた青年達もあったが、大半は出稼ぎ移住であった。又、大正期までの初期移民の転業は外人の農場の園長や、工場の労働者、家庭奉公、庭番、食堂や洗濯屋の下働きなどが大部分であった。大正中期になって小金を貯めると、とりつき易くて日銭が入る職業として先ず洗濯屋、コーヒー店を始める者や、野菜栽培として独立した。蔬菜栽培の先駆者は故石川倉次郎氏（1910年着亜、茨城県出身）であった。次いで昭和初期になると、故高市茂氏（1916年着亜、愛媛県出身）や賀集九平氏（1918年着亜、北海道出身）などの先覚者の指導もあり、花卉栽培者として独立する者がふえた。又、これらの中には、旧制中学や農学校卒業のインテリも多く、その大半はブエノス市及びその近郊60km圏内に集中して居住していた。ブラジルのような海外興業会社やブラジル拓殖組合などの植民団体もなく、又日本政府の特別の援助もなく自らの手で、蔬菜（1923年）、洗染業（1929年）及び花卉（1933年）など夫々の同業組合を作り、頼母子講によって相互に助け合いながら試行錯誤をくりかえし苦難の道を開いてきたのである。1940年頃になると今日のような洗染業と花卉及び蔬菜栽培を主とする日系社会の職業分布の基礎が形成されたといわれている。

ア国は1944年1月になって漸く日独と断交し1945年3月宣戦布告し第2次大戦に参加したが、行動制限や日本人学校の閉鎖位で日本人は不安の中にも食料にも恵まれ、抑留などの特別な迫害は受けなかった。母国の敗戦により、戦前組は永住の意志を固め定住するようになった。

1948年にはブラジルにさきがけて、呼寄移住が再開され、神奈川県実習生移住も始められた。1953年10月ア国拓殖協同組合が設立され、400戸の導入許可取得に伴ない、ガルアペー、アンデス移住地への計画移住も始まり、次いで海外実習生や花卉雇用青年を含めて現在まで約5,800人（内、沖縄県人約800人）が日本から直接移住している。

また、戦後隣接国へ移住した人の中で、1965年頃からア国への転住が増え「亜拓扱い」分のみでも次のとおりである。

パラグアイ	225件	768人
ボリヴィア	179件	368人
ブラジル	25件	60人
計	429件	1,196人



この他に、旅行者扱いによる転住者が、推定1,000人位あると思われ、戦後移住者総数は約9,700人と推定される。現在においても日本人については、その勤勉性と犯罪の少ないことを評価し、一定の技術、資本を有する者については、受入れを歓迎している。

アルゼンチン在留邦人及び日系人数統計

総数(1+2)			1. 長期滞在者			2. 永住者 (日本国籍保有者)			3. 日本人		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
8,573	7,108	15,681	512	275	787	8,061	6,833	14,894			17,800

出典：1988年度海外在留邦人数調査統計(外務省領事移住部発行)より抜粋

3. 移住地所在地域の概要

(1) ミシオネス州の概要

州移 内地	ガルアペー移住地
概	<p>ミシオネス州はアルゼンチンの最北東に位置する。</p> <p>面積は29,801km<sup>2</sup>で九州の7割(四国の1.5倍に当る)。人口58.9万人で平方キロ当りの人口密度は18.0人である。</p> <p>地形は丘陵状の起伏の多い南西から北東に細長く伸びる地形である。北側はアルト・パラナ河(ブラジル領内を流れるパラナ河の下流)によってパラグアイと境を接し、南側はウルグアイ河によってブラジル国パラナ州と接している。ミシオネス州の中央部(丁度アルト・パラナ河とウルグアイ河とから等距離の所)は山の背にあたり、パラグアイ、ブラジルの両国を眺めることができる箇所も少なくない。標高は最低200m、最高600mである。</p> <p>地質的には主として玄武岩台地で、土壌は小としてその風化したティエラ・コロラド(テラ・ロジャ)である。しかしパラグアイ南部やブラジル国の北部パラナ州のテラ・ロジャに比して酸性化しているのが多い。特に中央高地の土壌に甚しい。</p>
要	<p>気象は一般に亜熱帯に属し、内陸に入っているため温度日較差の大きい大陸性気候である。夏期の温度はさして厳しいものでないが、夜間は大変涼しい。冬期は地形の低い窪地に霜を見ることがあるが日中は相当暖くなる。雨量は年間1,600~2,200mmで、ブエノス・アイレス州などの湿潤パンパ地帯の600~1,000mmに比較しても、また、アルゼンチン全体からみても多雨地帯である。</p>
産 業	<p>産業は主として林業および農業である。この州はアルゼンチンにおける植林面積の約26%。115,000haを、また、林産物生産量では24%を占めている。この関連企業である製材工場、農産加工場をはじめ、パルプ工場等がある。</p> <p>農業では、マテ茶、紅茶、桐油、オレンジ類等が主に生産されている。</p> <p>畜産物はブエノス・アイレス州を中心とする大パンパに比較すればものの数ではないが割合に盛んである。</p>

州内主要都市	ポサーダス市
	同州の西端アルト・パラナ河河畔に位置し、対岸にエンカルナシオン市がある。人口は13万人である。
州内主要都市	オペラ市
	ポサーダス市から約100km、国道14号線上にあり、人口7万人、ミンオネス州第2の都会、農産物(ジェルバ、マテ、紅茶等)の集散地として発展した都市である。

(2) メンドサ州の概要

州移内住地	アンデス移住地
概	<p>メンドサ州はブエノス・アイレス市より西方約1,000km、南緯35°59より37°33、西経68°30より南緯70°35にあり、面積は166,905Km<sup>2</sup>である。チリーとの西境にはアコンカグア山(標高海拔7,035m)を含むアンデス山脈の高峰が連なっており、州都メンドサ市はその麓にある。同州は地形上、南北メンドサに大別され、北部メンドサの中心はメンドサ市である。南部メンドサの中心はサン・ラファエル市およびヘネラル・アルベアル市となっている。</p> <p>気候は四季に大別でき、平均気温はだいたい東京付近と同じで年16℃位であるが夏季には最高42℃、冬期は降霜もあり最低マイナス9℃を記録したこともある。年間降雨量は200mm前後で近年少しづつ多くなっている。これは最近アンデス山麓に建設された人工湖(4ヶ所)の影響によると思われる。</p>
要	<p>人口は約119.6万人、スペイン人(混血を含む)が最も多く、次いでイタリア人、フランス人、ドイツ人など、ヨーロッパ人種で人口の大部分を占め、商業にはトルコ人も多い。</p>
産業	<p>(農業)</p> <p>豊かな日照と地味により、果樹、野菜栽培が盛んで、北米のカリフォルニア州と気候、風土、農作物、灌漑農業等類似した点が多く「南米のカリフォルニア」とも称せられている。主な農産物は、果樹については、ブドウ、オリーブ、モモ、スモモ等、野菜類については、トマト、ピーマン、たまねぎ等、牧草類ではアルファルファー、大麦、ライ麦等である。これら農産物のうち、ブドウについてはアルゼンティンにおける総生産量355.5万トンのうち、233万トンが同州で出産されており、また、ブドウ酒も多く産する。トマト、ピーマンは全州至るところに缶詰、ジュースの加工工場がある。</p>
州内主要都市	<p>ヘネラル・アルベアル市</p> <p>移住地の東方14kmの地点にあり、サン・ラファエル市と並んで南部メンドサの中心都市となっている。ブエノス・アイレス市よりは900km、メンドサ市から320kmで、市の郊外には小飛行場がある。ブエノス・アイレス市との交通には、長距離バスが毎日2回往復しているので便利で</p>

州	ある。人口は4.4万人。ヘネラル・アルベアル郡の郡都である。
内	サン・ラファエル市
主	移住地より約100kmの地点にあり、南部メンドサ第一の都会で、人口15万人、鉄道のほか郊外には飛行場があり、ブエノス・アイレス市、メンドサ市方面への定期便がある。サン・ラファエル郡の郡都である。
要	メンドサ市
都	メンドサ州の主都。人口119万人、ブエノス・アイレスから西方へ1,000km余、アンデス山麓標高750mの盆地である。付近の盆地は地味肥豊であるが、気候がきわめて乾燥している
市	ため、メンドサの北20kmのラハン川から水路がひかれ、ブドウ、桃、すももなどの果樹栽培が盛んである。

(3) ブエノス・アイレス州の概要

州移住内地	エスベランサ、アルマ・フェルテ、ローマ・ベルデ、マルコス・パス、エル・パット、第2エル・パット、セラージャ、ラ・プラタ、グレウ、バラデーロ、第2バラデーロ、第2ラ・プラタ、マグダレーナの各小移住地、ブエノス・アイレス市近郊移住地
概要	<p>ブエノス・アイレス州は、西はパンバ州およびリオ・ネグロ州、南はネグロ川に囲まれている。面積は300,000Km<sup>2</sup>あり、23州のうちで最も大きく、アルゼンティン国土の9%を占めている。人口は、1,378.8万人(1980年)で(アルゼンティン総人口3,010万人)(1985年)州の南端にあるバイア・ブランカ市が工業都市、最大の輸出港として発展しており、石油化学工業等が発達している。今後はこの地域の農産物の一大消費地となることが予測される。</p> <p>ブエノス・アイレス州の農業地帯は、所謂パンパ・ウメダ地帯が大部分で、この外は南部の半乾燥地帯で、この地帯ではコロラド川の水を利用して、70万haの灌漑計画(CORFO)推進されている。</p> <p>農業の主体は牧畜であるが、灌漑農業地帯では、ピーマン、ジャガイモ、トマト、玉ネギ、ニンニク等の蔬菜が作付けられている。</p> <p>また、農産加工場も多く、トマト、ピーマンなどの缶詰も多量に生産されており、また、アルフェルファの脱水工場も稼働している。</p> <p>農村地帯では、広大な面積であるため過疎が問題で、この地帯に人口を定住させるよう教育が行なわれている。</p>
要	

国内主要都市	<p>ブエノス・アイレス市</p> <p>アルゼンティンの首都，1580年に創設され昨年400年を迎えた。南米のバリと呼ばれる気候は一年を通じ概して穏かであるが，湿度は年間を通じ高い。月平均最高気温は28.6℃，最低は7月の8.0℃である。冬期でも市内で降雨を見ることは殆んどない。</p> <p>ブエノスアイレス市の人口は20世紀初頭僅かに85万人であったのが現在では292万人にも達している。この外，同市周辺の隣接都市を含むいわゆる「大ブエノス・アイレス」の人口は684万人にも及んでいる。</p> <p>ブエノス・アイレス市はアルゼンティンの政治，経済の中心地ばかりでなく，市内に多くの公園，広場，美術館，博物館があり，訪れる観光客も多い。</p>
--------	---

(4) ネウケン州の概要

州移住内地	エル・チャニャール移住地
概要	<p>ネウケン州はブエノス・アイレス市の西南約1,300mのところにある。首都ネウケン市よりアンデス山脈に向って扇状に広がった州で，国内ではメンドサ，ラ・パンパ及びリオ・ネグロの各州に接し，西側はアンデス山脈を挟んでチリーと国境を接している。総面積94,078 Km<sup>2</sup>，総人口24.4万人（1980年現在）1km<sup>2</sup> 当り人口密度は2.6名である。総人口の内，半数以上の（59%）14万人が，ネウケン市に集中している。またネウケン州においては近年急速に人口が増加しており，その増加率は1970年～79年で39.3%（全国平均16.6%）に上っている。</p> <p>ネウケンにおける農業生産は主として灌漑による集約農業に依存しておりその大部分はLimay河とNeuquen河の合流する地帯で行われている。りんご，梨，桃，すもも，ぶどう等の果樹栽培の外，くるみ，アルファルファ，ホップ等の栽培が挙げられる。</p> <p>牧畜の主なものは綿羊で，主として，州の中部から南部にかけての地帯が中心であり，羊毛の品質も良好である。又，南部アンデス山麓地帯に180,000haに及ぶ自然林がある。この内，100,000ha程度は用材として用いられる種類である。この他，鉱物資源に富んでいるが，石油と天然ガスを除いては余り開発は進んでいない。</p>
要	<p>一方，ネウケン州の西部，アンデス山脈沿いの山麓地帯は，風光明媚な地区が多い。西北部は峨々たる山岳地帯で西南部は深緑の森林地帯である。特にSan Martin de Los Andes，リオ・ネグロ州と境を接するBariloche地区等，西南部の森林地帯とその間に散在する多数の清澄な湖，河川は眺望絶佳，南米のスイスと称されている程である。</p>

#### 4. 移住地の概要

##### (1) ガルアペー移住地

所在地	ミシオネス州リベルタードール・ヘネラル・サン・マンティン郡 GARUHAPE DEPARTAMENTO GRAL SAN MARTIN PROVINCIA DE MISIONES	
面積	3,110 ha	
経緯	ガルアペー移住地の所在するミシオネス州は、移住者（戦前約100世帯、戦後約30世帯）がすでに在住してその大部分が農業に従事し、かなりの成功をおさめていたことから、亜国拓植協同組合（通称「亜拓」）が1955年Luis M.Garacino氏から220 haの土地を購入し、家族ならびに青年呼寄の母体として、実習農場や種苗育成農場の経営をすすめていた処、当地方の広大な土地を所有するGaracino氏は、日本人の勤勉さに目をつけ、同氏の所有土地を日本人に分譲し日本人移住地が実現すれば同地方の発展に大いに寄与するであろうとして、亜拓に土地の分譲を申し入れた。これを契機に、亜拓がアルゼンティン移民局に400家族の導入許可申請を行い、1957年1月11日移民局から400家族の導入許可を取得して（ただし1州80家族導入を限度とする）、移住振興KKが同年8月3日Garacino氏所有の土地の一部3,110 haを購入し、80家族の入植を目標とした移住地の造成が開始され、1959年5月日本から第1陣4家族が入植した。 その後、1965年までドミニカからの転住者12世帯を含めて84世帯が入植したが、其後退耕者もあって、現在の定住者は15家族となっている。	
自然環境	地形	アルト・パラナ河畔にあり河に向かってゆるく傾斜している波状丘陵地で標高250~300mである。地区内には小川が多い。
	地質・土壌	母岩は主として玄武岩で、土壌はその風化土壌であるティエラ・コロラド（ティエラ・ロジャ）で極めて肥沃である。所々にトスカといって黄色味を帯びた比較的軽い石混りの土壌地帯もあり、また、アルト・パラナ河畔には砂質の所もある。
	植生及び林相	高さ20mから25mの高木が割合密に生い茂っている原生林であるが有用材は殆んど伐りつくされている。
	気候	雨期、乾期の別は明らかでない。年間降雨量は1,500mm、平均気温は20℃、最高平均気温33.3℃、最低平均気温8.5℃。
社会環境	主要都市への交通手段	ミシオネス州の州都ポサーダス市（人口約15万人）より東北160 kmの国道12号線沿いにあり、国道12号線はイグアスへの観光道路で舗装されている。ポサーダス市よりガルアペー間は、1日バスが数便あり所要時間4~5時間である。
	市場	中間市場はポサーダス市、主なる市場はブエノス・アイレス市である。

社 会 環 境	地区内道路整備状況	幹線は土道である(1981年度事業団により補修工事実施。補修工事費総額1,375.3万円)
	電 化	1974年8月25日電化された(220V)(事業団補助793.5万円)
	飲料水	素掘井戸14~15mの深さで極めて良質の水を得ることができる。
	公共施設	学校 州立86小学校 ガルアペー日語学校 教師2人 生徒22人(1988年4月現在)
	事業団援助	農 協 組合事務所兼倉庫 自治体等 選果工場 公民館

入 入 植 員 戸 数 と 内 地	年度	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1969	1971	現地入植者
	戸数	10	16	4	13	32	2	9	1	1	19
	人員	53	86	19	59	175	6	27	6	8	60

- (注) (1) 1962年ドミニカ転住者12家族72名を含む。  
(2) 現地入植者には辻企業(8社)を1戸として管理人1名。  
(3) 退耕者ロッテ購入入植1戸を加え計上した。  
(4) 分家完全独立1戸6名を加え計上した。

主な出身県名：北海道，熊本，広島，東京，長野，高知

入 植 世 帯 数	入植数		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
	区分	居住	15	73	15
		非居住	—	—	8
		計	15	73	23
現地人		9	—	5	

1988年4月1日現在

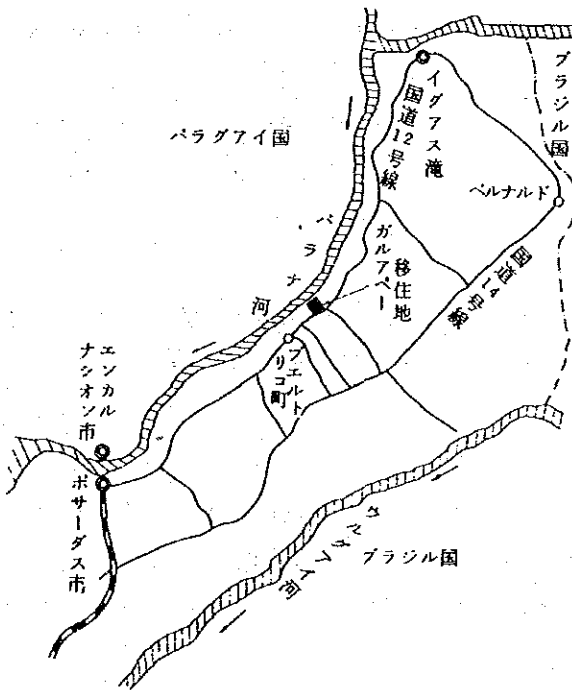
分 譲 状 況	分譲可能面積	2,993.3ha (99ロッテ)			
	1ロッテ面積	30ha内外			
	分譲条件及び価格	一括払い 521.3千円 分割払額金 52千円 4年据置 5年賦払 利息1.9%			
	分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路，河川，市街地等	除地
		分譲完了	公共用地のみ	—	—
地権取得	取得済 93 ロッテ 未取得 6 ロッテ (1988年3月末現在)				
主 作 目	温州みかん，トマト，植林，油桐				

農	形態	温州みかん、植林、油桐と野菜を加えた複合経営。
	農機具普及状況	トラック1.1台 トラクター1.1台 動噴1.0台 他 (1986年度農家経済調査結果)
業	家畜飼育頭数	乳牛(成0.5頭・仔0.2頭), 肉牛(成0.3頭), 豚(成0.3頭・仔0.6頭) (1986年度農家経済調査結果)
	営農援護機関	
	営農指導	INTA(国立農業技術院), 事業団
	金融機関	銀行, 事業団
	主作物販売 取扱機関	ガルアペー農協を通じ, 主にブエノス市であるが, ポサーダス市にも出荷されている。

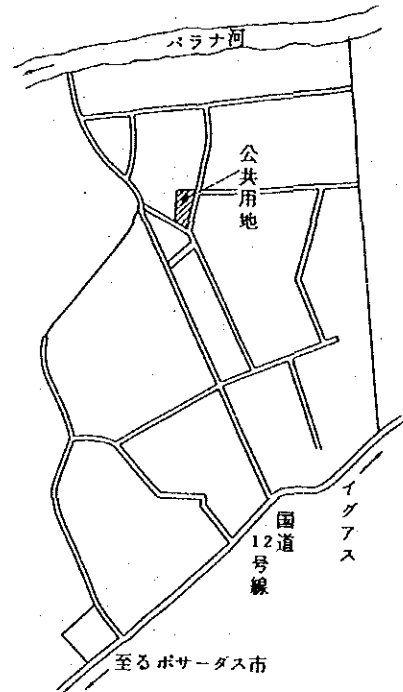
移住地区内日系団体

- ・ガルアペー農協(法定)
- ・ガルアペー日本人会(法定)
- ・ガルアペー電気組合(法定)

地区略図



移住地略図



## (2) アンデス移住地

所在地	メンドサ州サン・ラフェル郡 ANDES DEPARTAMENTO DE SAN RAFAEL PROVINCIA MENDOZA
面積	1,312ha
経緯	アンデス移住地は、ガルアペー移住地に次いで集団移住地として、旧日本海外移住振興K.K.が1959年5月、メンドサ州アトエルスード地区に1,312haの土地を購入し、亜拓が取得した日本人移住者導入許可条件(1州80家族を限度とする)に基づき、80家族の導入を計るべく設定されたものである。 1962年現地入植を皮切りに、1963年北米カリフォルニアで、派米短期農務者として就労経験をもつ青年10名が集団入植し、併せて1966年までに27家族が入植したが、其後退耕者があり、定住者は現在11家族である。
自然環境	地形 標高600m、所々に起伏があるが概して東南に向かってゆるやかな傾斜をなす平坦地である。 地質・土壤 植質土壌を含んだ砂質土で砂は粒子、頗る細かく粘土分も含まれているが、その含有率は所により異なる。弱アルカリ性土壌でpHは7.5~8.0位。 植生・林相 耐乾性の強い約40~70cm位の灌木類が密生しており、巨木はない。 気候 1年を通じ最も暑い時期が1月で最高平均気温24.7℃、最も寒いのは7.9℃となっている。7~8月頃に1~2回雪の降ることがある。平均年間降雨量500mm。
社会環境	主要都市への交通手段 本地区は首都ブエノス・アイレス市より西方960km、州都メンドサ市より南々東330kmにある。ヘネラル・アルベアル市およびハイメ・ブラッツ町(この間4kmは未舗装)リアル・デル・パードレ町サン・ラファエル市に至る道路は舗装されている。 なお、メンドサ市へは毎日3回のバス便(所要時間約5時間半)があり、ブエノス・アイレス市へは1日2往復(所要時間約15時間)長距離バスが運行している。 航空便は、ブエノス・アイレスからサン・ラファエル市まで週3便、所要時間約4時間である。サン・ラファエル市からヘネラル・アルベアル市まで毎日8回のバス便(所要時間約2時間半)が運行されている。
市場	主な農産物の販売取扱機関並びに主市場は次のとおりである。 ○ぶどう サン・ラファエル市、ヘネラル・アルベアル市、ハイメ・ブラッツ町各種造所の外、半官半民のGIOL醸造所と取引されている。



社 会 環 境	地区内道路整備状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イチゴ(苗生産) 主にブエノス・アイレス市近郊イチゴ栽培農家と取引きされており、かなりの需要がある。</li> <li>○桃、アズ、スモモ 近傍乾果工場と取引きされている。</li> <li>○カンピョウ、切干大根 「亜拓」その他ブエノス・アイレス邦人対象でかなりの需要がある。</li> </ul> 幹線は土道である。(事業団より1981年度及び82年度補修工事実施。補修工事費総額 5,876万円)
	電気	1967年に全戸電化されている。(事業団助成684.7万円)。家庭用单相交流220V。
	飲料水 公共施設 事業団援助	用水路に流れる灌漑水を地下槽に貯水して利用している。天水も一部利用している。 宿泊所(南部メンドサ日本語校が使用)
	その他	学校 小学校 移住地入口より2kmにあり自転車または徒歩で通学。 ヘネラル・アルベアル市は社会環境が整っている。 南部メンドサ日本語校 休校 北部メンドサ日本語校 教師1人 生徒12人(1988年4月現在)

入植状況	年度	1962	1964	1965	1966	現地入植者
	戸数	1	14	1	1	12
	人員	5	60	4	5	48

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
	区分		戸数	人数	戸数
	日本人	居住	11	34	11
		非居住	—	—	1
		計	—	—	12
現地人		9	—	4	

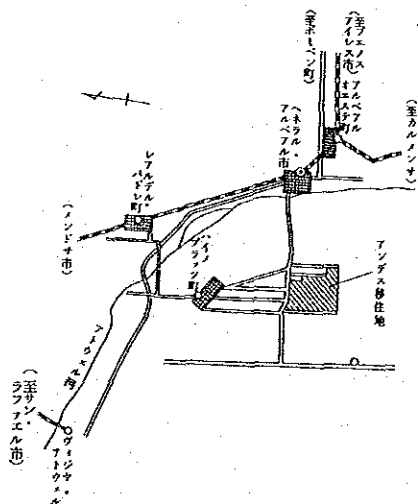
主な出身県名：香川、佐賀、鹿児島、兵庫、熊本

1988年4月1日現在

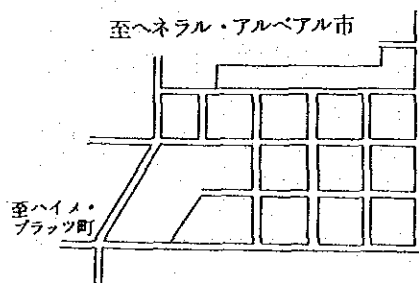
分譲状況	総面積	1,312 ha		
	ロッテ面積	10 ha (標準ロッテ)		
	分譲条件および価格	一括払 592.9千円 分割払 頭金59.3千円, 据置4年, 5年賦払, 利息3% 円建による分譲契約		
	分譲可能面積	675.6 ha (69ロッテ)		
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	589.9ha(60ロッテ)	85.7 ha(9 ロッテ)	636.4 ha	0
地権取得	60ロッテ取得済			
農業	主作目	ブドウ, モモ, イチゴ		
	形態	ブドウを基幹作物とし, これと野菜を加えた複合経営		
	農機具普及状況	トラクター1.1台 トラック0.9台他: (1986年度農家経済調査結果)		
	家畜飼育頭数	役馬(成0.4頭) 乳牛(成0.7頭・仔0.3頭) 豚(成0.1頭・仔0.1頭) ヤギ(成18.2頭・仔4.5頭) (1986年度農家経済調査結果)		
	営農支援機関			
	営農指導	事業団, INTA		
	金融機関 主要作物販売 取扱機関 その他	事業団 イチゴ生産組合, 販拓, その他 同移住地一帯は半乾燥地帯でアトリエル川から取水し, 灌漑農業を行っている。 全戸「アンデス移住地水利組合」に加入, 水利の維持を図っている。		

移住地内日系団体 : コロニア・アンデス協会

地区略図



移住地略図

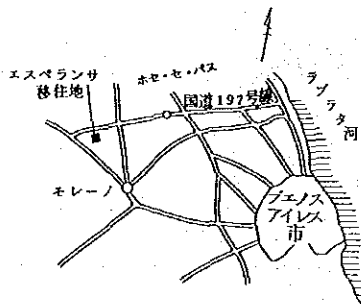


(3) エスペランサ移住地

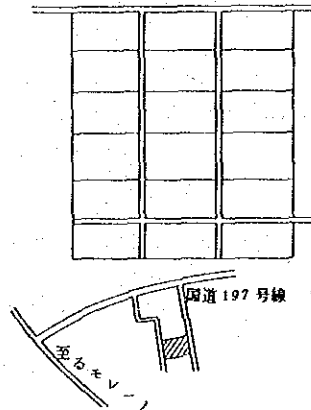
所在地	ブエノス・アイレス州モレーノ郡 LUGAR MORENO, PARTIDO MORENO, Pcia. BUENOS AIRES	
面積	37 ha	
経緯	戦後移住した花卉青年等を対象に、その独立援護の一環として10～15戸(小移住地)の独立用地を事業団が概ねブエノス・アイレス市近郊50km内外に一括購入して、雇用契約満了後の青年に予約分譲方式によって分筆分譲して来たものである。 独立用地は、当事業団ならびに独立希望者、亜拓の協力を得て選定を行い、現在までに14カ所の小移住地を設定している。 当移住地は、その第1番目の小移住地で、1967年から入植が開始された。	
自然環境	地形	全体として南東に向ってゆるやかな傾斜をなす。 平坦地、標高29～30m
	地質・土壌	幾分粘土性のある黒色土、表土の深さ35～50cm 排水性良好、地力がありカーネーション栽培に良。 地味は極めて肥沃である。
	植生・林相	牧草原野の一部で、樹木の自然植生は殆んど見られない。 1～2月頃が最も暑い、最高平均気温22.4℃。6～7月が最も寒い、最低平均気温9.5℃ 平均年間降雨量850mm
社会環境	主要都市への交通手段	国道197号線(舗装道路)を30分毎にバスが運行しており、ホセ・セ・バス、モレーノに通じている。 ホセ・セ・バス、モレーノからブエノス・アイレスまで郊外電鉄線が通じている。
	市場	ブエノス・アイレス市
	地区内道路整備状況	土道
	電気	電化済み
	飲料水	深井戸60m前後で良質の水が得られる。
	公共施設	地区内には特にないが、近郊のホセ・セ・バス市及びモレーノ市の社会環境は良く整備されている。
入植状況	主な出身県名：東京、長野、神奈川、富山	

入植状況	全戸現地入植者, 12戸49人, この外アンディーノ産組(法人)が1ロット購入し, バラ栽培を行っている。					
入植世帯数	区分		入植数		入植世帯数	農家戸数
			戸数	人数	戸数	
	日本人	居住	12	54	11	—
		非居住	3	—	—	
計		15	54	11		
現地人		—	—	—		
1988年4月1日現在						
分譲状況	総面積	37.8 ha				
	ロット面積	1.9 ha				
	分譲条件および価格	一括払い1,135千円 分割払頭金113.5千円, 4年据置, 5年分割払利息19%				
	分譲可能面積	34.8 ha (18ロット)				
分譲状況	分譲済面積		未分譲面積		道路市街地等利用地	除地
	34.8 ha(18ロット)		0 ha		3 ha	0
地権取得	18ロット中取得9ロット, 未申請9ロット					1988年3月末現在
農業	主作目形態	バラ, キク, イチゴ, カーネーション, 鉢物 花卉と蔬菜との複合経営				
	農機具普及状況	トラック0.9台 耕耘機0.7台 農用冷暖房装置6.1式 トラクター0.1台他 (1986年度農家経済調査結果)				
	営農援護機関	事業団, INTA ホセ・セ・バス出張所				
	主作物販売取扱機関	アルゼンティン花卉産業組合				

地区略図



移住地略図



(4) アルマ・フェルテ移住地

所在地	プエノス・アイレス州サン・ビセンテ郡 CUARTEL 8° - PARTIDO SAN VICENTE, Pcia. DE BUENOS AIRES	
面積	38 ha.	
経緯	エスベランサ移住地と同様の目的・経緯で設定された第2号移住地である。 入植開始は1968年。	
自然環境	地形	全体に西に向ってゆるやかな傾斜をなす平坦地である。標高27~30m
	地質・土壌	表土は粘土性ある黒色土で、有機質に富み極めて肥沃である。表土の深さは平均40cmあり、花卉栽培に適している。
	植生・林相	牧草原野、自然生育の樹木はない。
	気候	乾期雨期の区分が明確でない。1~2月頃が最も暑く、最高平均気温28.4℃。6~7月が最も寒く、最低平均気温6℃。平均年間降雨量890mm。
社会環境	主要都市への交通手段	ブエノス・アイレス市からグレウまでは陸路35km、鉄道、バスが頻繁に往復し至便である。グレウ駅からは本地区より200mの地点まで、バスが10分おきに往復しており道路は舗装されている。
	市場	ブエノス・アイレス市
	地区内道路整備状況	土道
	電気	電化されている。
	飲料水	深井戸60m掘削すると良質の水が得られる。
	公共施設	移住地内に日本語学校がある。(教師1名、生徒19名)(1985年7月現在)。移住地より約3kmでグレウの市街地に達し、社会生活環境は整っている。
入植状況	全戸現地入植者 13戸 主な出身県名：神奈川県	

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
	区分	居住	非居住	計	現地人
日本人	居住	13	63	13	13
	非居住	2	—	—	—
	計	15	63	13	13
現地人	—	—	—	—	—

1988年4月1日現在

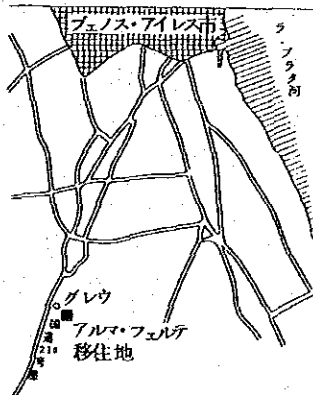
分譲状況	総面積	38.8ha (15ロッテ)
	ロッテ面積	2.6ha
	分譲条件および価格	一括払 1,200千円, 分割払 頭金120千円, 4年据置5年分割払, 利息19%
	分譲状況	全て分譲済(15ロッテ)
	地権取得	15ロッテ中取得 11ロッテ 未申請4ロッテ

1988年3月末現在

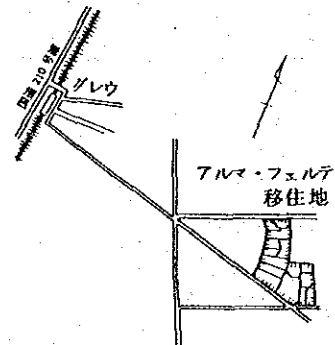
農業	主作目	カーネーション, キク, イチゴ
	形態	カーネーション, キク, バラ等の花卉及びイチゴ等の蔬菜類と園芸農家が主体。
	農機具普及状況	トラック0.5台 耕耘機1.0台 トラクター0.5台 動噴1.3台 農用冷暖房装置0.4式 他 (1986年度農家経済調査結果)
	家畜飼養頭数	ヒツジ(仔0.1頭) (1986年度農家経済調査結果)
	営農支援機関	営農指導 事業団アルゼンティン園芸総合試験場, INTA, フロレンシア・バラ出張所
	金融機関	事業団, 銀行
	主作物販売取扱機関	アルゼンティン花卉産業組合

移住地区内日系団体：組織だったものはない。

地区略図



移住地略図



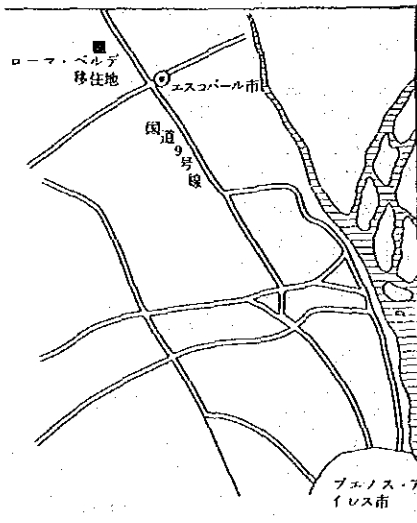
(6) ローマ・ベルデ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州エスコバル郡 COLONIA LOMA VERDE, DEPARTAMENTO BELEN DE ESCOBAR, Pcia DE BUENOS AIRES					
面積	42ha					
経緯	エスペランサ移住地の同様の目的、経緯で設立された第3号移住地である。 入植開始は1969年からである。					
自然環境	地形	平担地で標高約30m程度、ゆるやかな傾斜が西に流れている。				
	地質・土壌	沖積土地帯であり、表土は粘土質の黒色土で有機質に富み肥沃である。表土の深さは平均40cm程度で花卉栽培に適している。				
	植生・林相	牧草原野				
	気候	乾期雨期の区別が明確でない。1～2月頃が最も暑く、最高平均気温29.8℃。年間平均気温15.9℃ 平均年間降雨量855mm。				
社会環境	主要都市への交通手段	ブエノス・アイレス市より陸路56kmである。道路は舗装されており、交通至便。				
	市場	エスコバル市より8km(国道9号線)				
	地区内道路整備状況	ブエノス・アイレス市 土道である。				
	電気	1974年度に地区内の電化が完成、ブエノス・アイレス州電力局より配電をうけている。				
	飲料水	飲料水は深井戸60m程度を掘削すると良質の水が得られる。				
	公共施設	地区内には特にないが、移住地より8kmでエスコバル市の中心に達するので市内の小学校、中学校、病院等を利用出来る。				
入植世帯数	入植数		入植世帯数		1988年4月1日現在	
	区分		戸数	人数		
	日本人	居住	11	55		11
		非居住	4	—		—
計		15	55	11		
現地人		—	—	—		

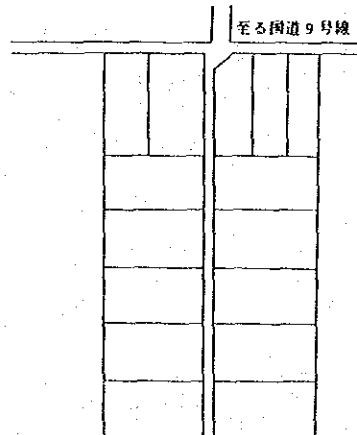
主な出身県名：東京，青森，神奈川					
分譲状況	総面積	42.8ha			
	ロッテ面積	2.8ha			
	分譲条件及び価格	一括払 頭金1,684.5千円 分割払 頭金168.45千円 4年据置5年分割 利息1.9%			
	分譲可能面積	41.5ha (15ロッテ)			
	分譲状況	<table border="1"> <tr> <th>分譲済面積</th> <th>道路市街地等利用地</th> </tr> <tr> <td>41.5ha (15ロッテ)</td> <td>1.3ha</td> </tr> </table>	分譲済面積	道路市街地等利用地	41.5ha (15ロッテ)
分譲済面積	道路市街地等利用地				
41.5ha (15ロッテ)	1.3ha				
地権取得	15ロッテ中取得12ロッテ，未申請3ロッテ				
1988年3月末現在					
農業	主作目	バラ，イチゴ，キク，観葉植物			
	形態	バラ，キク観葉植物等の花卉を主幹にイチゴ等の蔬菜園芸を従とした単一経営			
	農機具普及状況	トラック1.0台 耕耘機1.4台 動噴1.9台 農用冷暖房装置2.6式他 (1986年度農家経済調査結果)			
	営農支援機関	営農指導 事業団アルゼンティン園芸総合試験場 INTA Delta 試験場 金融機関 銀行，事業団			
	主作物販売取扱機関	アルゼンティン花卉産業組合			

移住地内日系団体：組織だったものはない。

地区略図



移住地略図





(6) マルコス・パス移住地

所在地	ブエノス・アイレス州マルコス・パス郡 MARCOS PAZ, Pcia. BUENOS AIRES	
面積	37 ha	
経緯	エスペランサ移住地と同様の経緯・目的で設立された第4号移住地である。1970年より入植が開始された。	
自然環境	地形	東西に約1,270m, 南北に約1,240m, 地形は、ゆるやかな傾斜が西より流れている。標高平均30m。
	地質・土壌	沖積土地帯であり、表土は黒色の砂壤土で有機質に富み肥沃である。黒色表土の深さは約30cmであるが、それ以下50cm程度まで褐色砂壤土であり、花卉栽培に適している。
	地質・土壌	樹木の植生は1本も見られない。
	気候	1～2月頃が最も暑い、最高平均気温30.1℃, 6～7月頃が最も寒い、最低平均気温4.5℃, 平均年間雨量938mm。
社会環境	主要都市への交通手段	移住地よりマルコス・パス市まで約2.5kmで、ブエノス・アイレス市とマルコス・パス市間は陸路45km, 国鉄およびバス便があり、所要時間は国鉄は約1時間20分, バス約40分, 交通至便。
	市場	大半がブエノス・アイレス市, 陸路45km, マルコス・パス市
	地区内道路整備状況	土道である。
	電気	1973年7月に電化された。
	飲料水	飲料水は約50m程度掘削すると良質の水が得られる。
	公共施設	マルコス・パス市に小学校18校, 中学校2校がある。 マルコス・パス日語校 教師2人 生徒18人 (1985年7月現在) 病院は慈善病院1院, 個人病院4院がある。

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
	区分	居住	戸数	人数	戸数
			日本人		
		12	48	12	
		1	—	—	
		計	13	53	12
	現地人		—	—	—

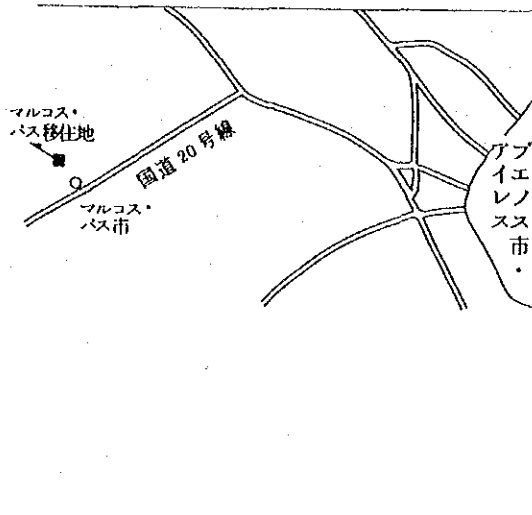
主な出身県：東京，香川，沖縄

1988年4月1日

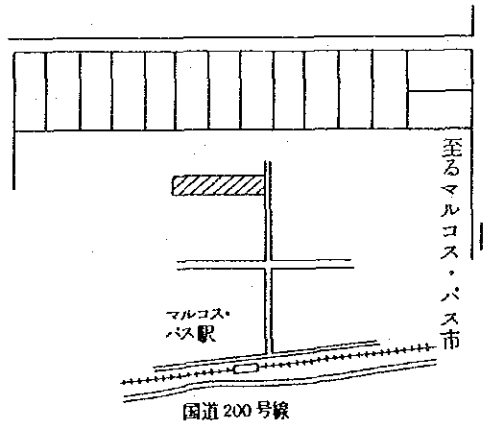
分譲状況	総面積	40.2ha
	口積	2.9ha
	分譲条件および価格	一括払 1,500千円 分割払 頭金10%，4年据置5年分割払，利息19%
	分譲可能面積	40.2ha（14ロット）
	分譲状況	全て分譲済（14ロット）
	地権取得	14ロット中取得10ロット，未申請4ロット
農業	主作目	キク，カーネーション，鉢物
	形態	キク，カーネーション等を主体とした花卉園芸単一経営 養鶏農家が一戸ある。
	農機具普及状況	トラック0.5台 トラクター0.9台 耕耘機1.1台 動噴1.2台 (1986年度農家経済調査結果)
	家畜飼養頭数	ヒツジ(成0.1頭)
	営農援護機関	
	管農指導 金融機関	アルゼンティン園芸総合試験場 銀行，事業団ブエノス花卉産業組合
主作物販売取扱機関	アルゼンティン花卉産業組合	

移住地内日系団体には組織だったものはない。

地区略図



移住地略図



## (7) エル・パット移住地

所在地	ブエノス・アイレス州ベラサテギ郡 RUTA NACIONAL, PARTIDO DE BERAZATEGUI, Peia DE BUENOS AIRES	
面積	37 ha	
経緯	エスペランサ移住地と同様の経緯，目的で設立された第5号の移住地である。	
自然環境	地形	全体的にみて，やや波状形の平坦地で南方に向かってゆるやかに傾斜している。標高平均28 m。
	地質・土壌	沖積地帯であり，表土は若干粘土性のある黒色壤土で，有機質に富み極めて肥沃である。表土の深さは平均40 cm，50 cm以下は良質の粘土性を帯びた黒色土で花卉栽培に適している。
環境	植生・林相	樹木の植生は見られない。
	気候	1～2月頃が最も暑い，最高平均気温28.4℃ 6～7月頃が最も寒い，最低平均気温6.0℃ 平均年間降雨量893 mm
社会環境	主要都市への交通手段	移住地より東方約1.5 kmの地点には，国道2号線（ブエノス・アイレス～マル・デル・プラタ）が通っており，両市間ならびにブエノス・アイレス～ラ・プラタ市間を往復するバスの他，南部各都市を結ぶ長距離バスが頻繁に往復している。 国道41 kmの地点にバス停留所があり，ブエノス・アイレス市までの所要時間は，約1時間程度である。 エル・パット町陸路5 km，メルチョール・ロメロ町陸路17 km，アバスト町陸路17 km，ラ・プラタ市（州首都），陸路29 km ブエノス・アイレス市，陸路41 km
	市場電気飲料水公共施設	大半がブエノス・アイレス市 電化完了 良質の地下水を利用 移住地内に日本語学校がある（教師1名，生徒18名）（1985年7月現在）。 移住地より北東にあるエル・パット町に小学校，診療所がある。 エル・パット町に警察駐在所がある。

入植世帯数	入植数 区分		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
	日本人	居住	10	49	10
非居住		2		1	
	計	12	49	11	
	現地人	-	-	-	

主な出身県：福岡

1988年4月1日現在

分譲状況	総面積	37.1ha		
	ロッテ面積	2.6ha		
	分譲条件および価格	一括払 1,162千円 分割払 頭金162千円 4年据置5年分割払 利息19%		
	分譲可能面積	34ha (13ロッテ)		
分譲状況	分譲済面積	34ha (13ロッテ)		
	道路市街地等利用地	3.1ha		
地権取得	13ロッテ中取得9ロッテ, 未申請4ロッテ			
地区内道路整備状況	土道である。			

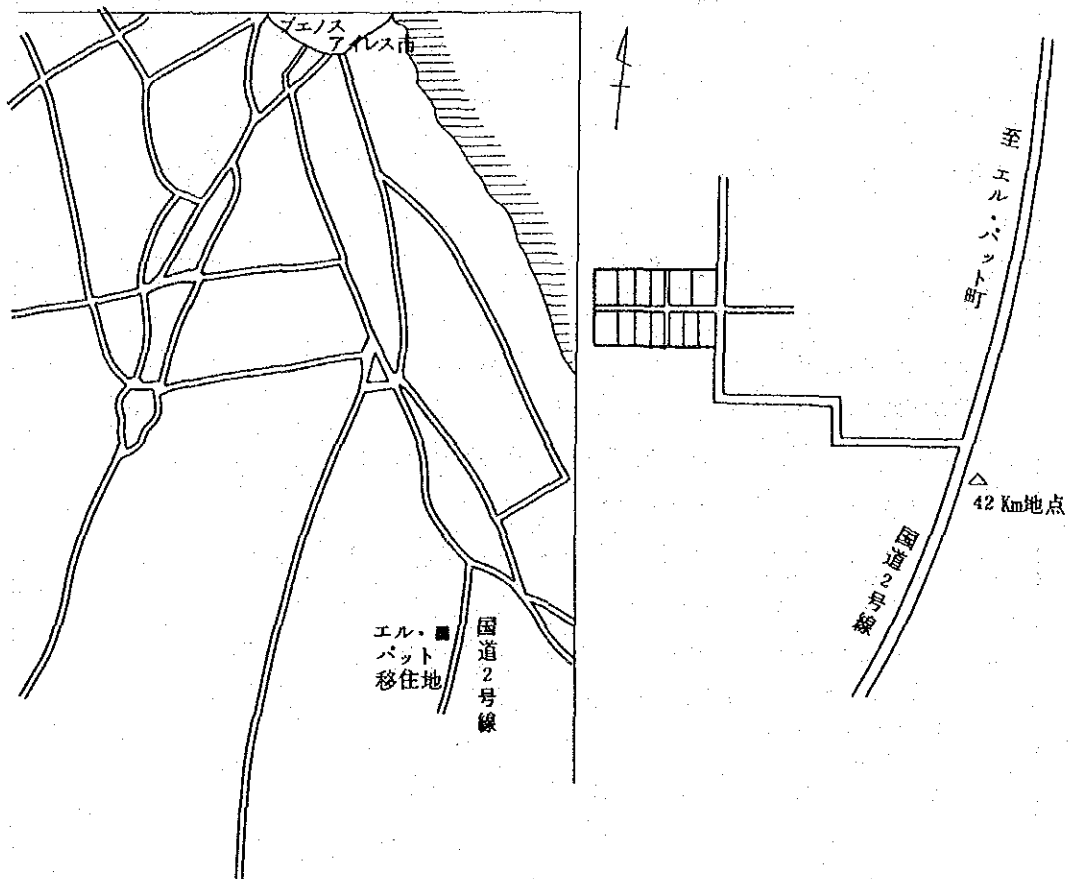
1988年3月末現在

農業	主作目	カーネーション, キク, バラ		
	経営形態	カーネーション, キクの花弁園芸単一経営		
	農機具普及状況	トラック0.7台 耕耘機0.6台 トラクター0.9台 動噴1.6台他 (1986年度農家経済調査結果)		
	営農援護機関			
	営農指導 金融機関	事業団アルゼンティン園芸総合試験場 INTA Florence Varela 出張所 銀行, 事業団		
主作物販売取扱機関	アルゼンティン花卉産業組合			

移住地内には組織だった日系団体はない。

地区略図

移住地略図



## (8) セラージャ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州ピラル郡 BARRIO ZELAYA PARTIDO DE PILAR, Pcia. DE BUENOS AIRES	
面積	30ha	
経緯	エスペランサ移住地と同様の目的、経緯で設立された移住地で、入植開始は1972年である。	
自然環境	地 形 地 質・土 壤 植 生・林 相 気 候	全体にやや平坦な地で南方に向ってゆるやかに傾斜している。 沖積土地帯で、表土は若干粘土性のある黒色壤土で有機質含有量は普通である。 表土の深さは18~28cmで下層は黒色粘土層である。 一部に(0.2~0.3ha)ユーカリがあり、放牧中の牛の口焼除けに利用されている外は全面原生草地である。 1~2月頃が最も暑い、最高気温29.8℃ 6~7月頃が最も寒い、最低気温8.9℃ 平均年間雨量855mm
社会環境	主要都市への 交通手段          市 場 地区内道路整備 状 況 電 気 飲 料 水 公 共 施 設	移住地は国道8号線と9号線の間地点にあり、東方約4kmには州道25号線(ピラル市、エスコバル市)が通っており、両市を往復するバスの外ピラル市、エスコバル市地点では、南北都市を結ぶ長距離バスが頻繁に往復している。 ブエノス・アイレスおよびベルガミーノ市を結ぶ鉄道が、移住地の北方を通っており、700m北方にセラージャ駅がある。 バス、鉄道何れによってもブエノス・アイレス市までの所要時間は、約1時間30分程度である。 セラージャ町人口0.4万人、陸路700m、エスコバル市人口7.1万人 陸路7km ピラル市人口7.1万人、陸路10km、ブエノス・アイレス市人口292万人、陸路52km 大半がブエノス・アイレス市 土道 電化完了 良質の地下水を利用 移住地区には特にないが、移住地より北方700mにセラージャ町があり、小学校・診療所がある。セラージャ町に警察駐在所がある。

入植世帯数	入植者		入植世帯数		農業戸数
	区分		戸数	人数	戸数
日本人	居住		10	49	10
	非居住		1	—	1
	計		11	49	11
	現地人		—	—	—

全戸現地入植者

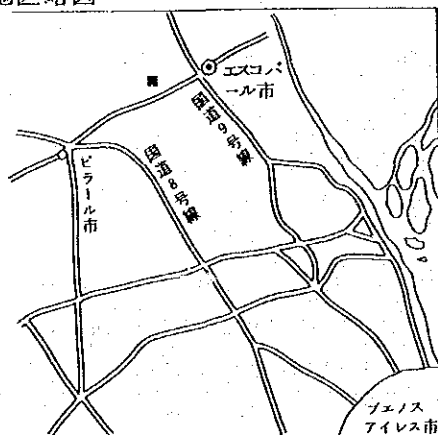
主な出身県名：北海道，福島

1988年4月1日現在

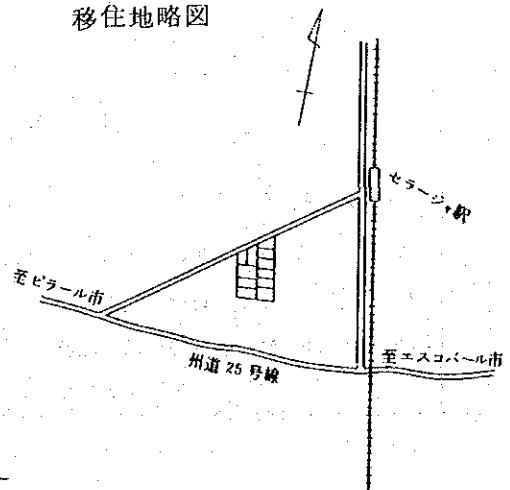
分譲状況	総面積	30.4 ha		
	ロッテ面積	2.7 ha		
	分譲条件および価格	一括払 1,444.5 千円 分割払 頭金144.45 千円 4年据置5年分割払 利息19%		
	分譲可能面積	29.7 ha (11 ロッテ)		
	分譲状況	分譲済面積	保留地	
	29.7 ha (11 ロッテ)	0.7 ha		
	地権取得	11 ロッテ中取得9 ロッテ，未申請2 ロッテ		
		1988年3月末現在		

農業	主作物	バラ，キク，イチゴ
	形態	バラ，キクの花弁園芸を主体とした単一経営もしくは，これにイチゴ，トマト等の蔬菜栽培を加えた複合経営。
	農機具普及状況	トラック0.6台，耕耘機1.0台，動噴1.3台，他(1986年度農家経済調査結果)

地区略図



移住地略図



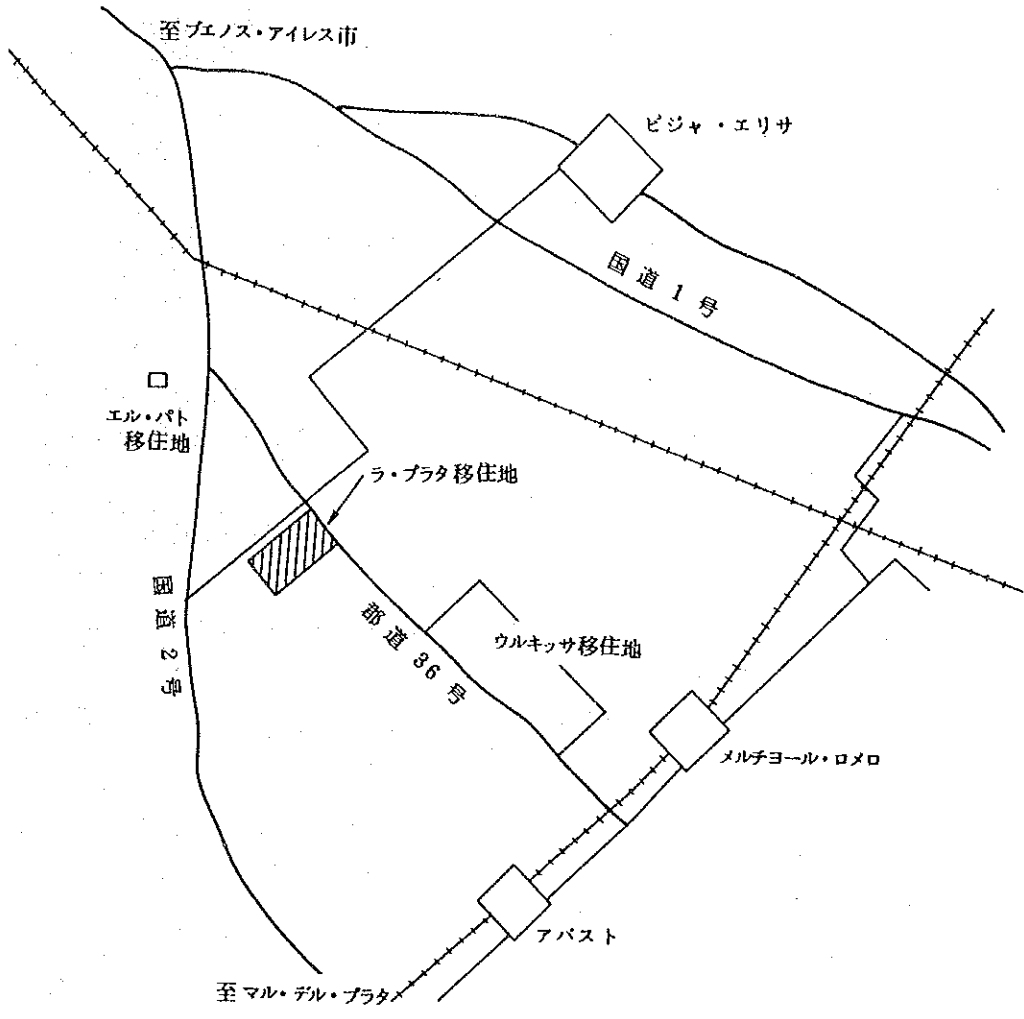


## (9) ラ・プラタ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州ラ・プラタ郡 LUGAR EL PELIGRA PARTIDO LA PLATA PROVINCIA DE BUENOS AIRES	
面積	120ha	
経緯	エスベランサ移住地と同様の経緯，目的で設立された第8号移住地である。入植開始は1975年からで，現在46戸が定住している。	
自然環境	地形	ウルキッサ移住地に陸続する肥沃な土地で全体的に西北西に向って緩い傾斜があるが，ほぼ平坦地で標高28mである。
	地質・土壌	沖積土地帯で表土は黒色をし，相当の有機質に富み肥沃である。表土は30～40cmを有し，それに続く下層は良質の粘土層となり花卉栽培に適した土地である。
	植生・林相	2年前までは乳牛飼育の放牧場として利用し，購入時までにはトウモロコシの耕作をしていた。
	気候	1～2月が最も暑い。最高平均気温21.2℃ 6～7月が最も寒い。最低平均11.7℃ 年平均気温が15.8℃，平均年間降雨量1,076mm，降霜5～9月の間に5～7回程度。 全体的にほぼ平坦であるが，北東側と西北西側には排水溝を有し，余剰雨水及び花卉栽培用の必要水は充分である。
社会環境	主要都市への交通手段	バス：入植地の南西1.5kmの地点に国道2号線が通り，ブエノス・アイレス市ラ・プラタ市間を往復するほか，ローカル線もバスも頻繁に往復している。当地北東側は州道36号に接しておりローカルバス開通の計画がある。 エル・パット町 当地より西北西方約10km メルチョル・ロメロ町 " 北東方約10km アバスト町 " 北東方約10km ラ・プラタ市 " 東南方約25km ブエノス・アイレス市 " 北西方約45km
	市場 地区内道路整備状況 電気 公共施設	大半がブエノス・アイレス市 土道 1977年度に電化された（事業団補助額3,854千円）。 当地隣接地に州立小学校がある。1.5km離れた国道2号線を横断した地点に銀行・商店街があり，入植者の生活必需品の購入には便利である。大きな病

		院, 中学, 大学は約2.5kmのラ・プラタ市に存在する。 ラ・プラタ日語学校 教師1人 生徒41人 公民館			1988年3月現在
入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
	区分		戸数	人数	戸数
	日本人	居住	46	216	46
		非居住	1	-	-
		計	47	216	46
現地人		-	-	-	
1988年4月1日現在					
全戸現地入植者					
主な出身県名: 熊本, 北海道, 長崎, 岡山, 岩手, 高知, 埼玉, 三重, 静岡, 愛媛, 広島 鳥取					
分譲状況	総面積	120.3ha			
	ロッテ面積	2.2ha			
	分譲条件および価格	一括払 1,075千円 分割払 頭金322.5千円 4年据置5年分割払 利息19%			
	分譲可能面積	107.1ha (50ロッテ)			
	分譲状況	分譲済面積		道路市街地等利用地	
	107.1ha (50ロッテ)		13.2ha		
	地権取得	50ロッテ全て未取得			
1988年3月末現在					
農業	主作目	カーネーション, バラ, キク			
	形態	カーネーション, バラ, キク等花卉園芸経営の単一経営			
	農機具普及状況	トラック0.5台 耕耘機0.6台 トラクター0.9台 動噴1.1台他 農用冷暖装置0.2式 (1986年度農家経済調査結果)			
	営農援護機関	事業団アルゼンティン園芸総合試験場, IMTA Delta 試験場			
	金融機関	銀行, 事業団			
	主作物販売取扱機関	アルゼンティン花卉産業組合			
移住地内日系団体 コロニア・ラ・プラタ日本人会がある。					

地区略図



(10) グレウ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州アルミランテ・ブラウン郡 GLEW, PARTIDO DE ALMIRANTE BROWN, Pcia. DE BUENOS AIRES	
面積	75 ha	
経緯	エスベランサ移住地と同様の目的、経緯で設立された第9号移住地で、入植開始は1977年である。	
自然環境	地形	中心よりやや西寄りを頂点として皿を伏せたような形で、四方にゆるやかな傾斜をなす平坦地である。標高平均29m
	土質・土壌	沖積土地帯で、表土は黒色を呈し、可成り有機質に富み肥沃である。表土は40cmを有しそれに続く下層は、良質の粘土層となり花卉栽培に適した土地である。
環境	植生	牧草原野、自然育生の樹木はない。
	気候	気温 年間平均16.1℃ 最高平均22.0℃ 最低平均10.5℃ 雨量年間1,016mm 降霜5月～9月の間に平均18回程度
社会環境	主要都市への交通手段	ブエノス・アイレス市からグレウ市までは、鉄道、バスが頻繁に往復している。 グレウ駅から、入植地より約500mの地点まで30分毎にバスが往復している。 入植地より約500m地点までの道路は舗装されている。
	市場	大半がブエノス・アイレス市
環境	地区内道路整備状況	土道
	公共施設	移住地内には特にないが、当事業団の園芸センターが設けられている。 グレウ市までの途中で診療所がある。近傍都市には医療施設完備。 移住地に隣接する住宅街地区内約2kmのところ小学校がある。 グレウ日語学校 教師2人 生徒9人(1985年7月現在)

入植世帯数	入植数 区分		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
	日本人	居住	16	70	16
		非居住	2	-	-
		計	18	70	16
現地人		-	-	-	

主な出身県名：長崎，秋田，群馬，山口，大阪，熊本，岩手，福岡

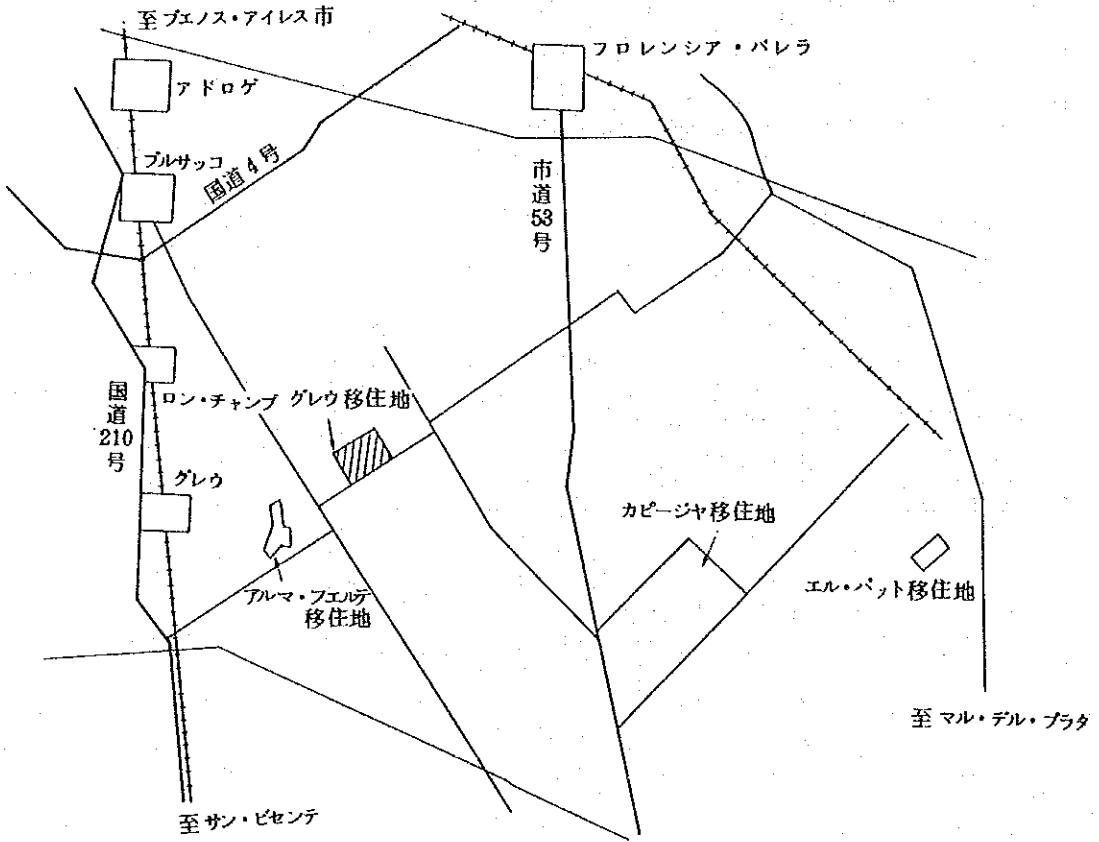
全戸現地入植者

1988年4月1日現在

分譲状況	総面積	75ha	
	ロッテ面積	2.9ha	
	分譲条件および価格	一括払 2405千円	
	分譲状況	分割払 頭金481.1千円 3年据置3年分割払 利息19%	
		分譲可能面積	62.3ha (21ロッテ)
		分譲済面積	道路公共用地
		62.3ha (21ロッテ)	12.7ha
地権取得	21ロッテ中取得4ロッテ，未取得17ロッテ		1988年3月末現在

農業	主作目	カーネーション，キク，トマト，
	形態	カーネーション，キク，バラの花弁と野菜との複合経営
	農機具普及状況	トラック0.3台 耕耘機0.8台 トラクター0.6台 動噴1.3台他 (1986年度農家経済調査結果)
	営農援護機関	
	営農指導	事業団アルゼンティン園芸総合試験場 INTA FLORENCE VARELA出張所
金融機関	事業団，銀行	
主作物販売取扱機関	アルゼンティン花卉組合	

地区略図



(1) 第2エル・パット移住地

所在地	ブエノス・アイレス州 ベラサテギ郡 RUTA2 DE NACIONAL, PARTIDO DE BERATEGUI, PCIA. BUENOS AIRES				
面積	37ha				
経緯	エスペランサ移住地と同様の経緯, 目的で設立された第10号の移住地である。				
自然環境	地質・土壌 植生・林相 気候	エル・パット移住地(第5号)の隣接地であり, 環境等同じ条件にあるので, 同移住地の項を参照。			
社会環境	主要都市への 交通手段 市場 電気 飲料水 公共施設	同上			
入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
	区分		戸数	人数	戸数
	日本人	居住	9	42	9
		非居住	2	-	1
		計	11	42	10
	現地人	-	-	-	
主な出身県: 山口, 香川, 島根, 高知					
1988年4月1日現在					

分 譲 状 況	総面積	37.2 ha	
	ロッテ面積	2.8 ha	
	分譲条件および価格	一括払 3,827千円 分割払, 頭金30%, 据置なし, 3年分割払, 利息19%	
	分譲可能面積	33.9 ha (12ロッテ)	
分 譲 状 況	分譲済面積	33.9 ha (12ロッテ)	道路市街地等利用地 3.3 ha
	地権取得	12ロッテ中取得2ロッテ, 未取得10ロッテ	
1988年3月末現在			
農 業	主 作 目	カーネーション, キク.	
	形 態	カーネーション, キク等花卉園芸経営の単一経営。	
	営農援護機関		
	営農指導	事業団アルゼンティン園芸総合試験場	
	金融機関	銀行, 事業団	
主作物販売取扱機関	アルゼンティン花卉産業組合		

地区略図

移住地略図

